



わかっているはず

もう

桃太さん

桃太さんがしたいことと

この鈴鹿がしたいことは

同じです

鬼の嫁

おに

よめ

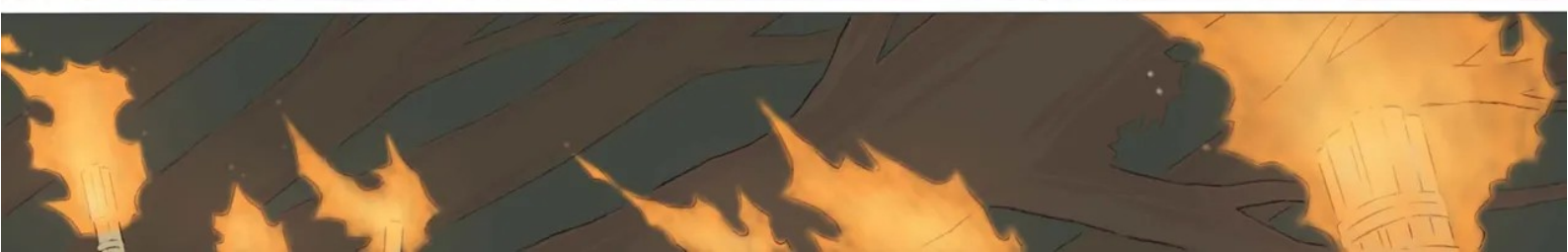
カラー122ページ

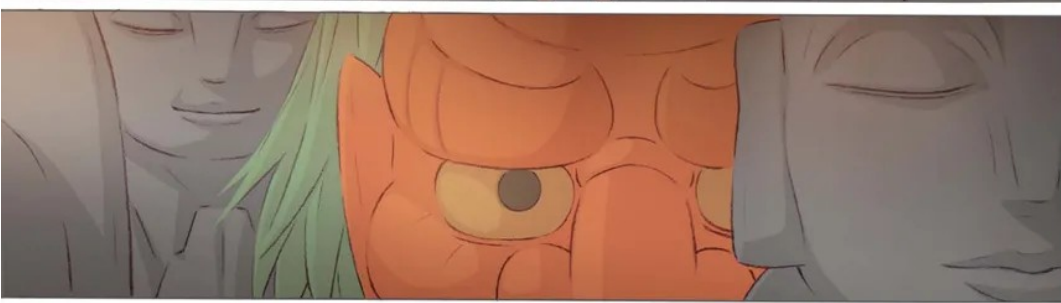
ほんふぁーず

鬼の嫁

来た！

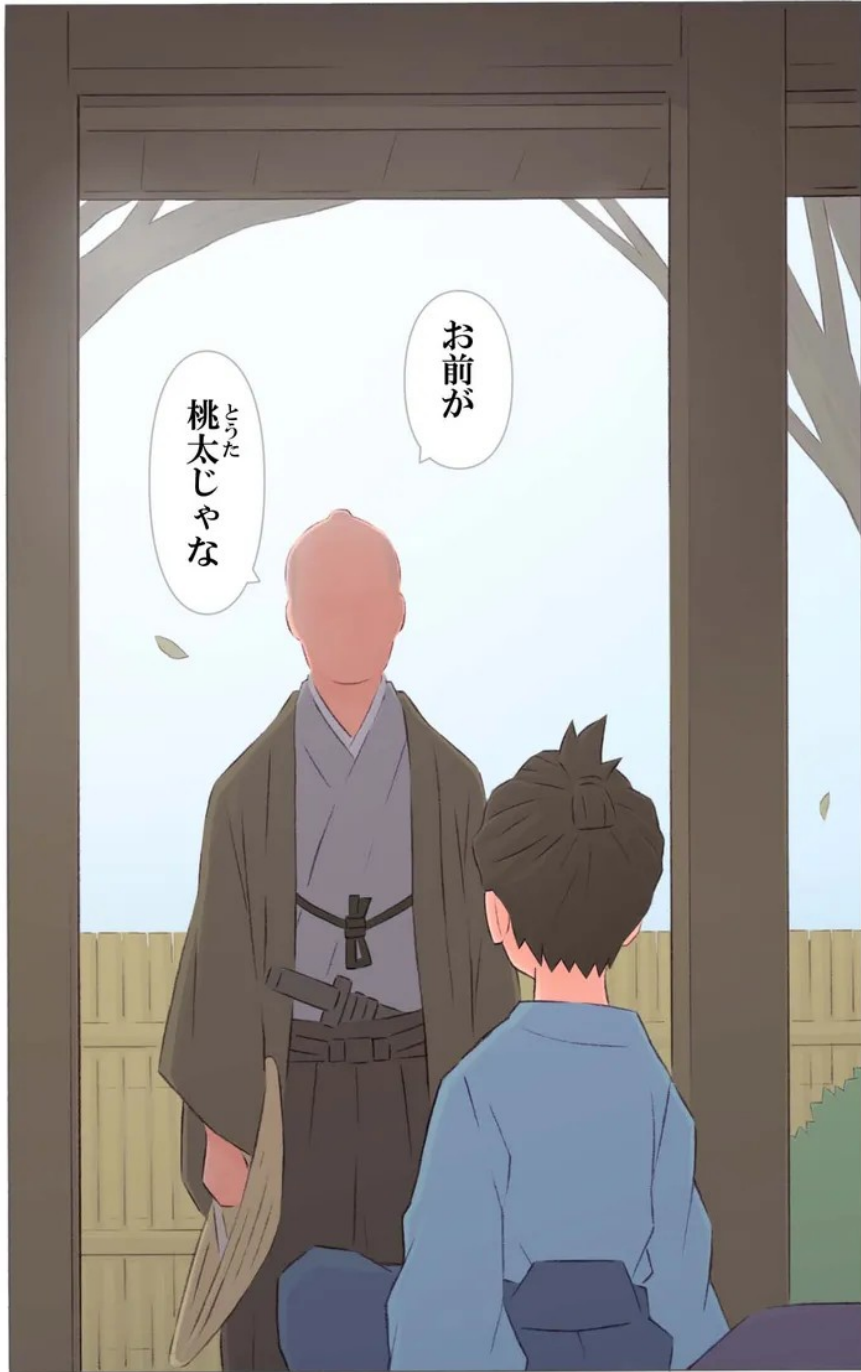
...

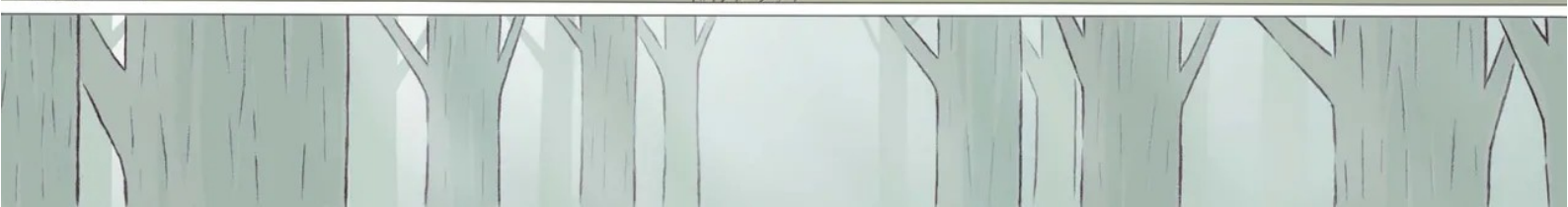




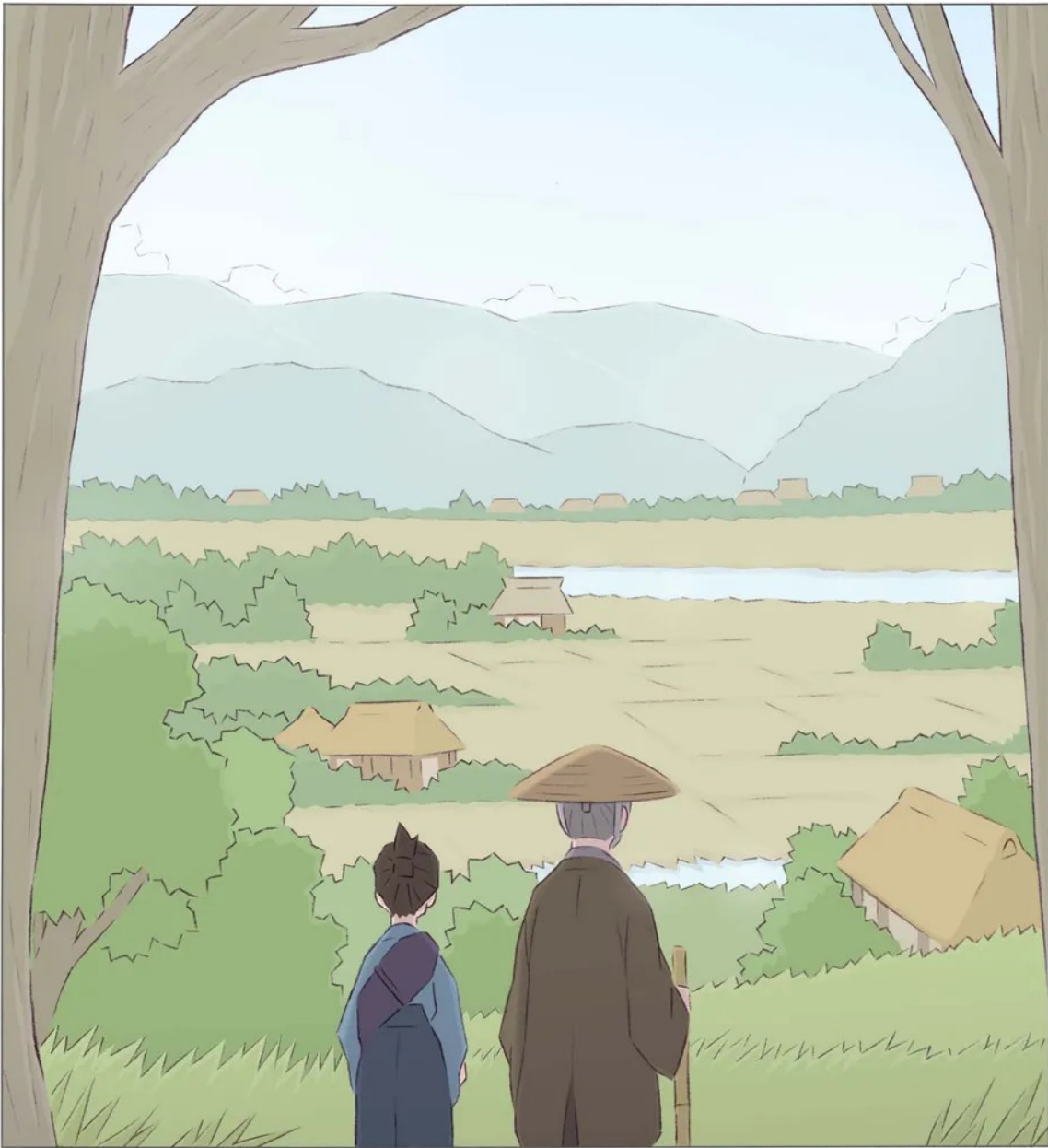
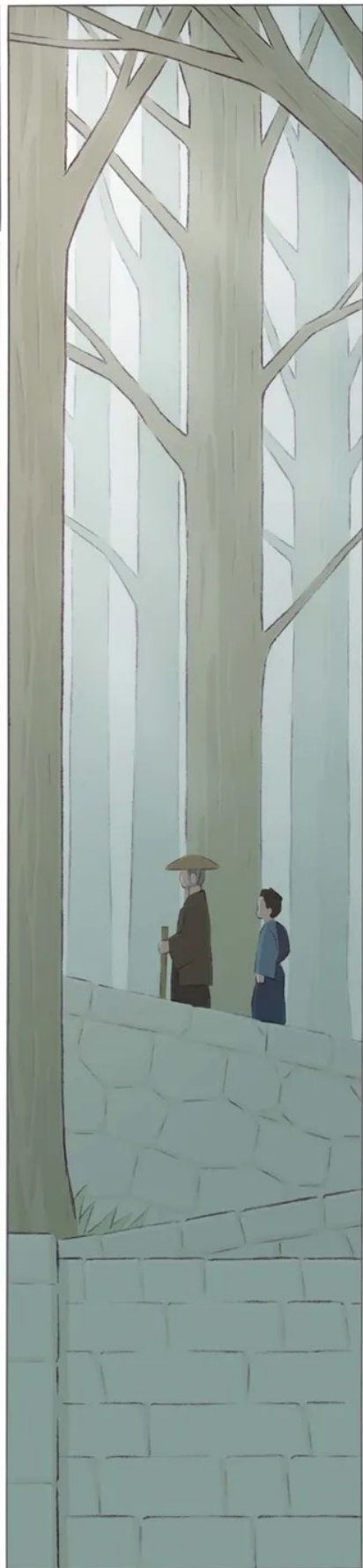








鎧ヶ淵じゃ





皆は
...

わしは桜屋敷と
呼んでおるのじゃがな



見事じゃろう



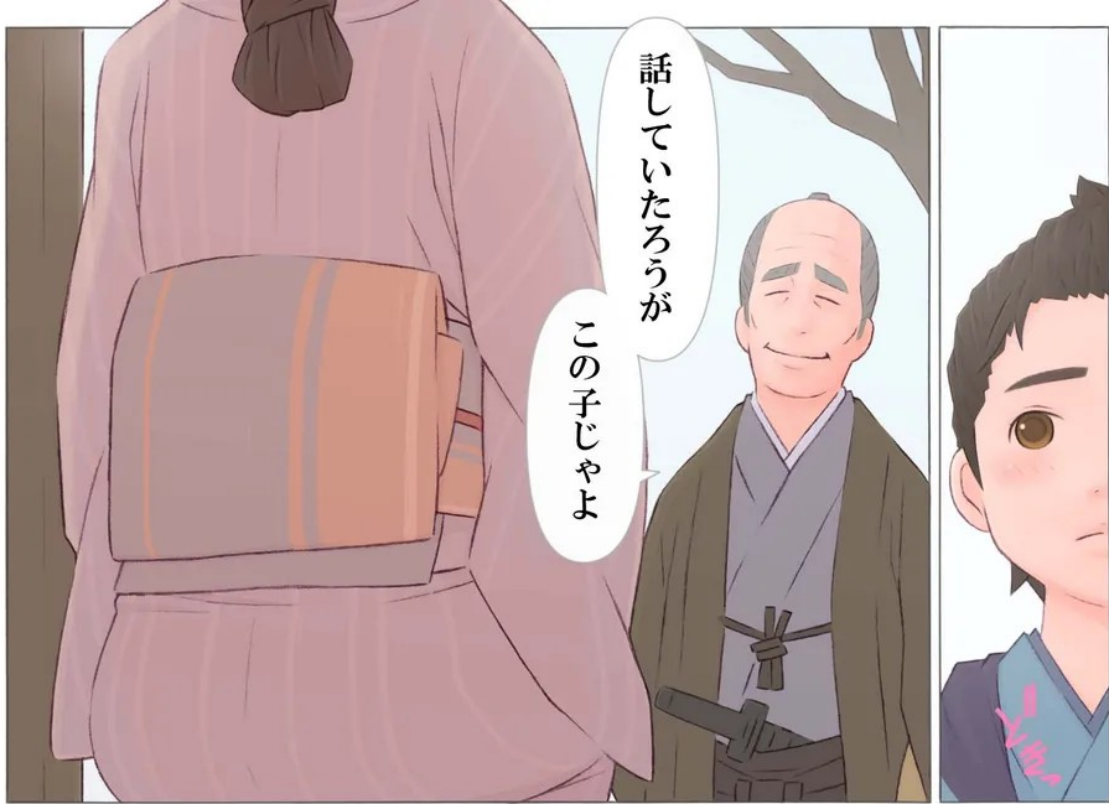
舞・・・
でも
どこか
変だ



鈴鹿

ち
父上
見て
いたのですか
ホッホ

!









お湯加減は

いかがですか

あ

はい

だ

大丈夫

です

そう

ですか

桃太さん

知っていましたか

!

...



男の体から疲れをとるには

こうして

女の指で揉みほぐすのが

一番よいのです

...



!

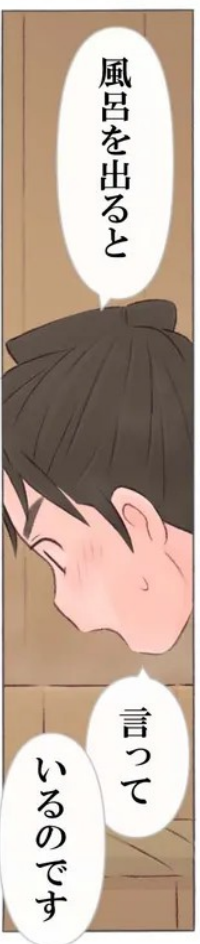


わかりました

はい

こっちを向いていますから

どうぞ



風呂を出ると

言って

いるのです



もう

出ます

から



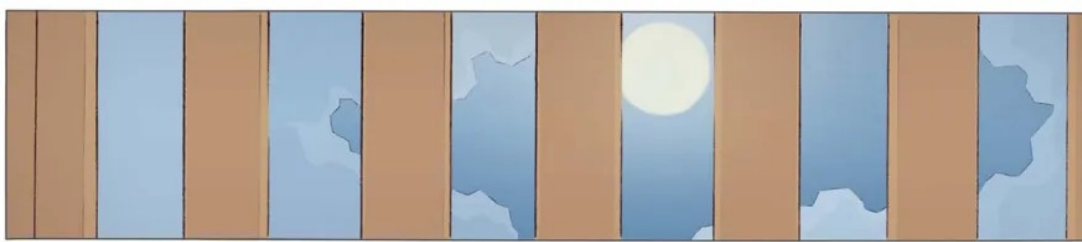
もう

いんです



はい

桃太さん



桃太さんのお部屋に案内しますから

あ

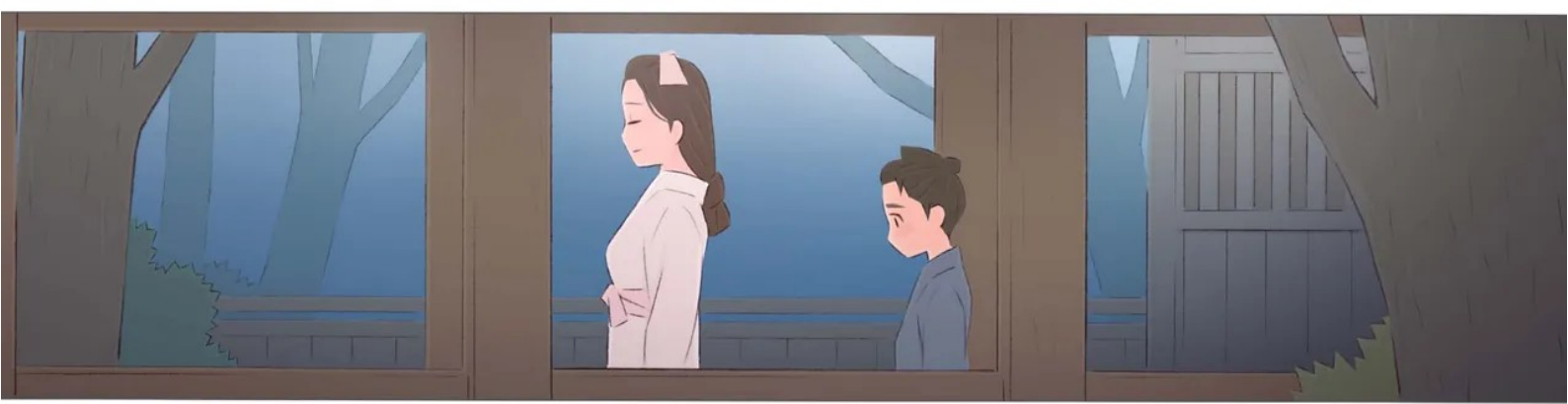
はい

待っていてください



さ

ごきげんよう





一緒に

桃太さん

はい

寝ましょう



鈴鹿

...

様？

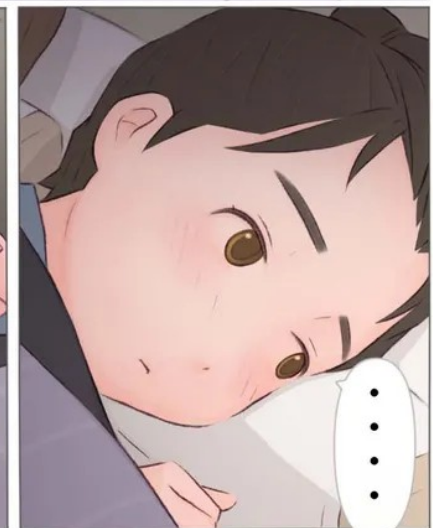


ありませんか

寂しくは



桃太さん



...

平気です

本当に

ない？

寂しくは

本当

に？

...

寂しかったら

いいんですよ

鈴鹿に

甘えて

うわぁ！





あ

甘えて・・・

フフ

で
ですから
寂しく
など
私は

ない
と

鈴鹿
様
・・・

甘えて
ください
あ
あの

・・・

連れて行け
桃太を
うむ
酒を
鈴鹿



桃太さん

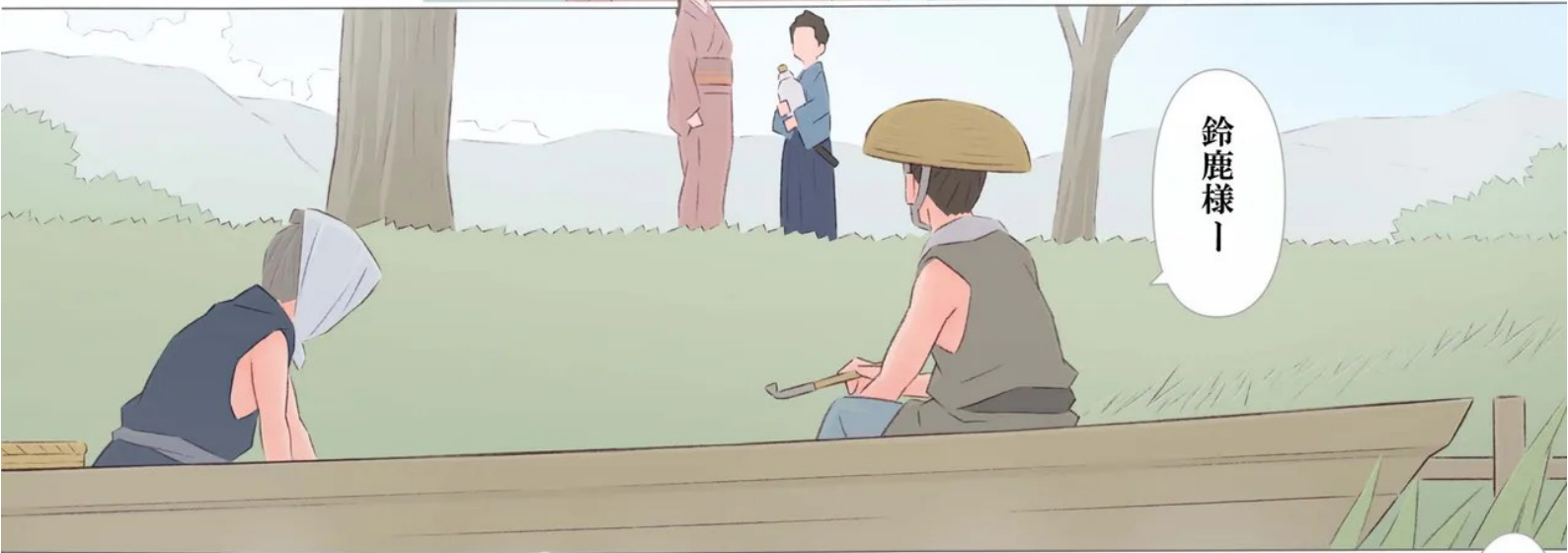
昨日...

一緒に寝たことは

秘密

ですよ

はい



鈴鹿様ー



今年の夏は

どうなさるね

どうしましょ

そうですね

おら

前からよお

こら

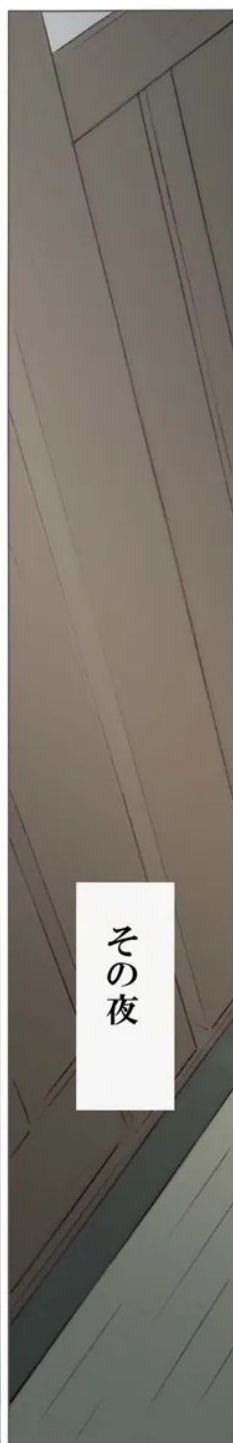
おい

調子にのるな

わかったよ

わ





桃太も

また

夜を

鈴鹿の訪問を

それが

「快感」

本能が

激しくそれを求め始めている

ということ

気が遠くなるような

というものだ

待ち焦がれるほどに

なっていた

そして

知ったのだ

感覚

...



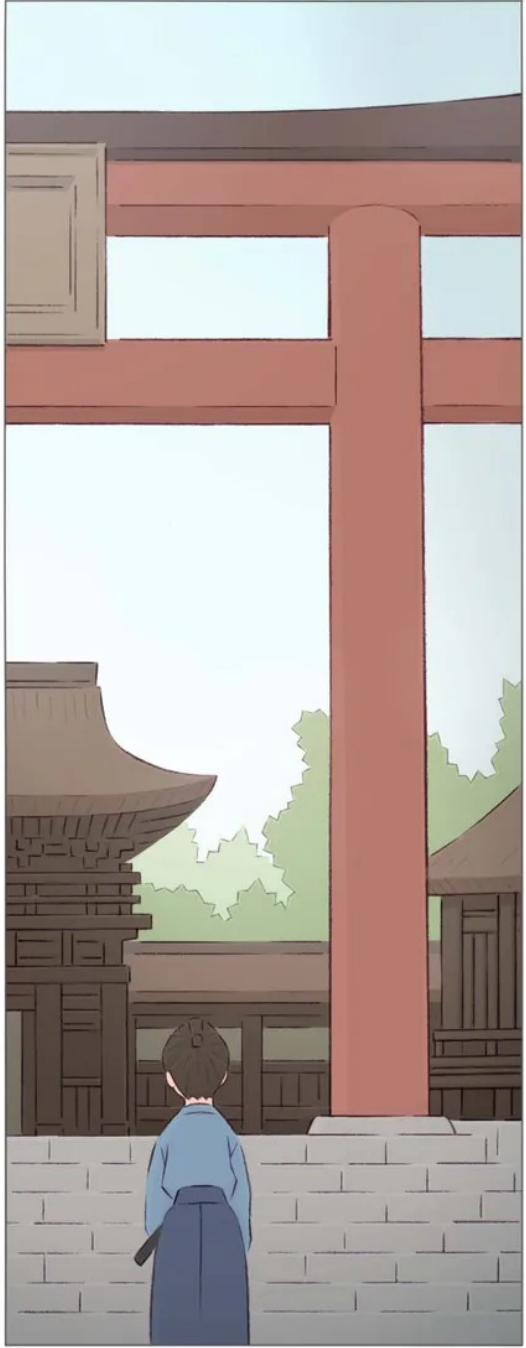


ここだよ

>>



桃太!



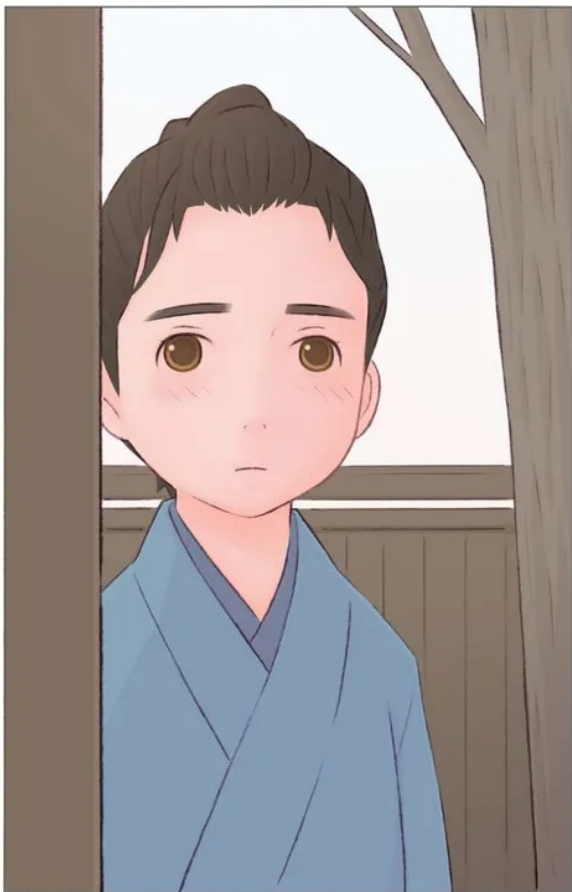
こっちに
来いよ

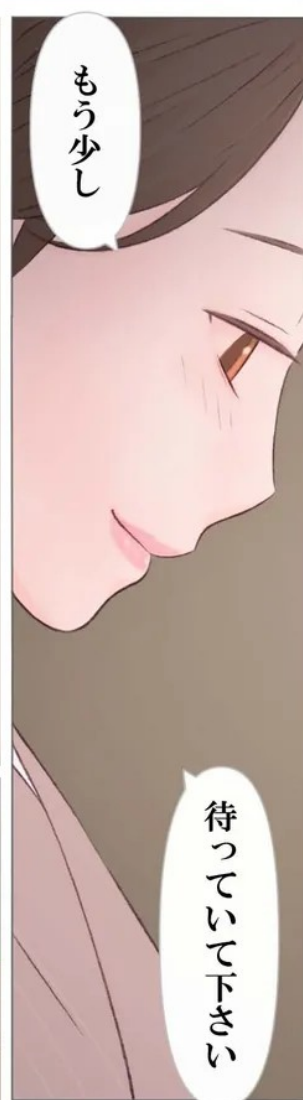
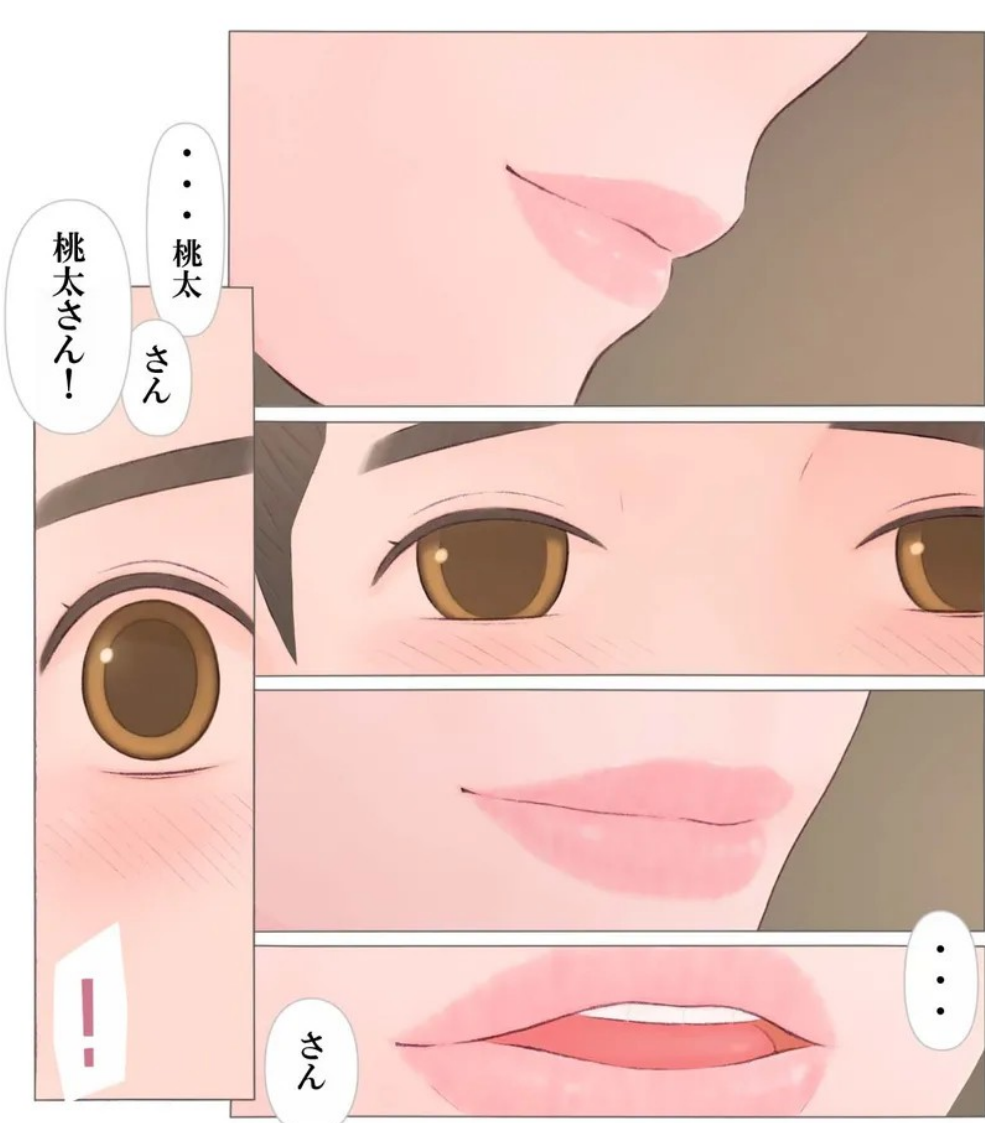
いいから

待たせた?









鈴鹿

考えて

くれたか

・・・はい

今しばらくは

こちらに

お

そうか

ホホ

・・・

そうか

よし

あ

あの

先生

なんじゃ

夏に

この村では

何か特別なことが・・・

あるのですか

特別？

祭りのことか

おお

鬼追い

か

まだ

話してなかったか

この村の祭りはな

鬼追い

と

呼ばれておってな

何百年も昔から続く

古い

古い祭りよ

女達は踊り

男達は

鬼となって

女達を追う

そして

気に入った女を

連れ去っていくのよ

連れ……

去る？

ホホ

そうじゃよ

鬼に連れ去られた女はな

一晩を

その鬼と共にせねばならん

ホホ

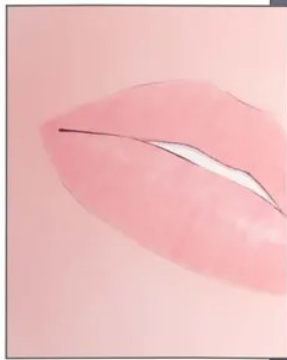
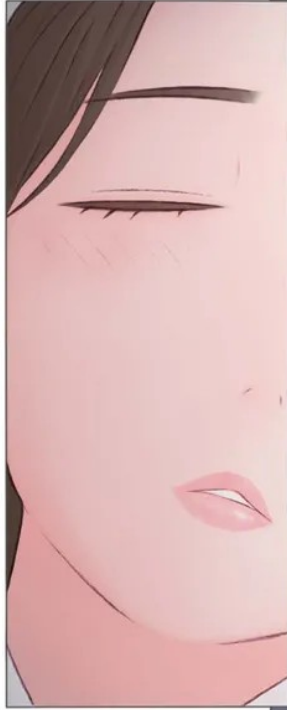
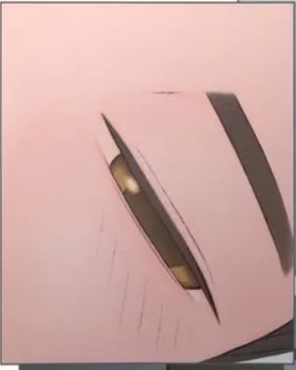
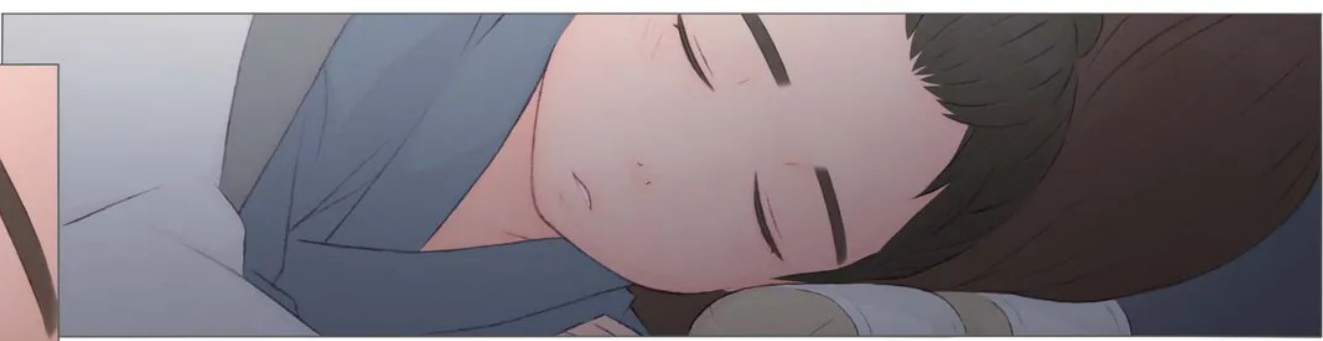
どういう事かわかるかな

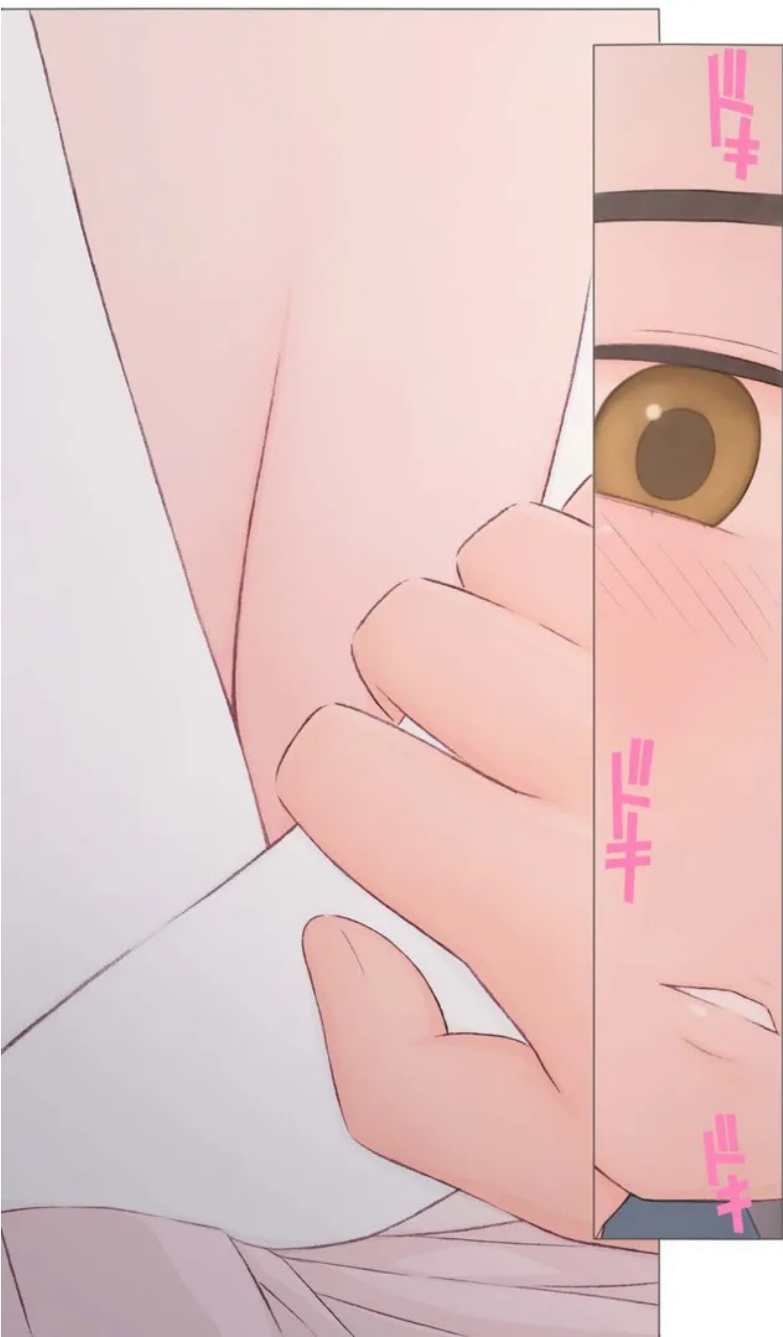
わからんか

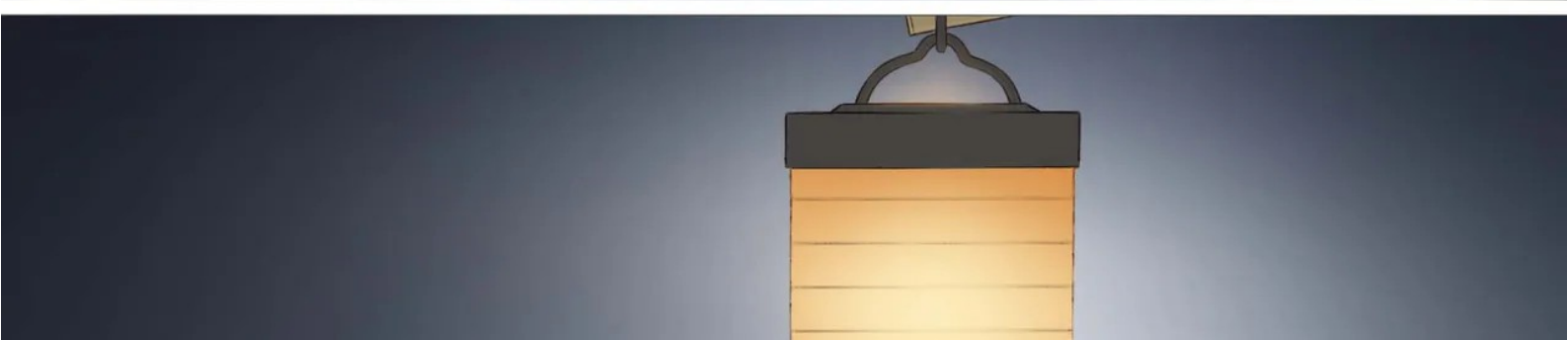
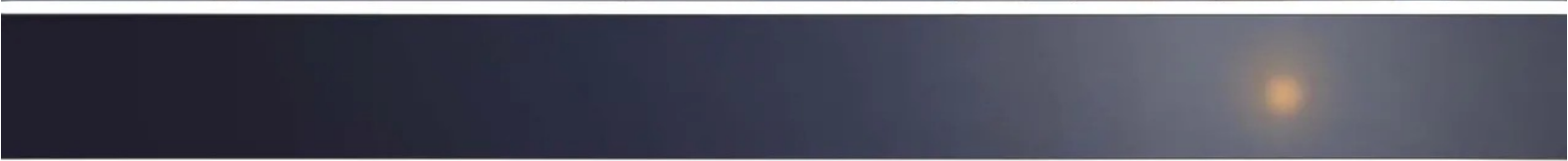
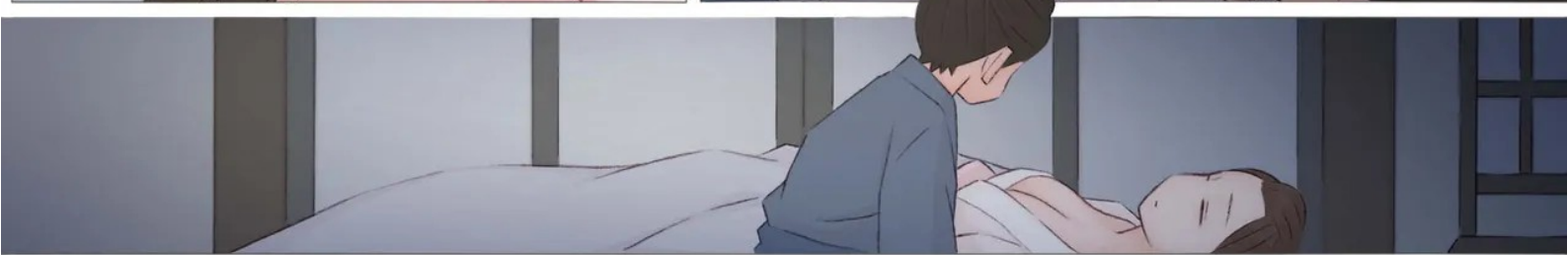
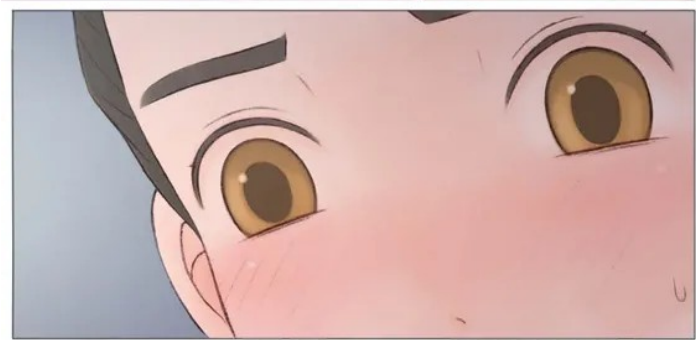
ホホ

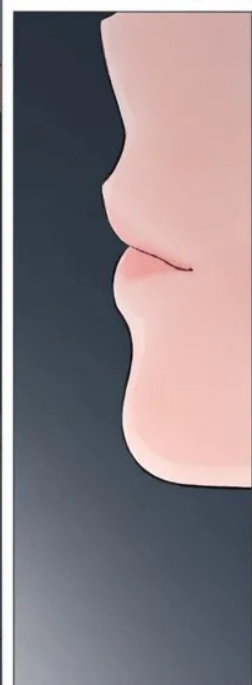
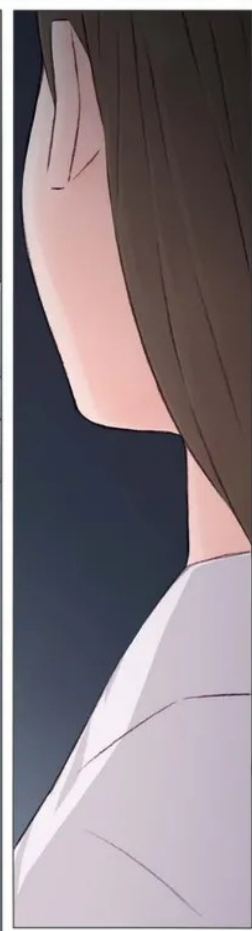
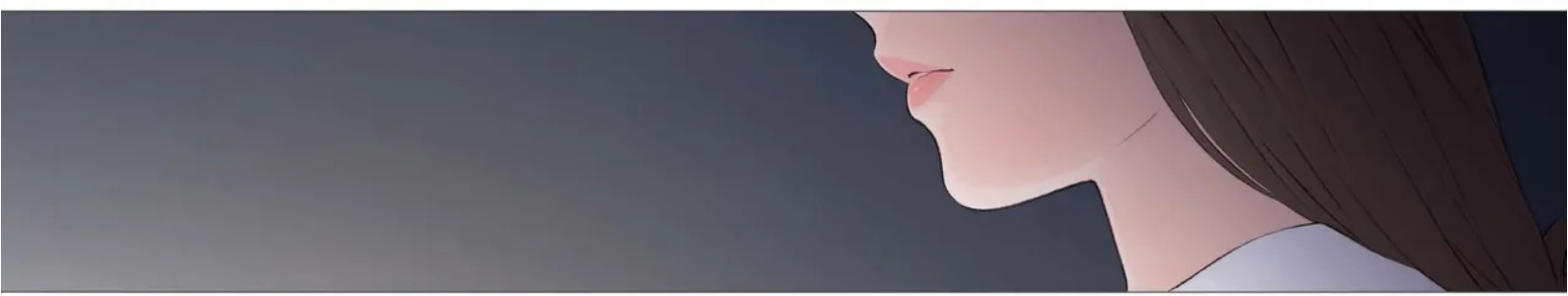
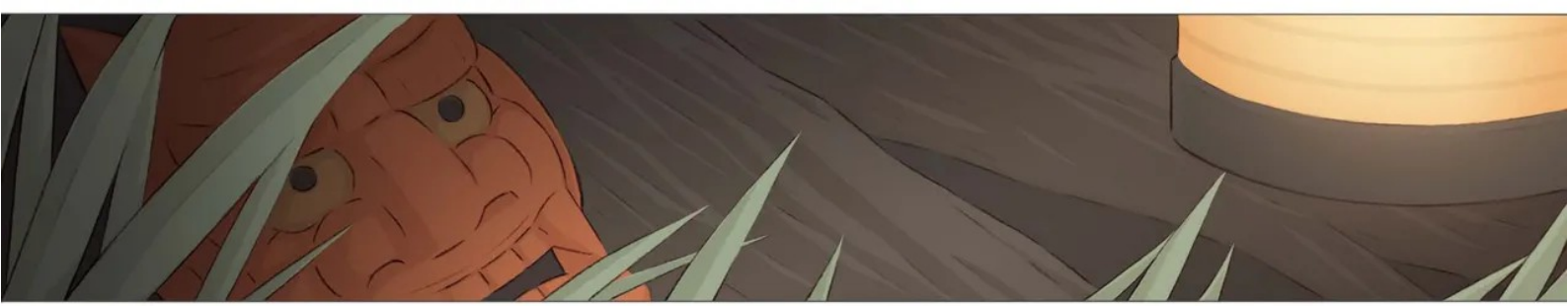
……

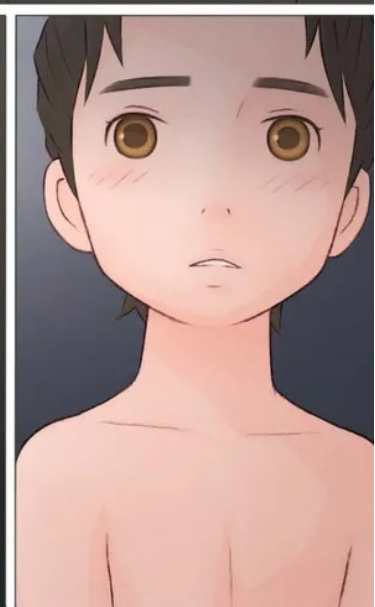
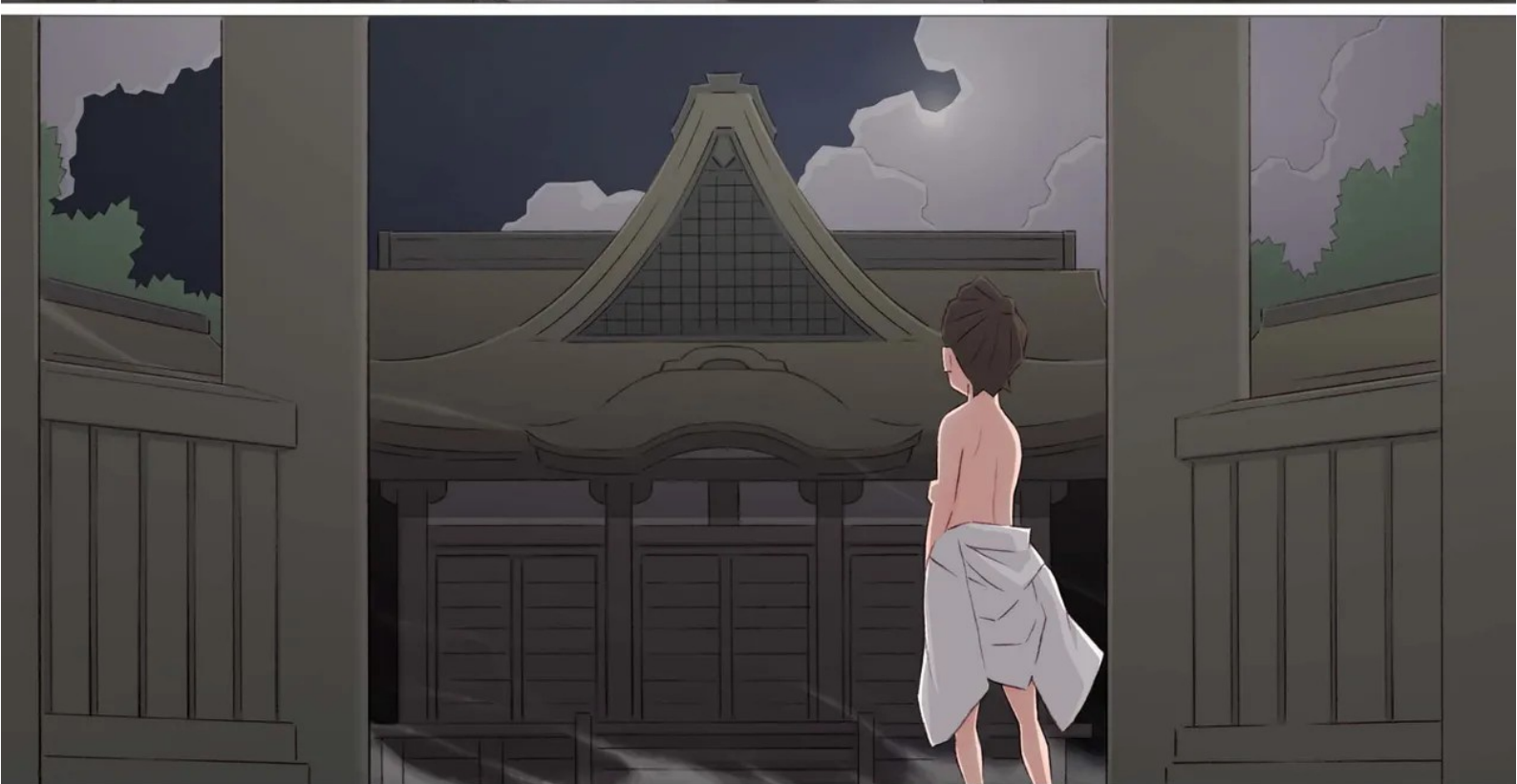
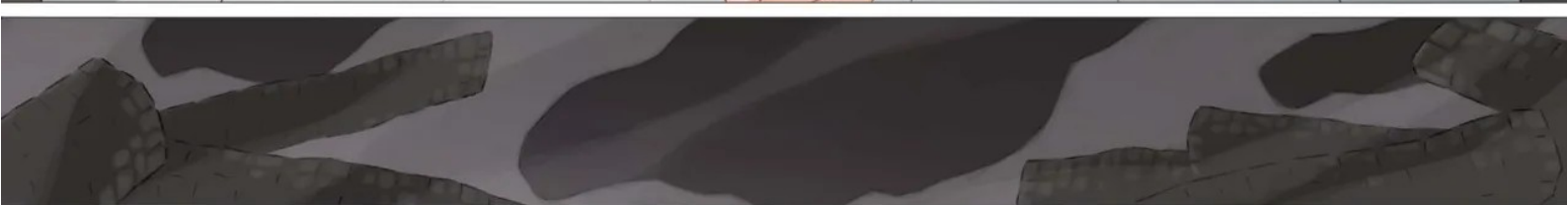


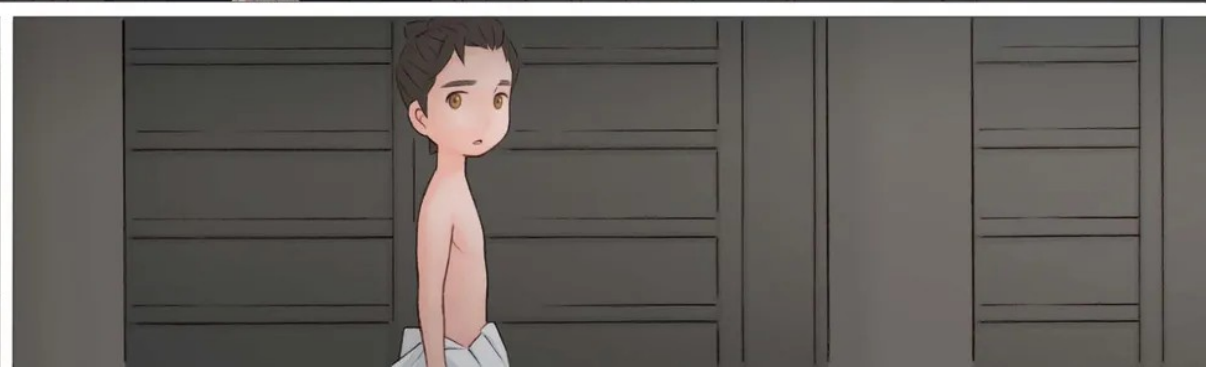
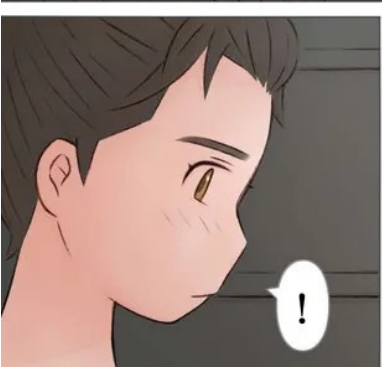
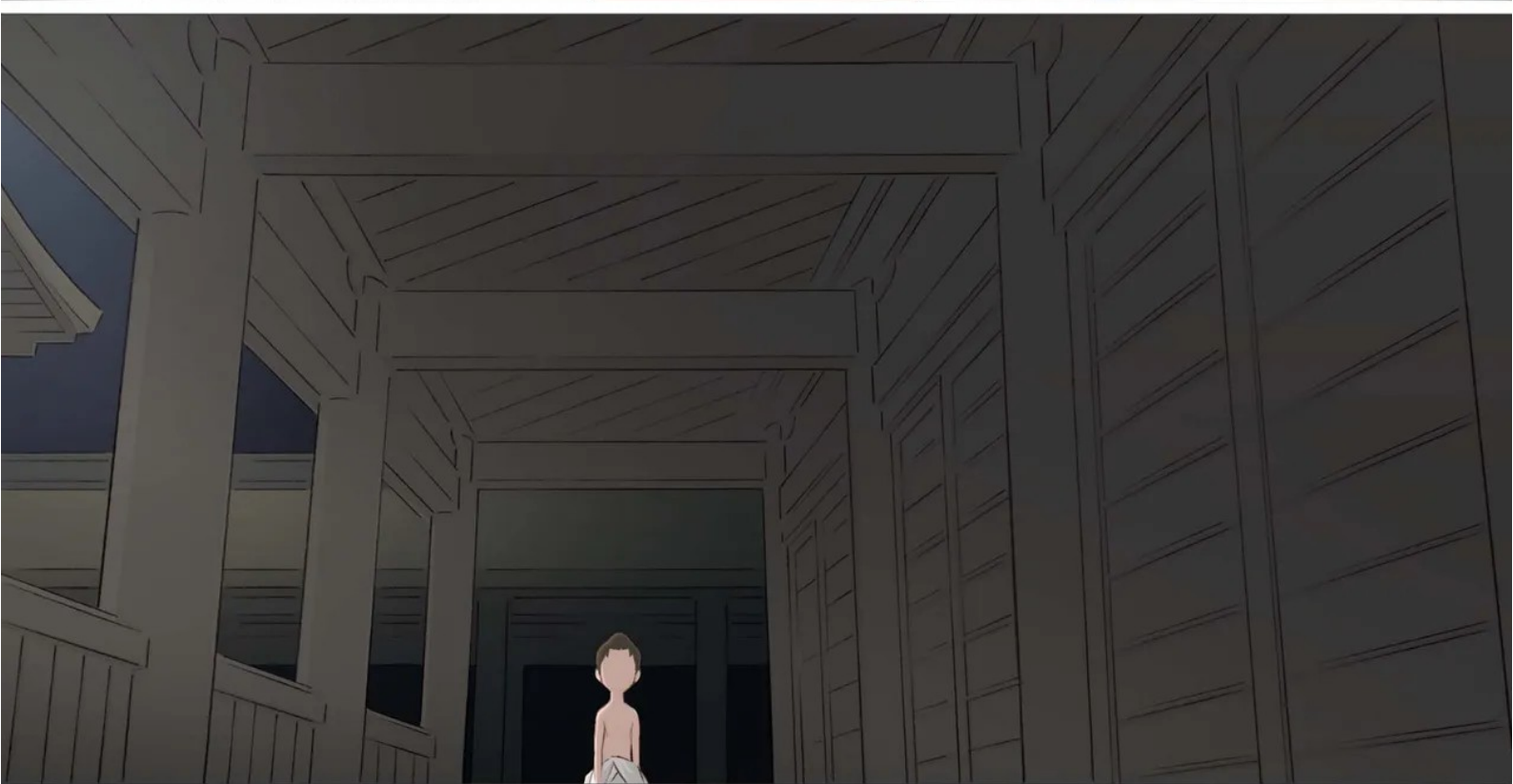
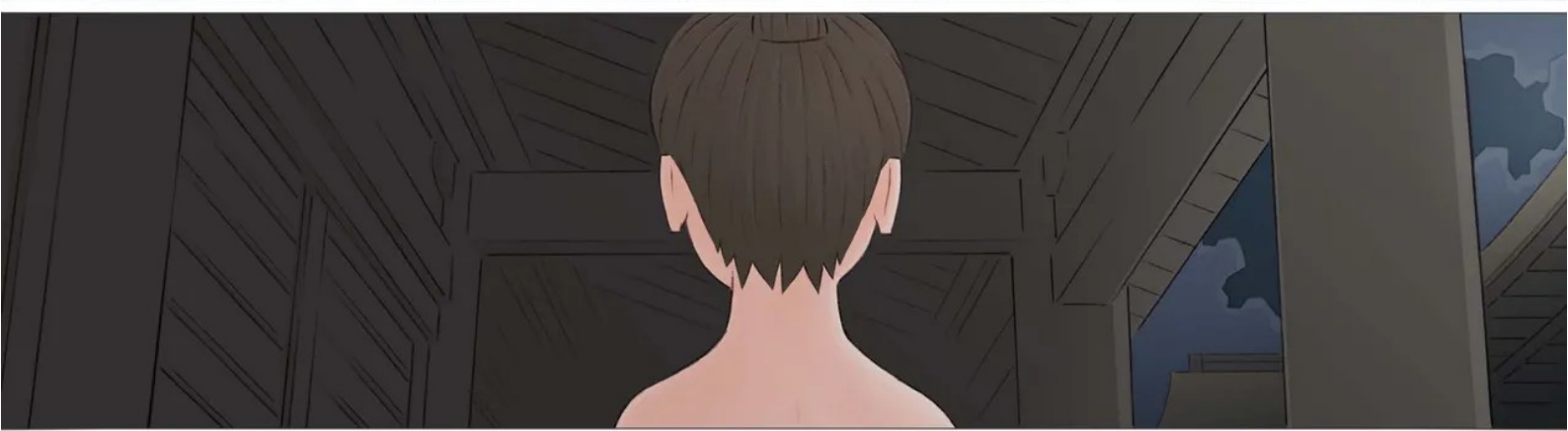


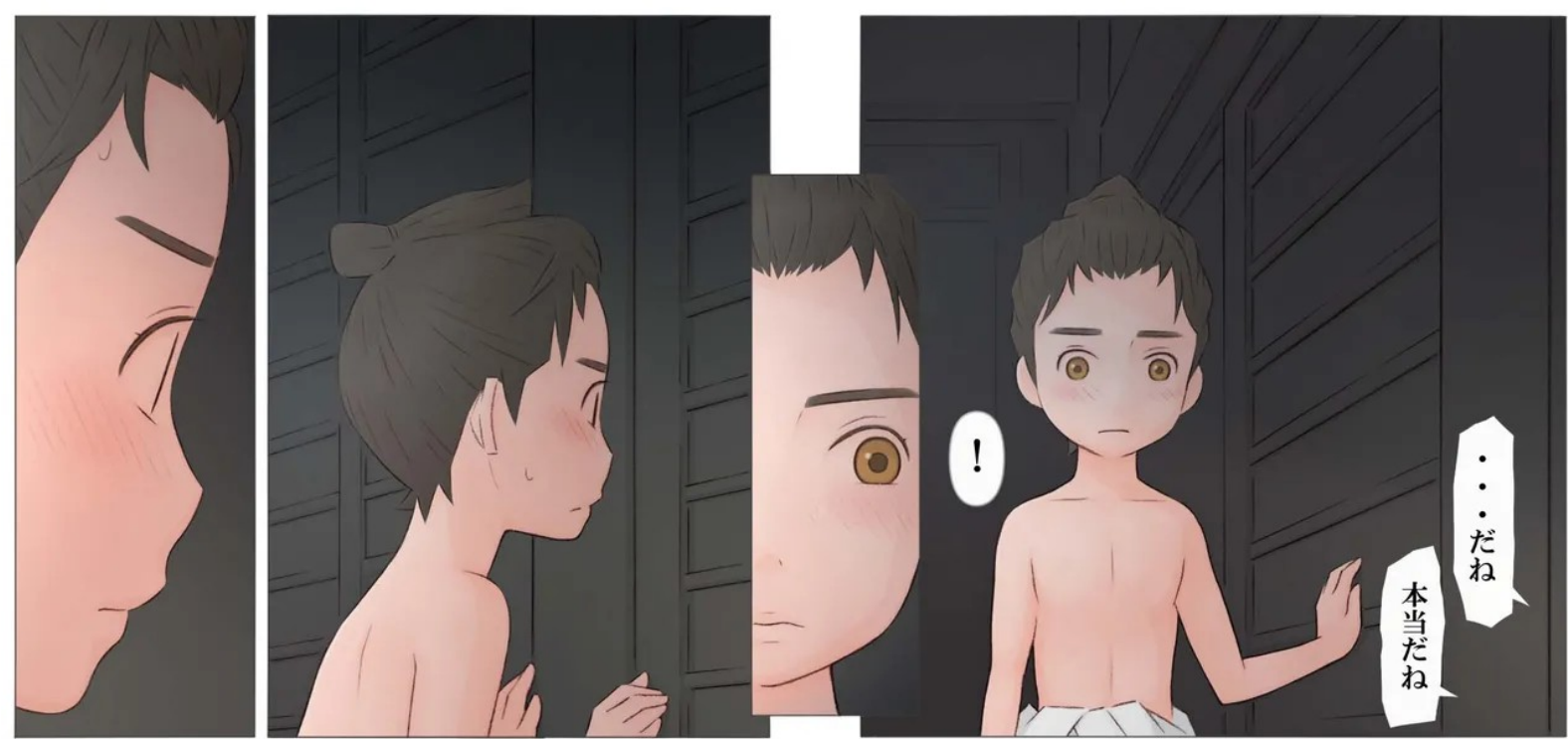


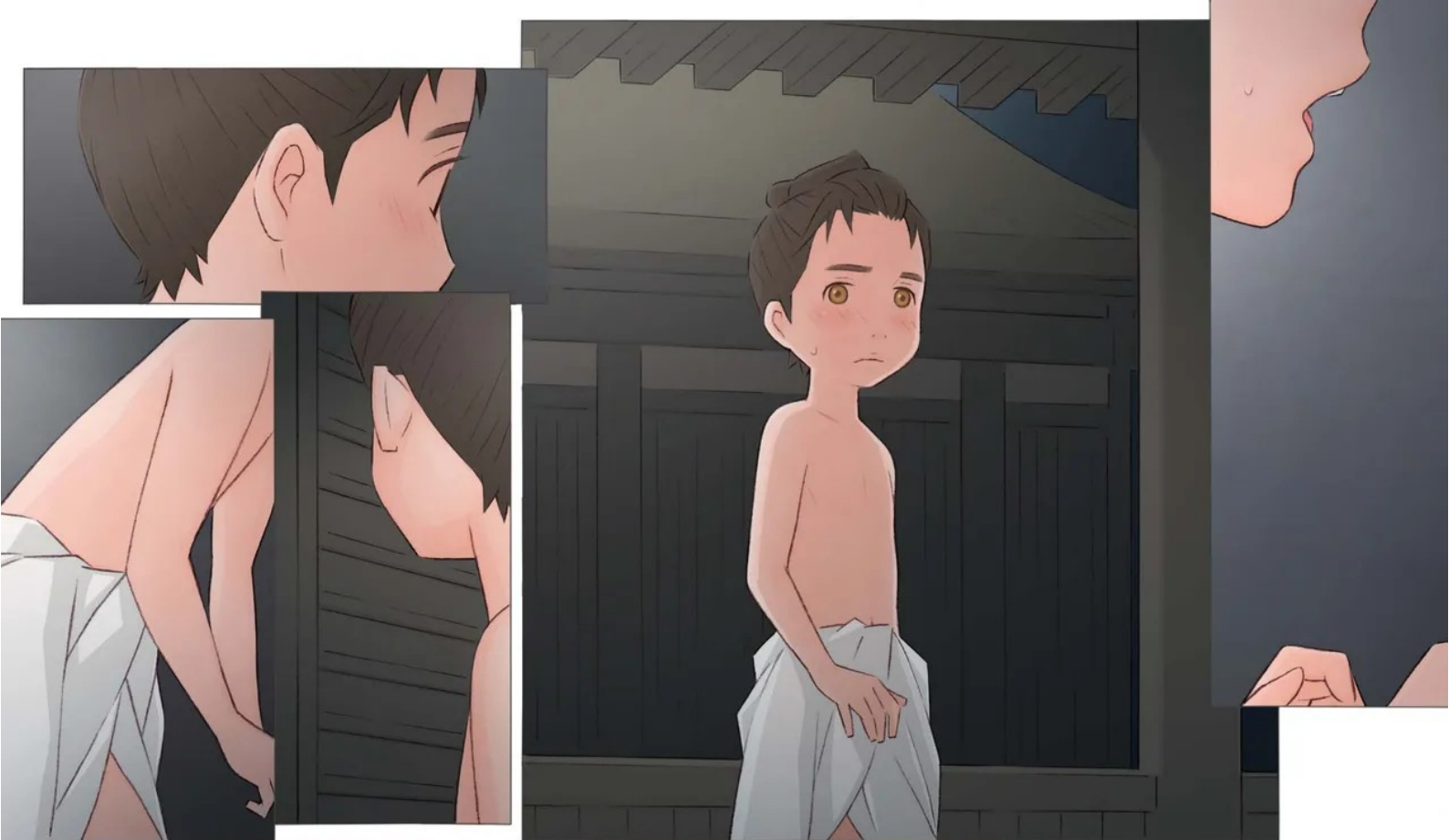












なにを...

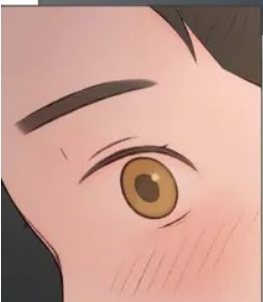
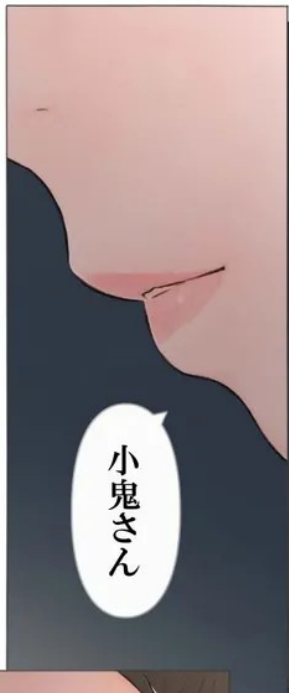
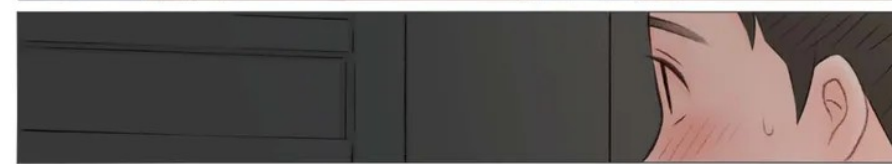
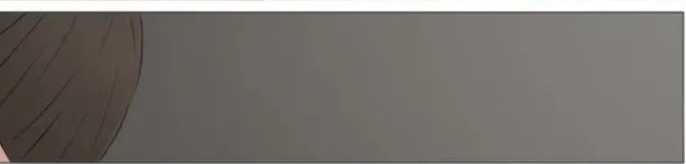
他のいい男に口説かれたら
そっちに転ぶんだろ

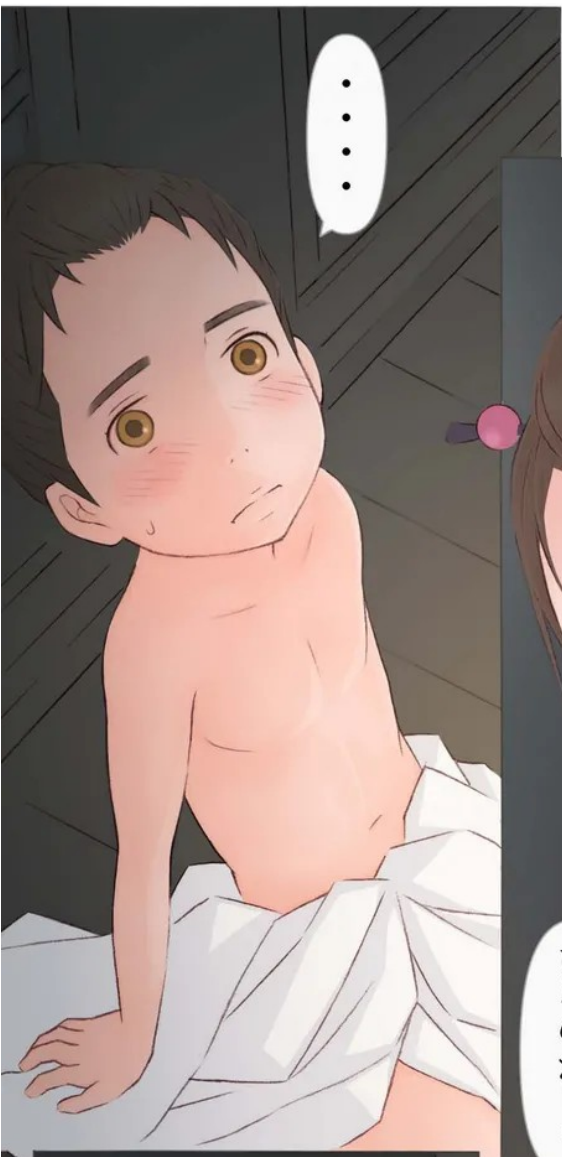
私のこと
見捨てたら
許さないよ

アア
イイ

もっと
もっと
突いて

!





...



どうしてこんな所に

小鬼さんが
いるのかしら



ついできて

小鬼さん

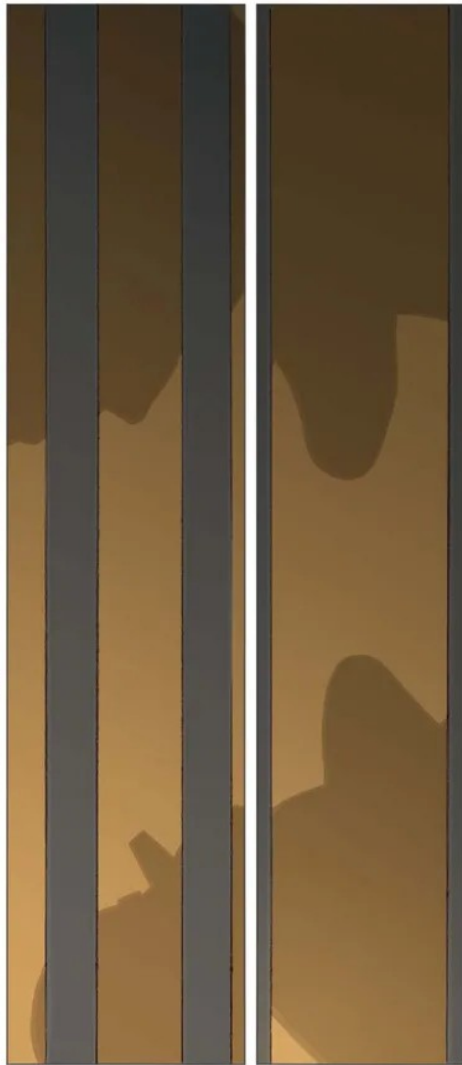
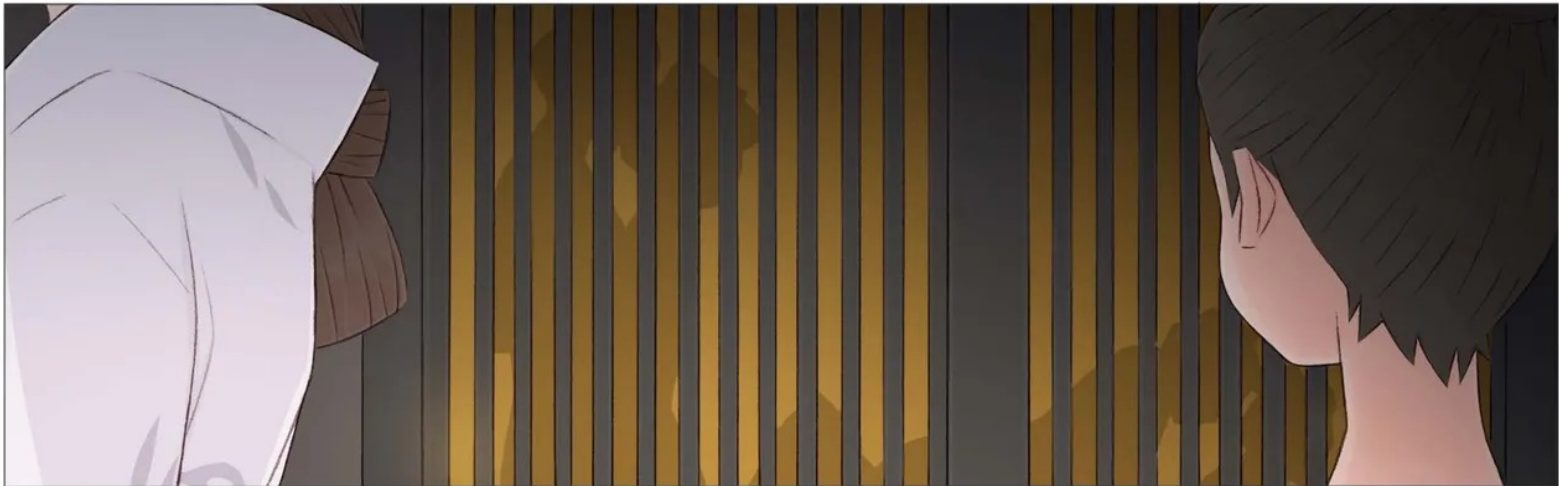
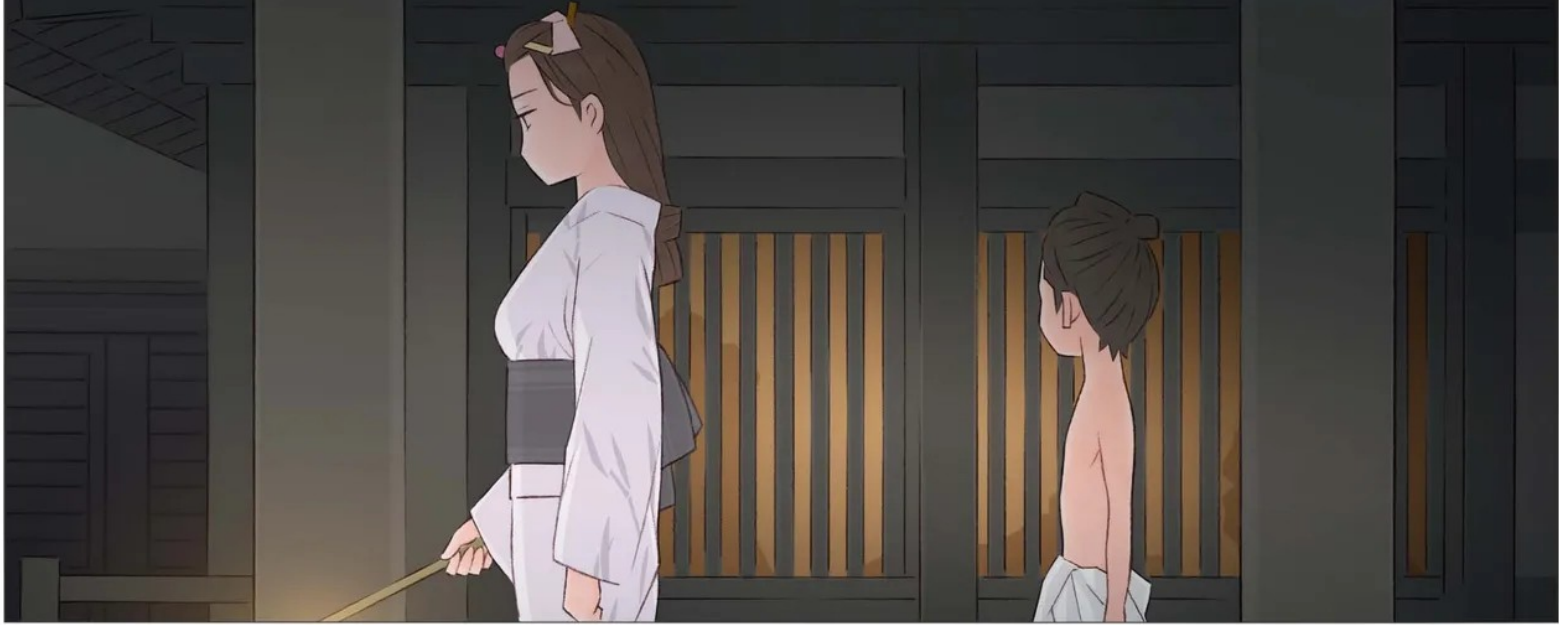


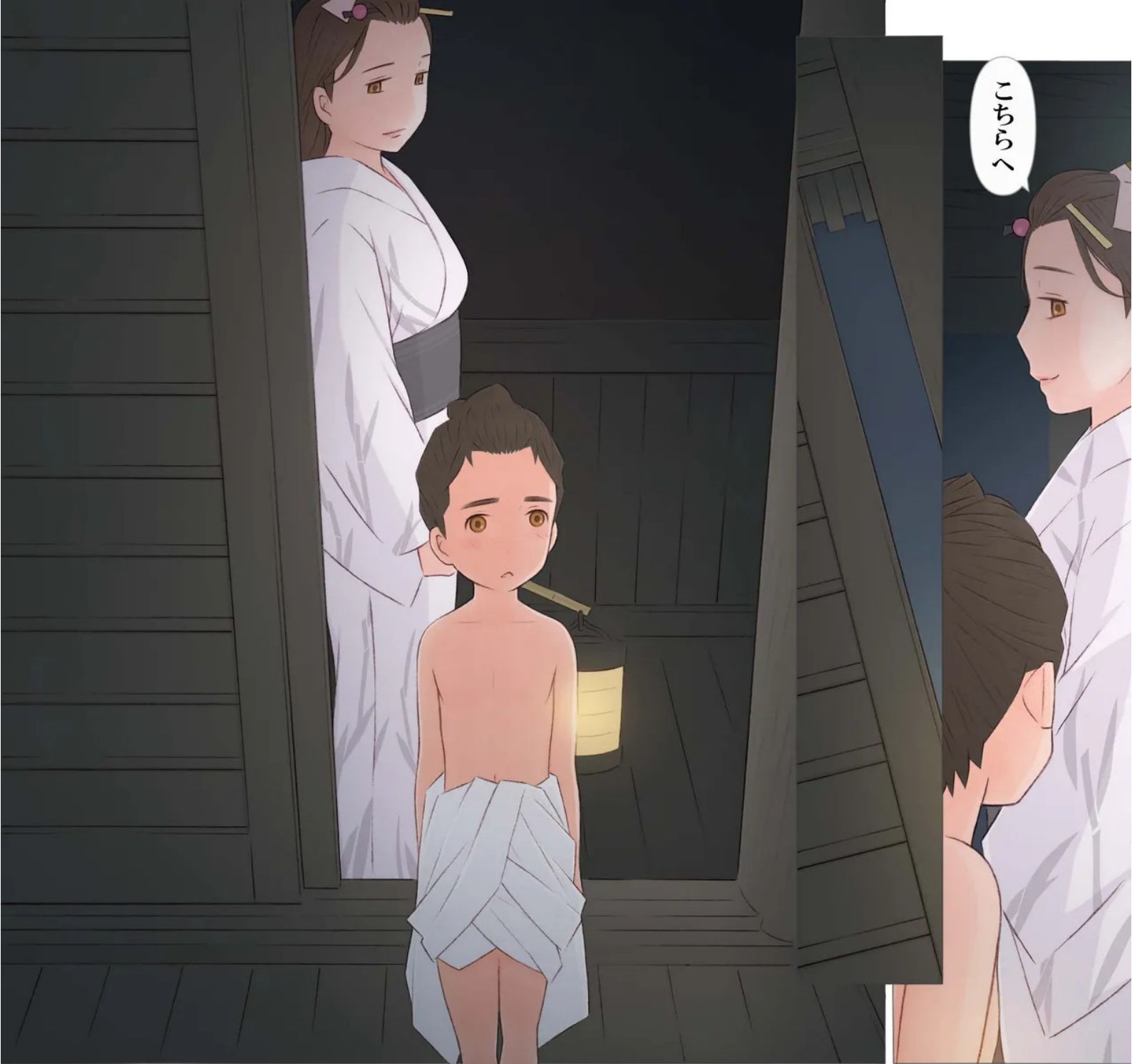
早く

立ちなさい

何をしているの









桃太さん

鈴鹿は驚きました

若集入り前の男は

鬼追いに加われぬ掟

はい

その掟を

破るなんて

それほどに

想う女が

いたのですか

……!

その

そ

それは

あ

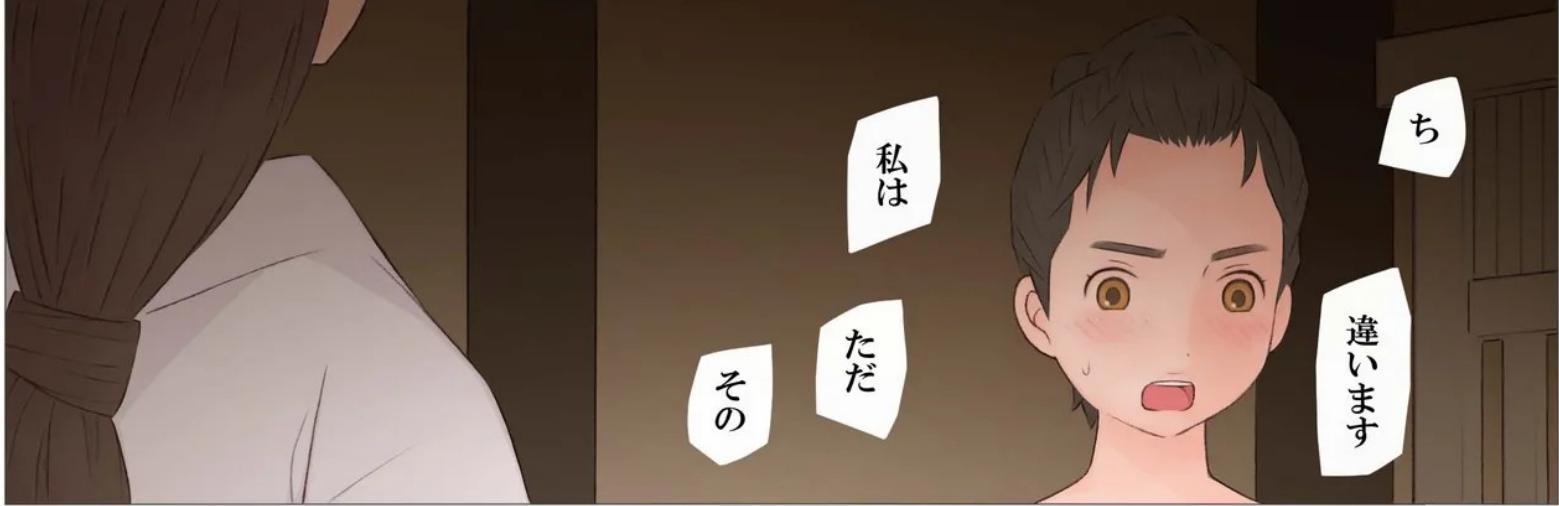
……

もしや

それは

私?

!



ち

私は

違います

ただ

その



!



まあ

それでは

女なら

誰でも良かった

のですね



なんて

バカなの

何も

分かって

なかった



女

など

……

あ



こんなことは

もう

お許し下さい



そ

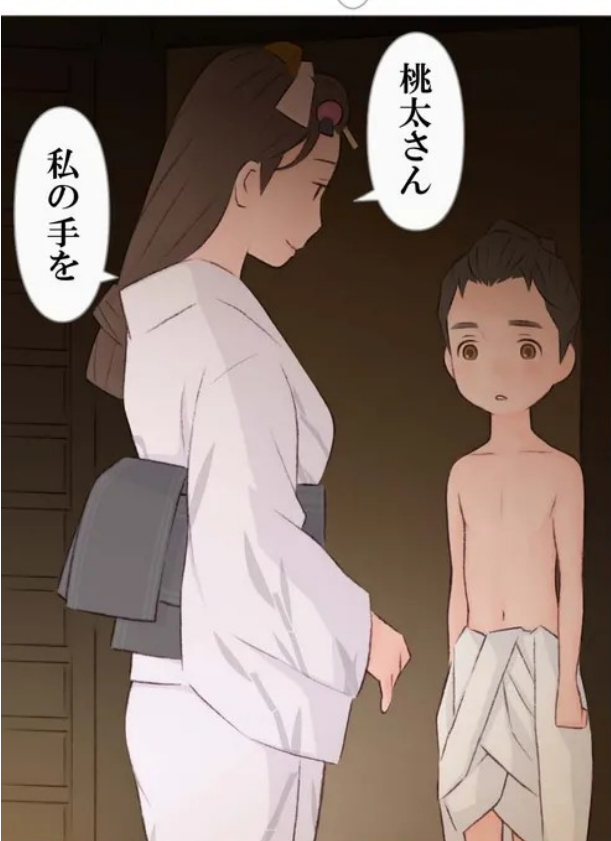
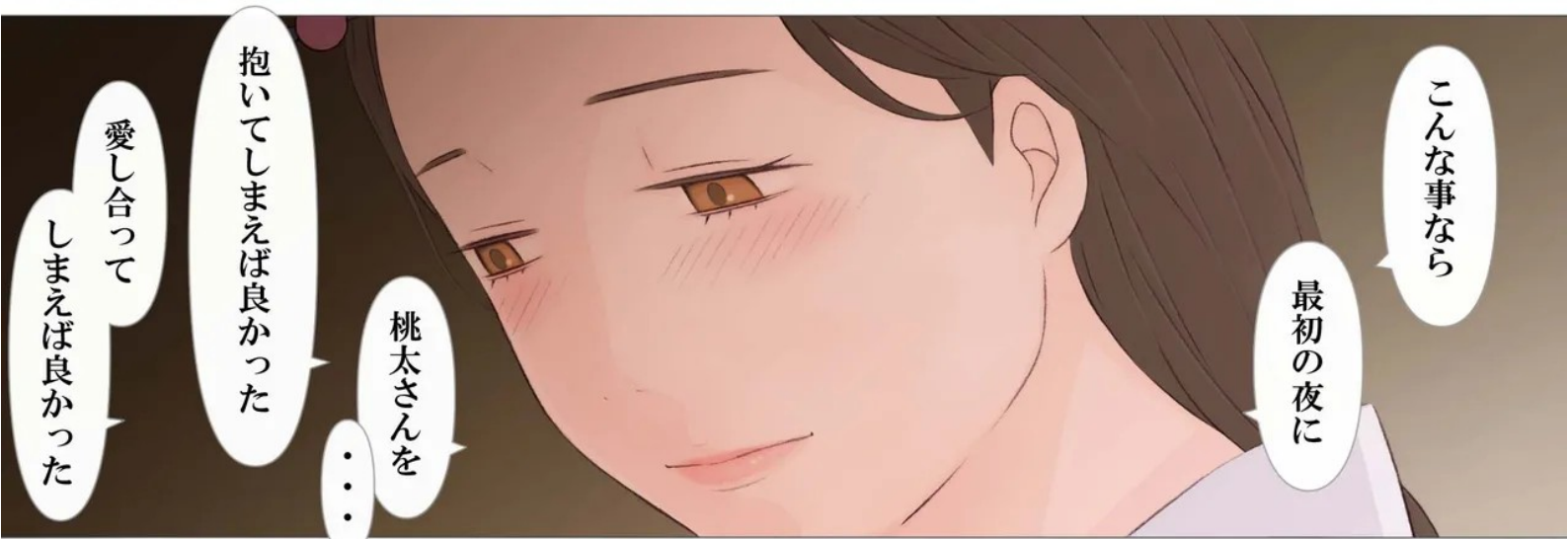
そんな

決して

私は

他の女など

鈴鹿様以外の





ああ

どうしましょう

鬼に

捕まってしまうました

この鬼は

私に

何をさせたいのでしょうか

!



さあ

言って

この鈴鹿を

抱きたいと

鈴鹿と

したい

・・・と



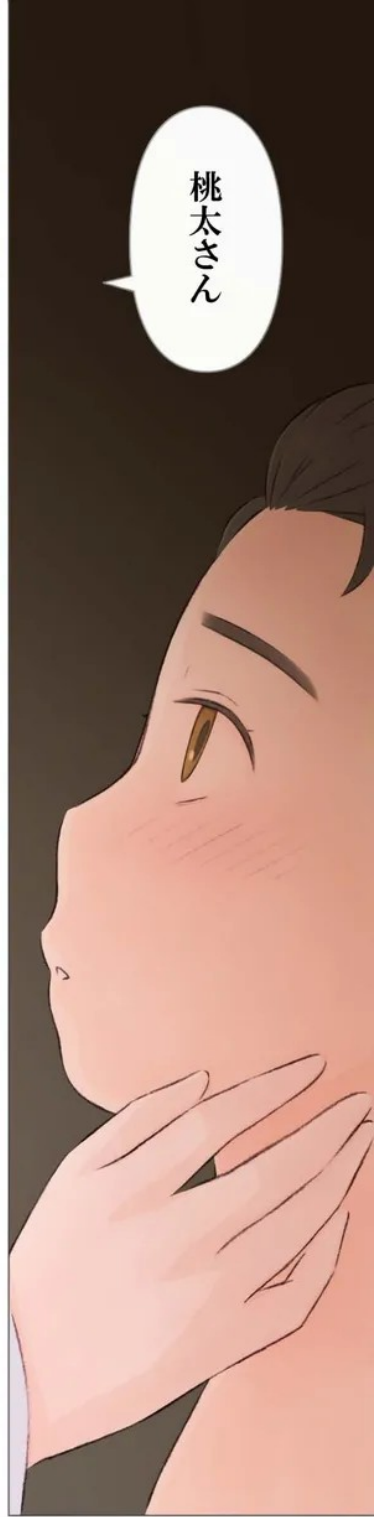
もう

わかっているはず

この鈴鹿がしたいことは

同じです

桃太さんがしたいことと



桃太さん



して

みたい

です

・・・



し

し

した



だ

・・・

し

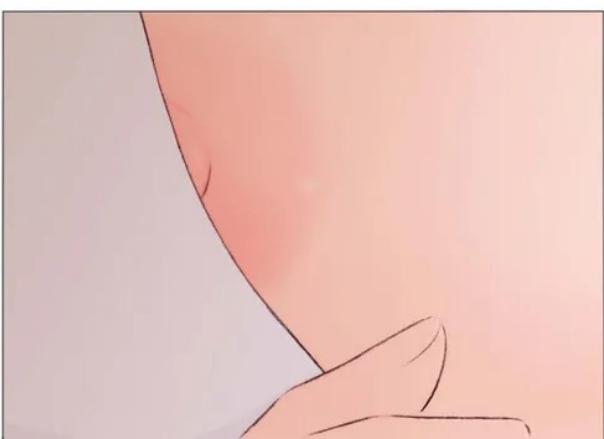
・・・



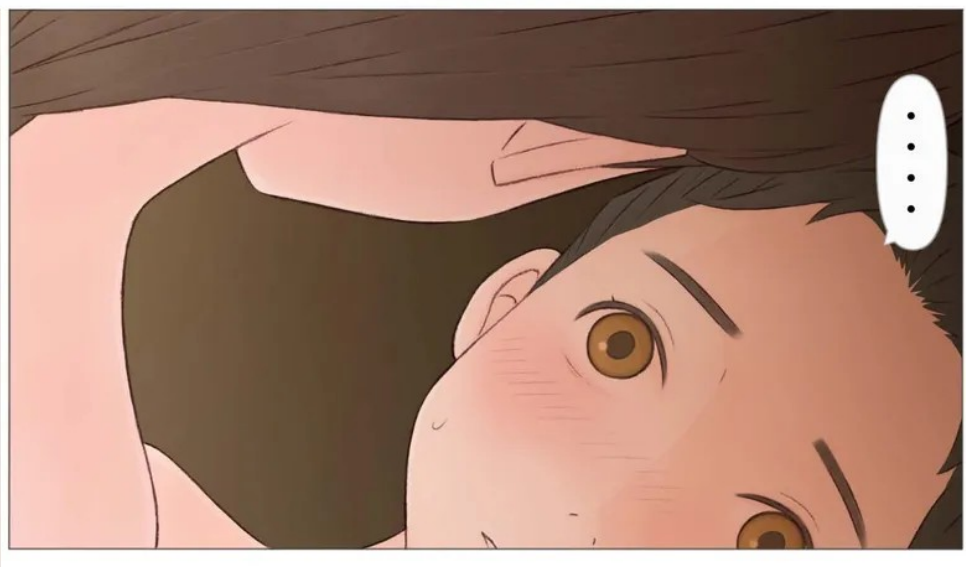
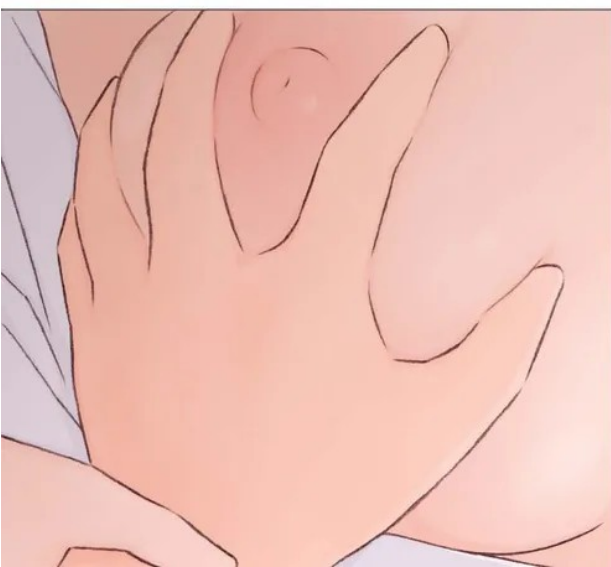
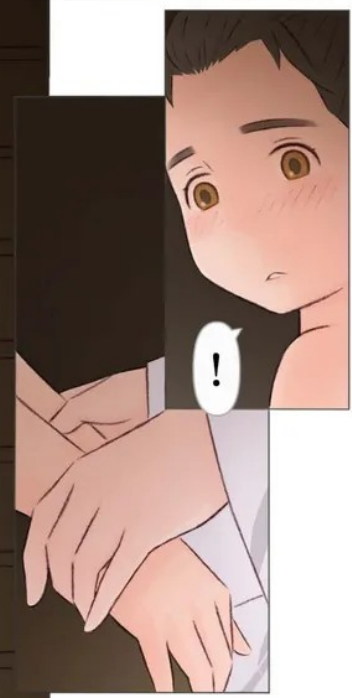
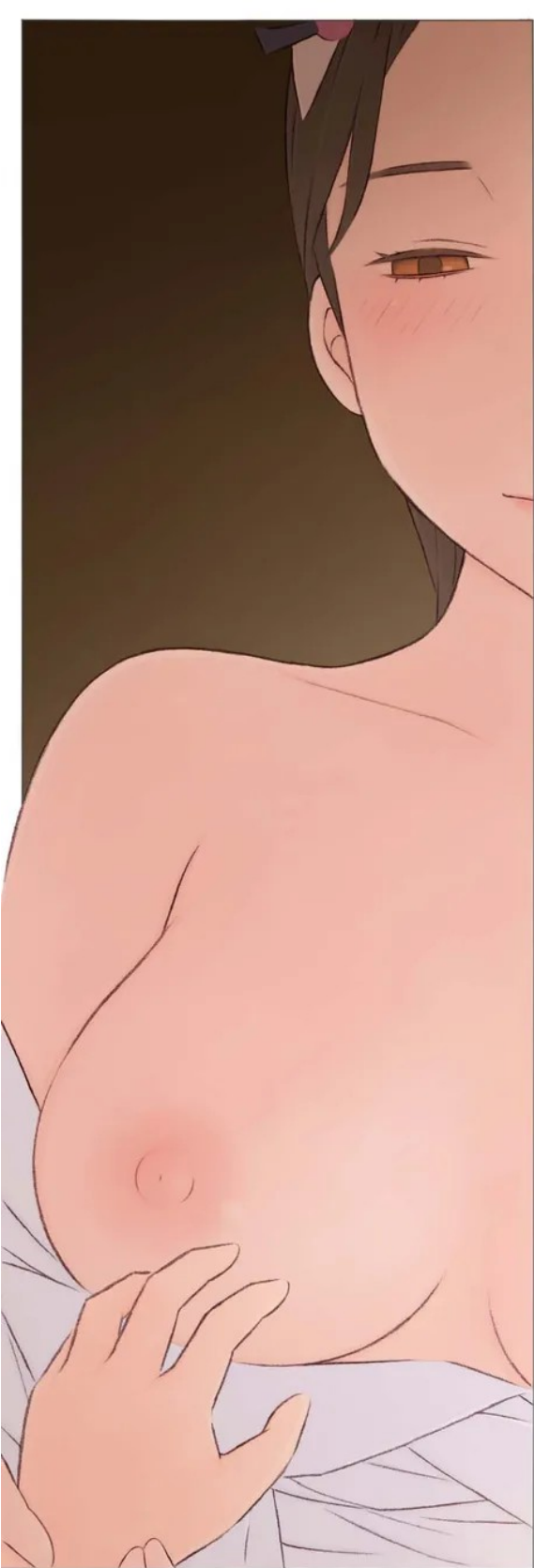
よく言えましたね

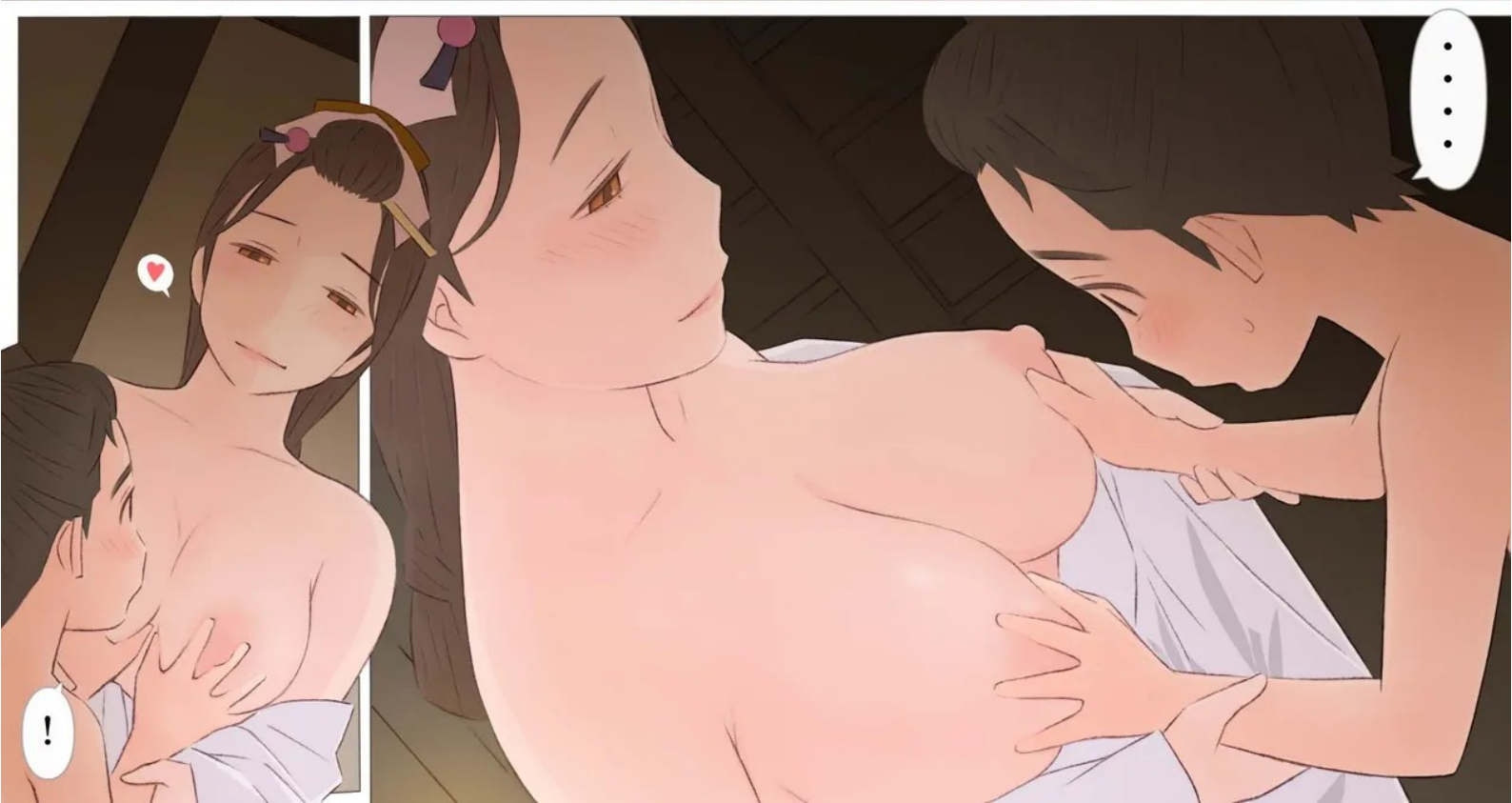
フフ

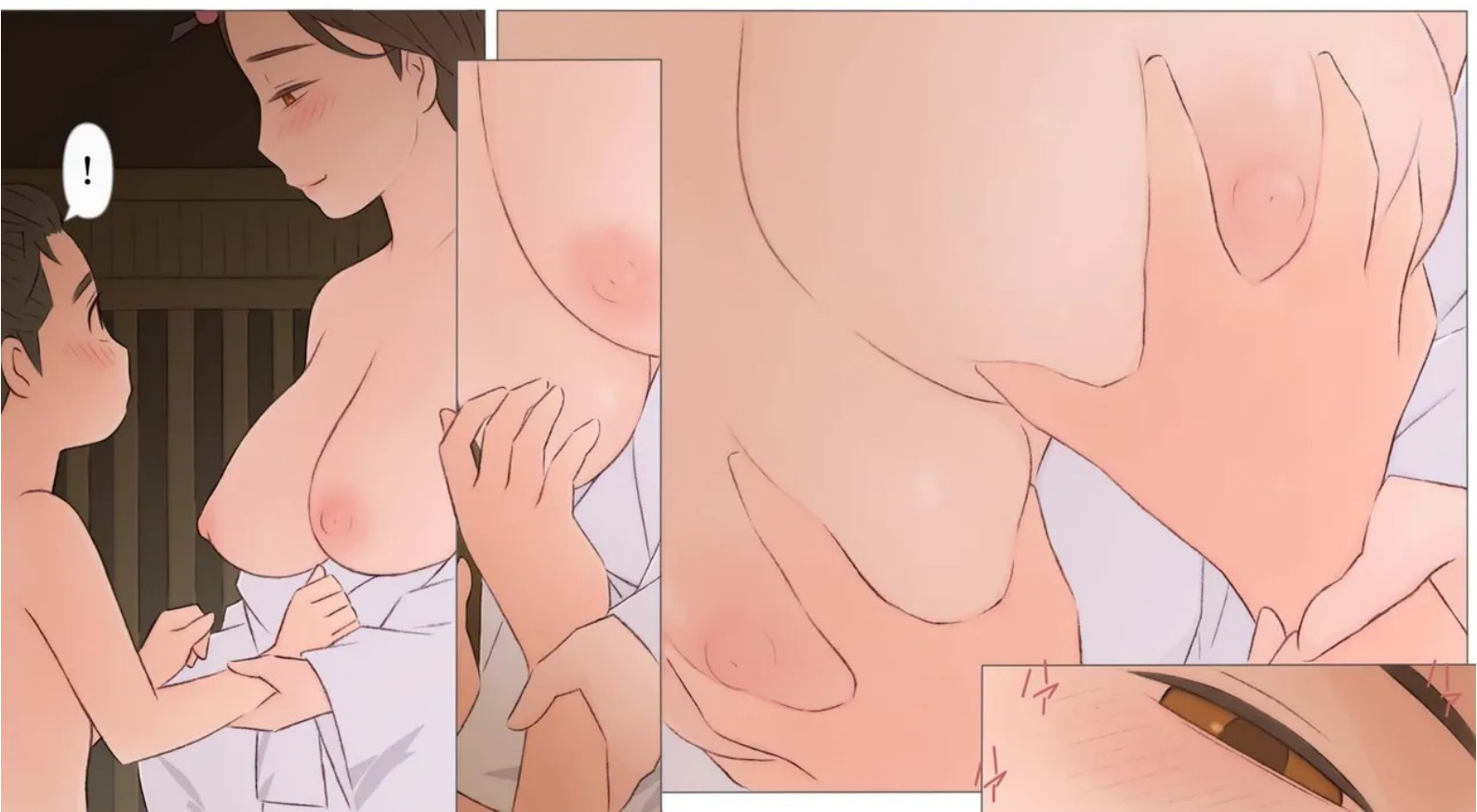
桃太さんは・・・













舐めて



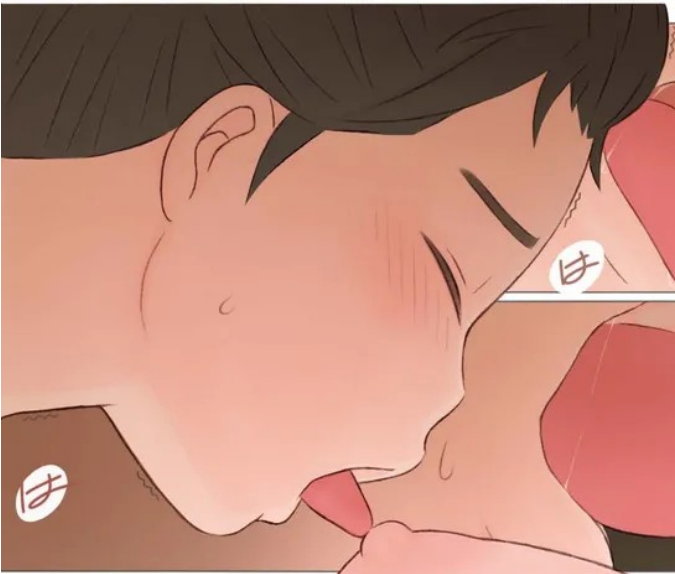
...



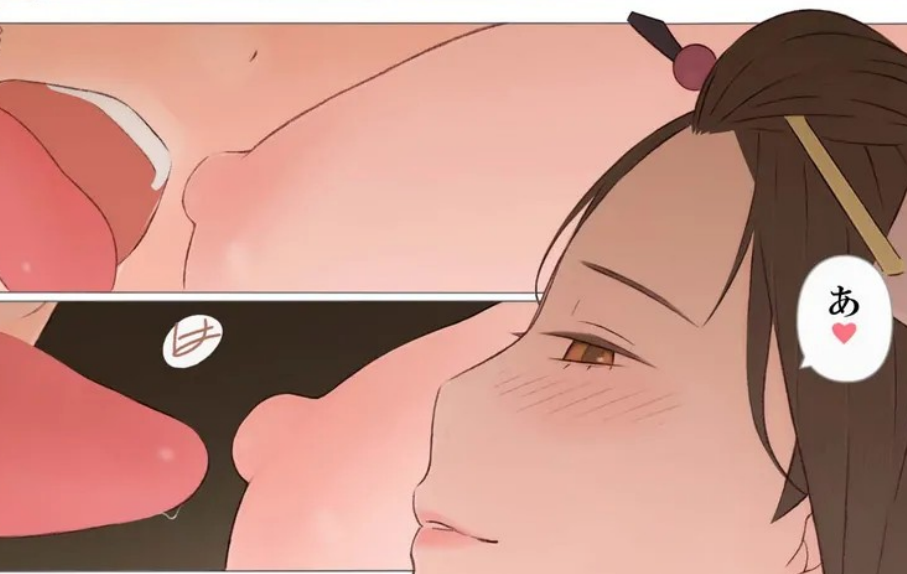
舐めて...



え



は



あ♥



は

は



は

ダメ

ダメ

ダメ

フフ

もいよ

はい

もいよ

舐めて

...

ほら

は

は

は



そう

あ

そうよ

は

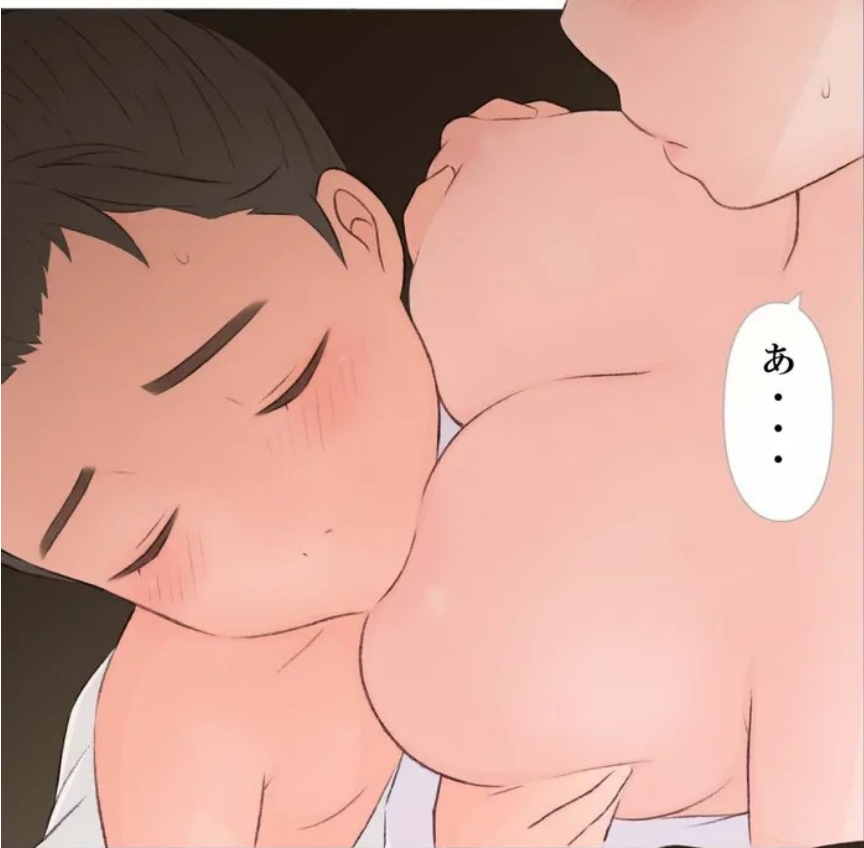
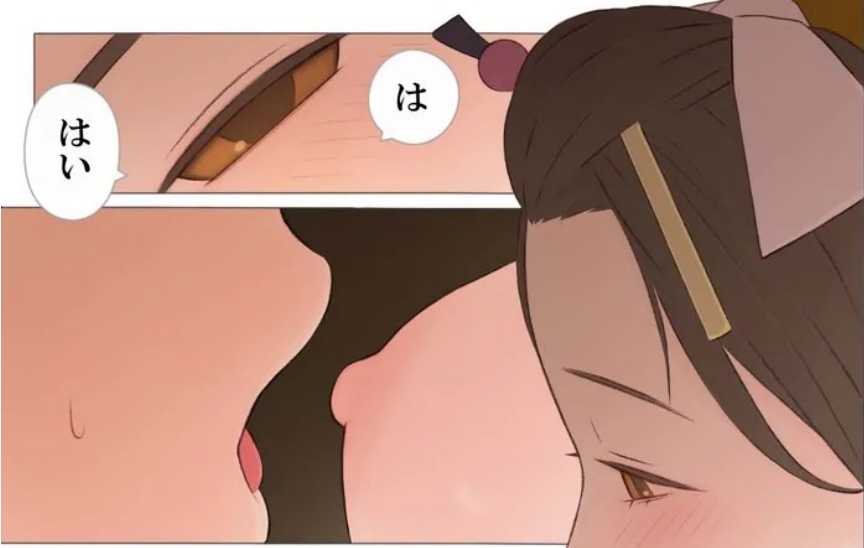
フフ



ごっちも...

...

桃太





それに比べれば

桃太さんが
掟を破ったことなど

?



フフ
わからない？

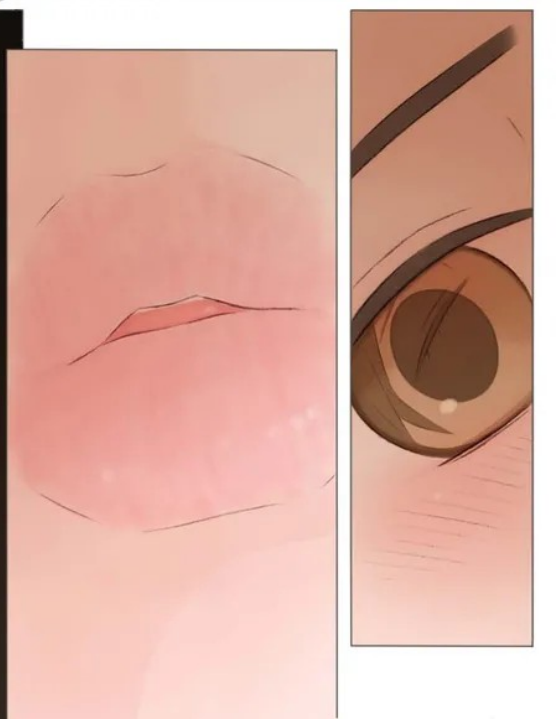
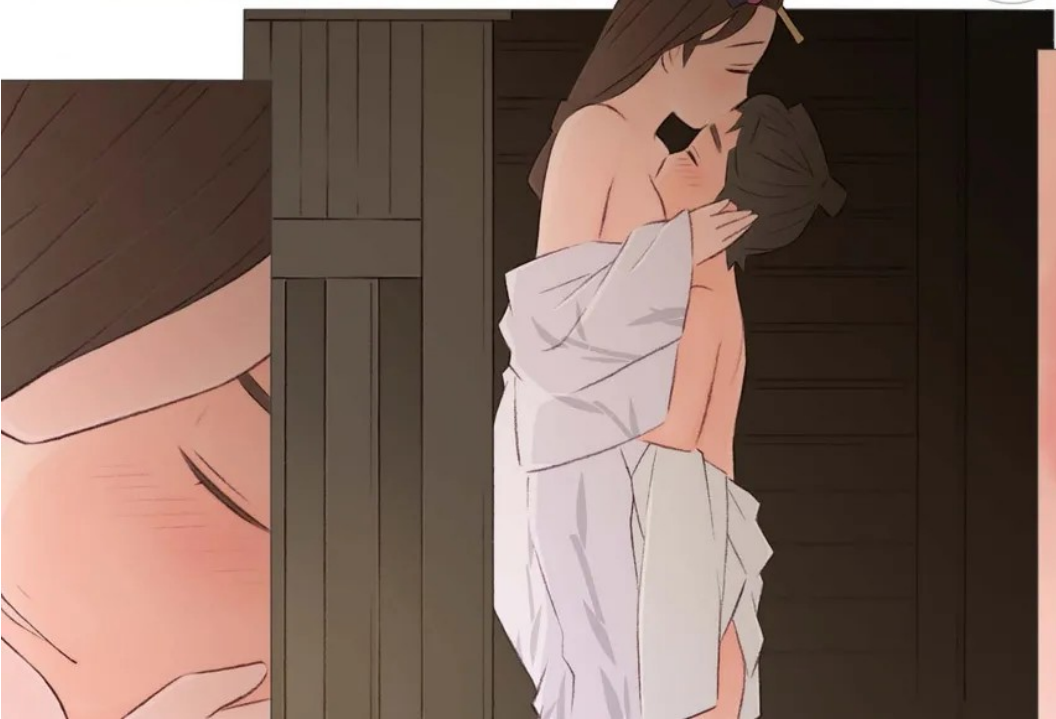
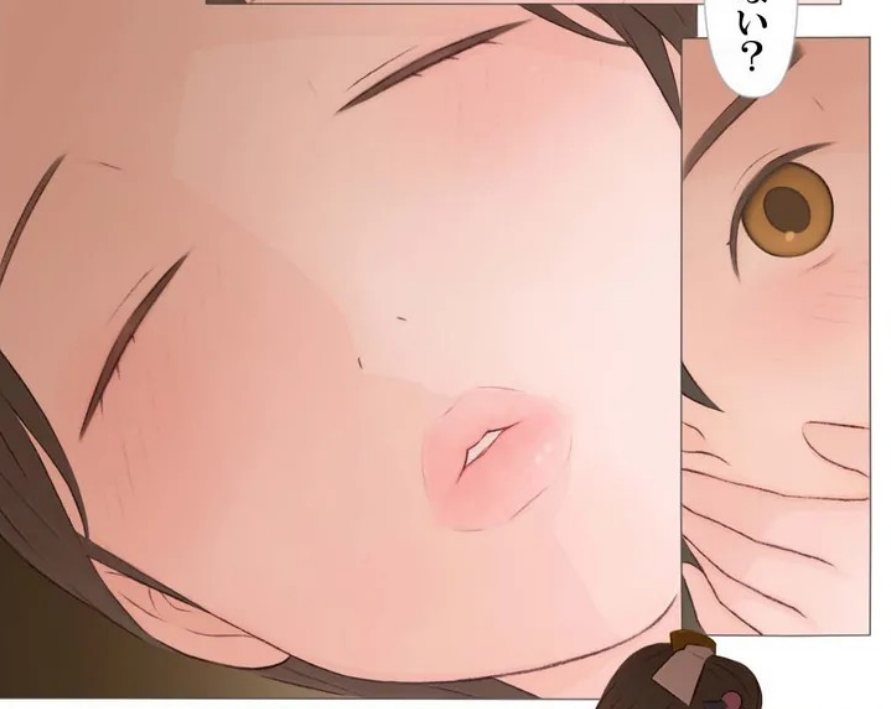


ああ……

桃太さん

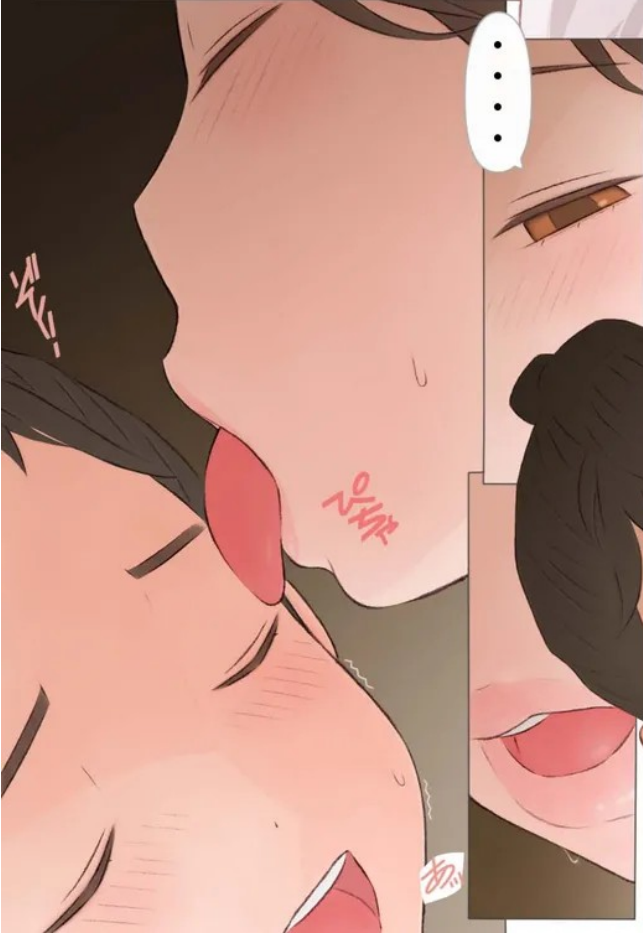
鈴鹿は
いやらしい女なのです

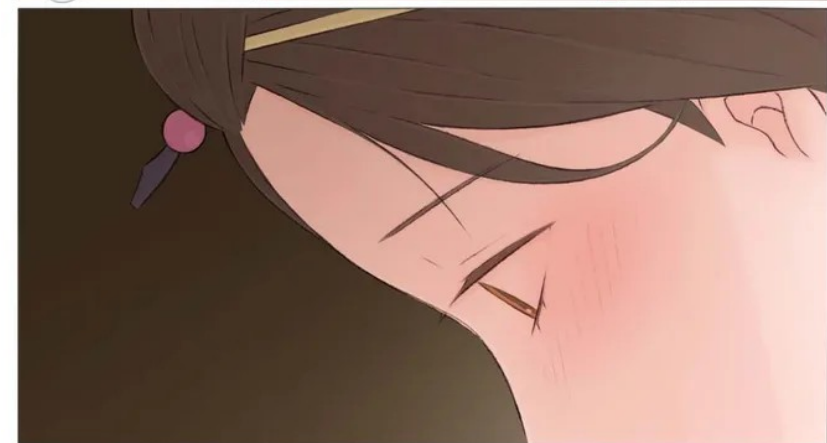
とても
悪い女なのです





待てなかったの









さあ

お口を開けて

舌を出して

・・・はい



鈴鹿と

口吸いを

しましょう

鈴鹿と・・・

・・・



桃太さん

はい

鈴鹿

様...

は

そうよ

そう

いい子

♡♡♡♡

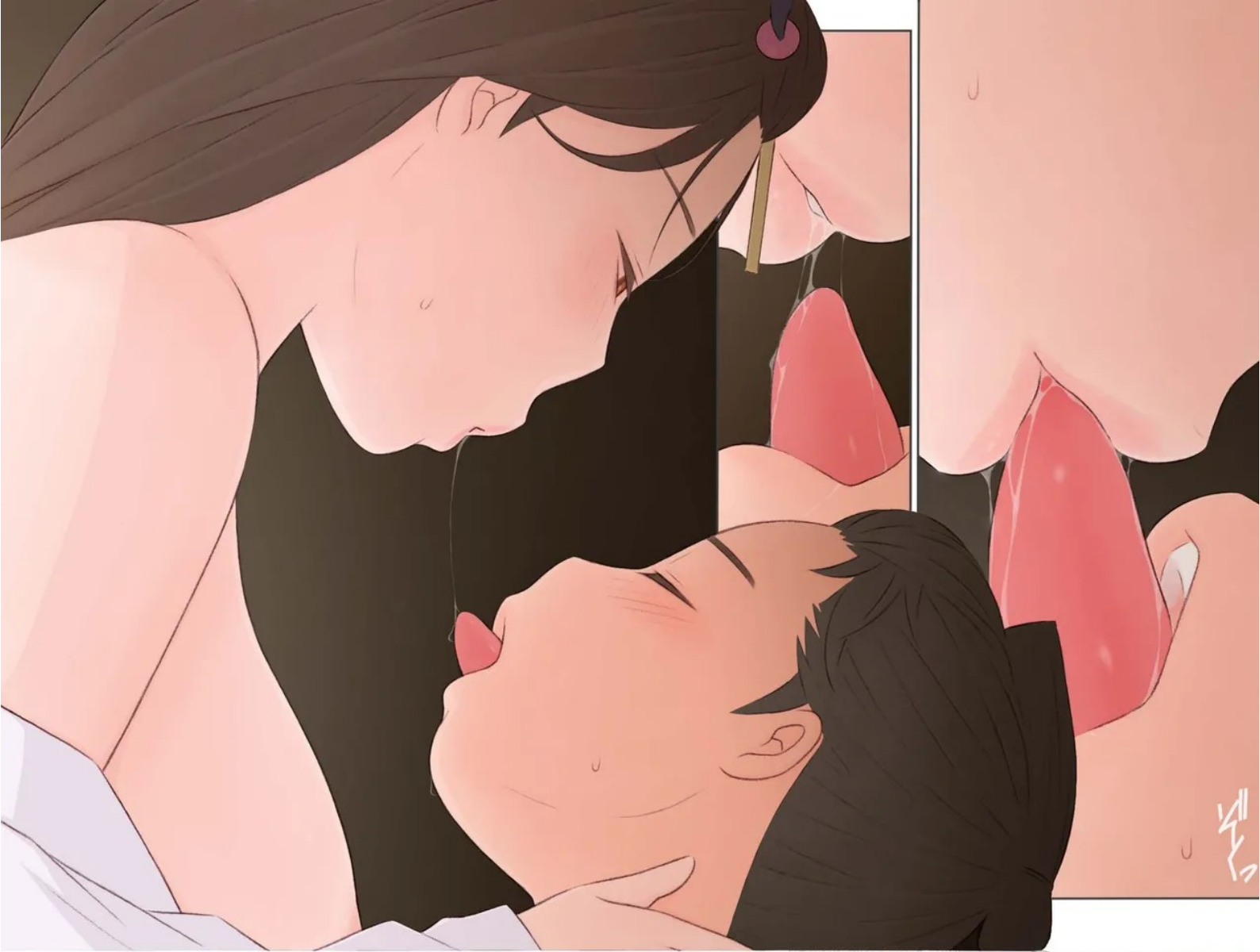
♡♡♡

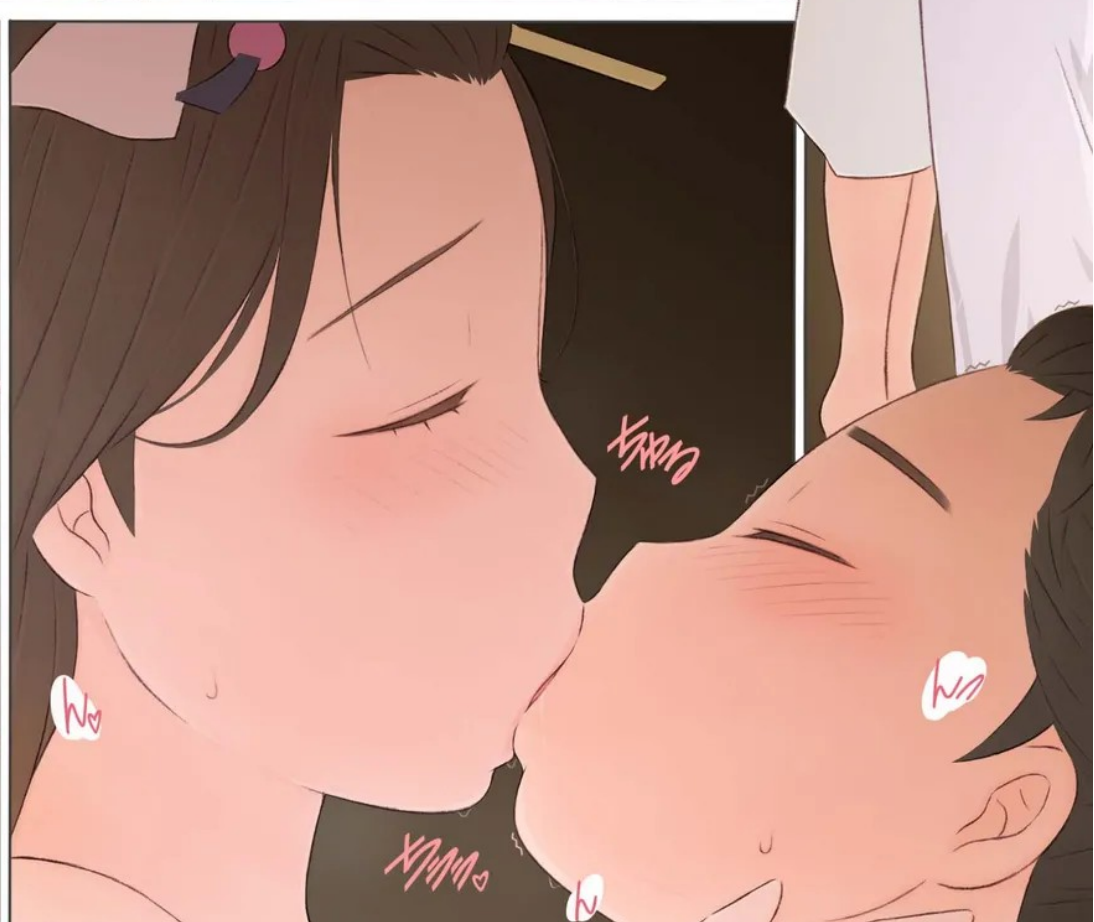
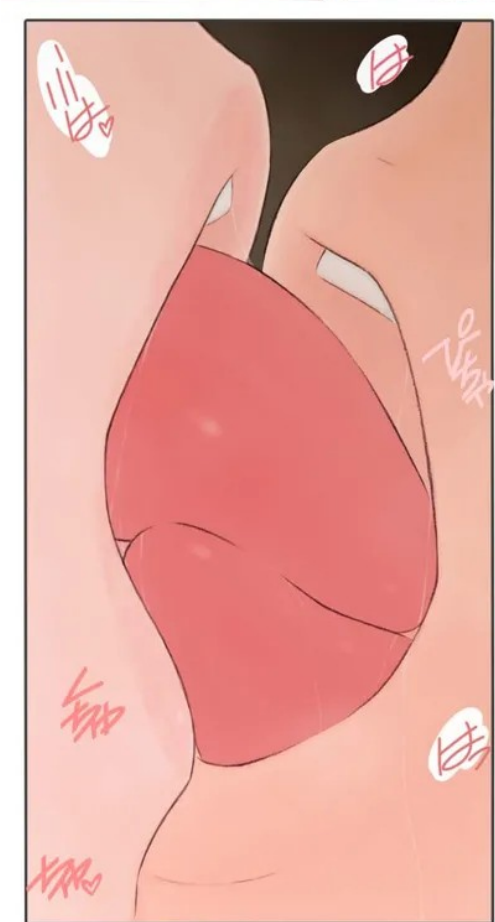
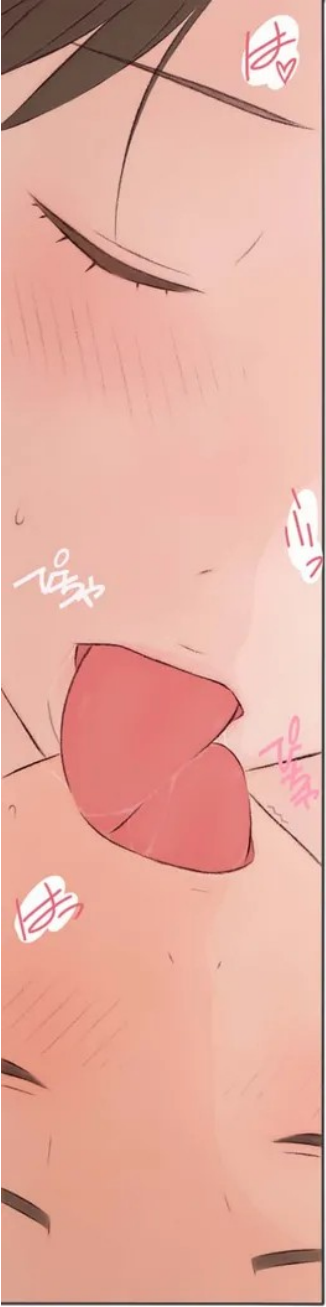
あ

あ

あ

あ...







桃太さん

鈴鹿は...

鈴鹿は

鈴鹿様あ

もっと

もっと

...したい

...

まあ

まあ

鈴鹿様あ

早く

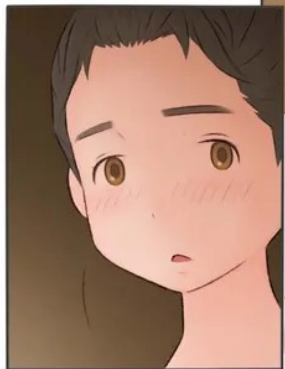


フフ

焦らないで

鈴鹿様...







あ
...

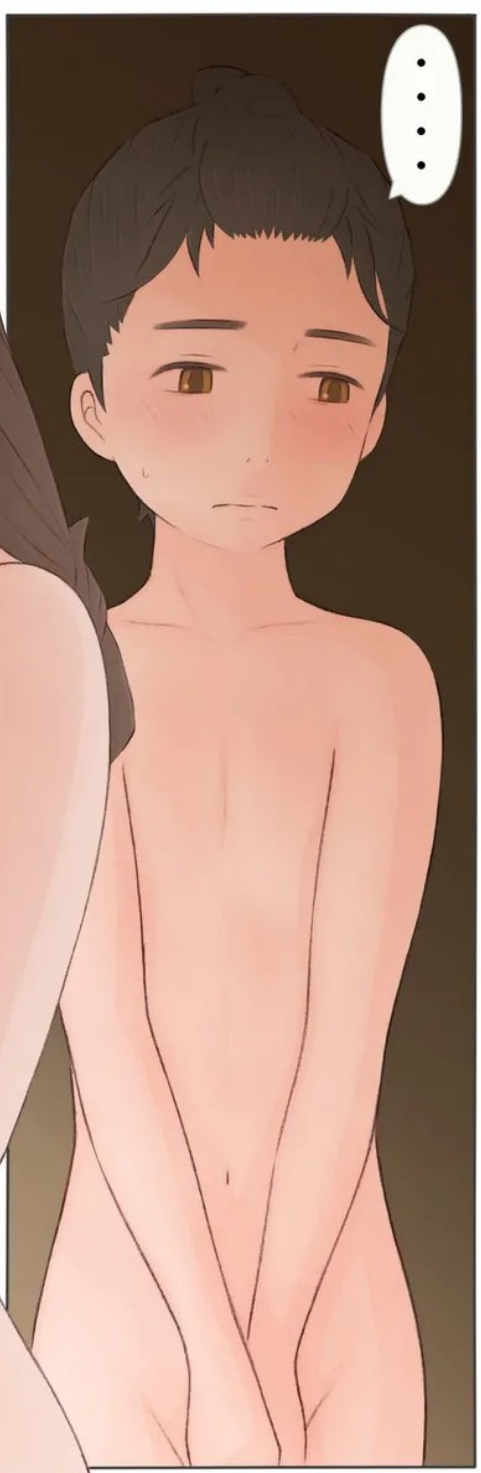
...

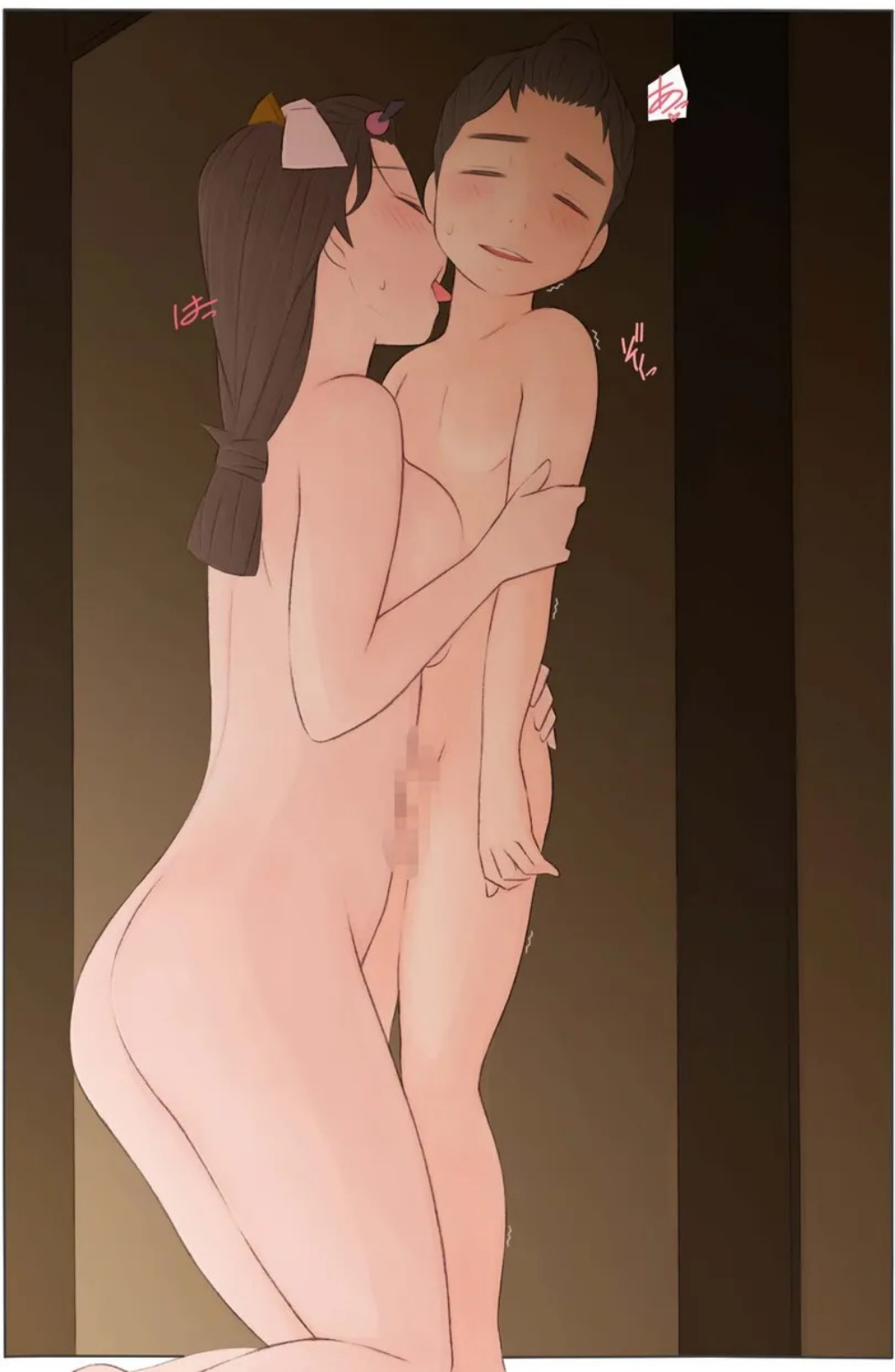
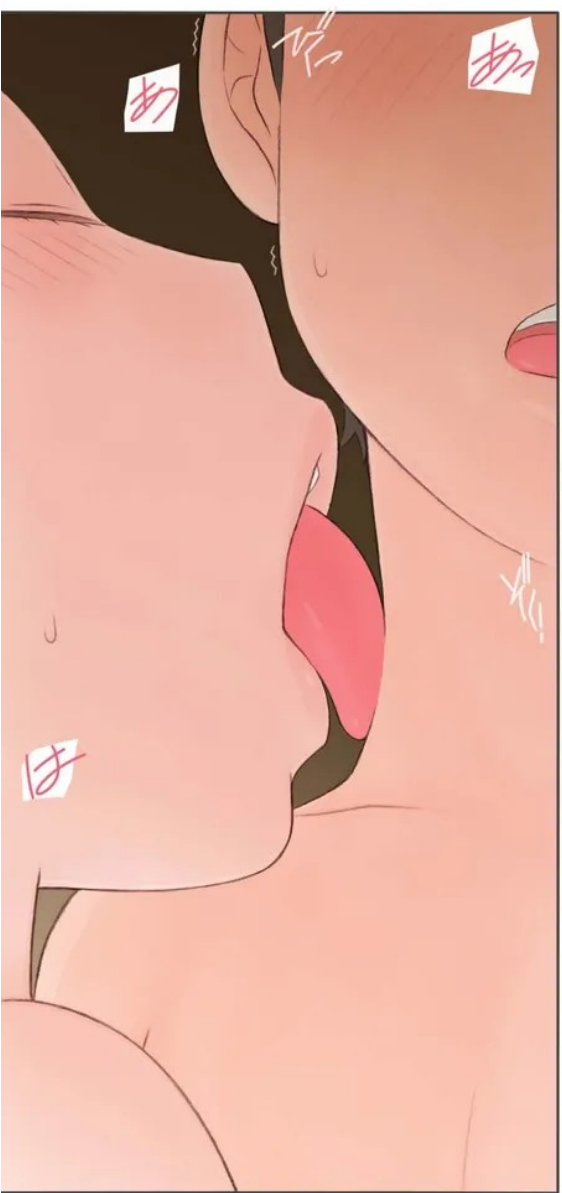
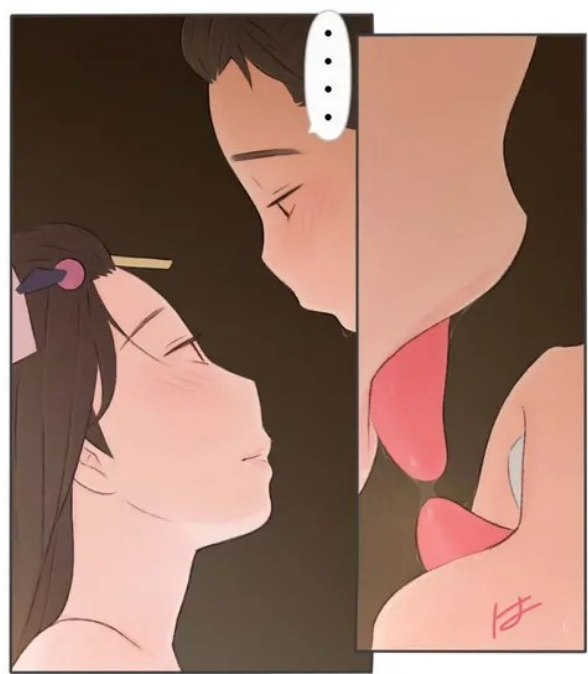
なんと

お顔に似合わぬ

立派なこと







覚えておいて

女も乳首を吸うのは好きなのよ

・・・あ

桃太さん

気持ちいい？

フフ

元気なこと

まあ

こんなにもしっかりと

なんと

反り上がって





元気で

威勢がよくって

素敵よ

まだ
恥ずかしい？

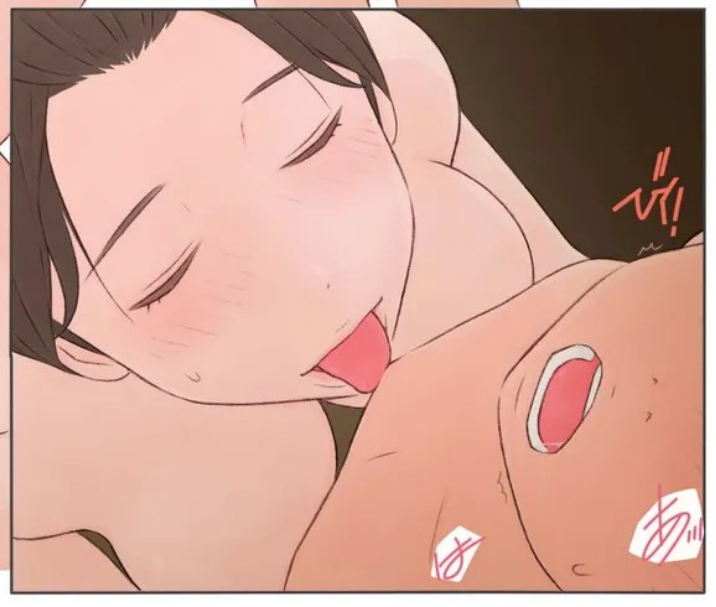
鈴鹿様……

はい



素敵

本当に





もしかや...

いつも

私と寝ていた時

こんな風になっていたの

我慢して

いたの

そ

それは

え

我慢

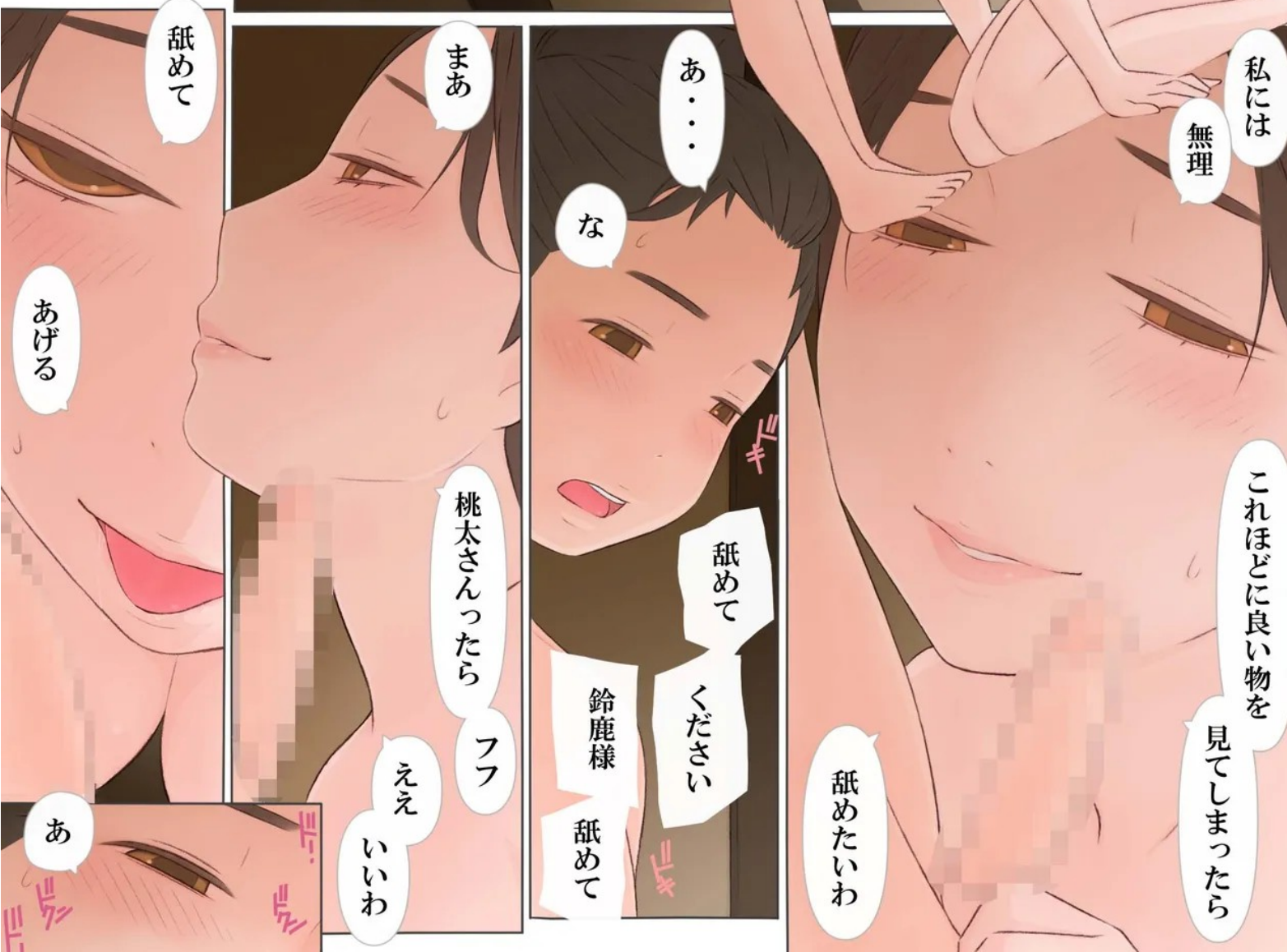
して

いました

偉いのね

そう...

桃太さんは



私には無理

これほどに良い物を見てしまったら

舐めたいわ

あ...

な

舐めてください

鈴鹿様

舐めて

まあ

桃太さんったら

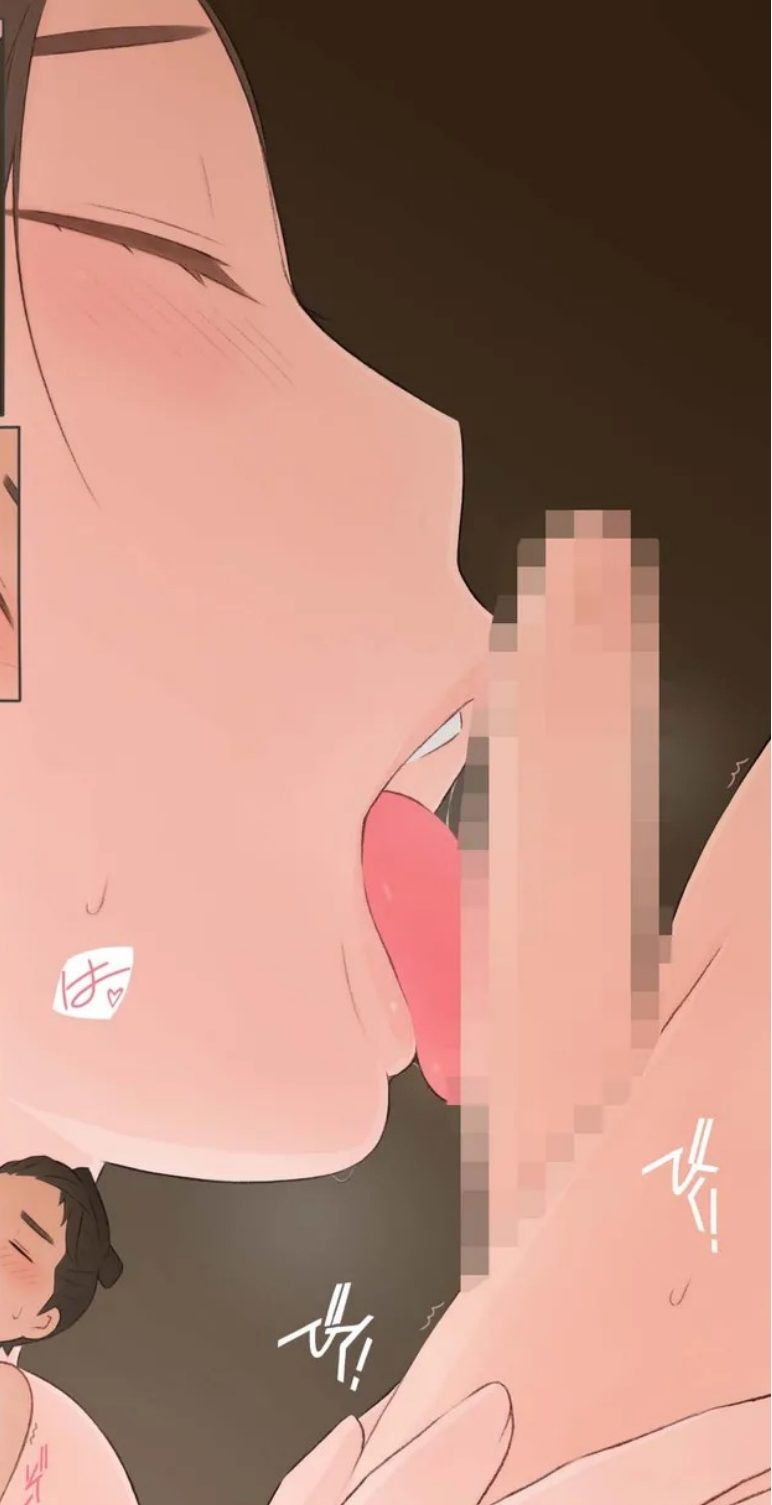
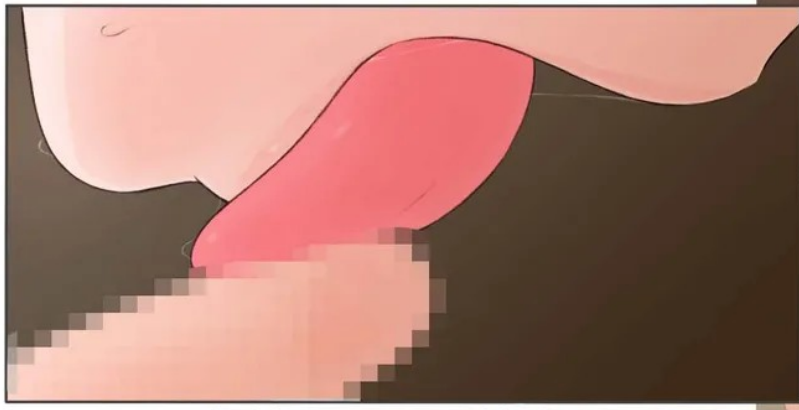
フフ

ええ
いいわ

舐めて

あげる

あ



いいの？

フフ

どお？

これは？

フフフ

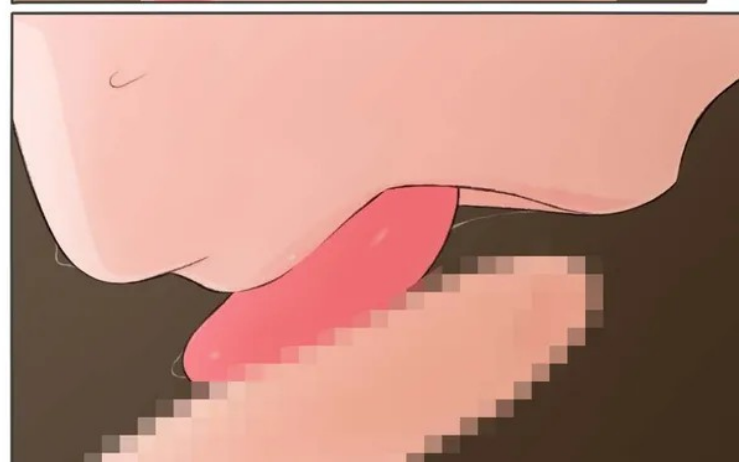
桃太さん

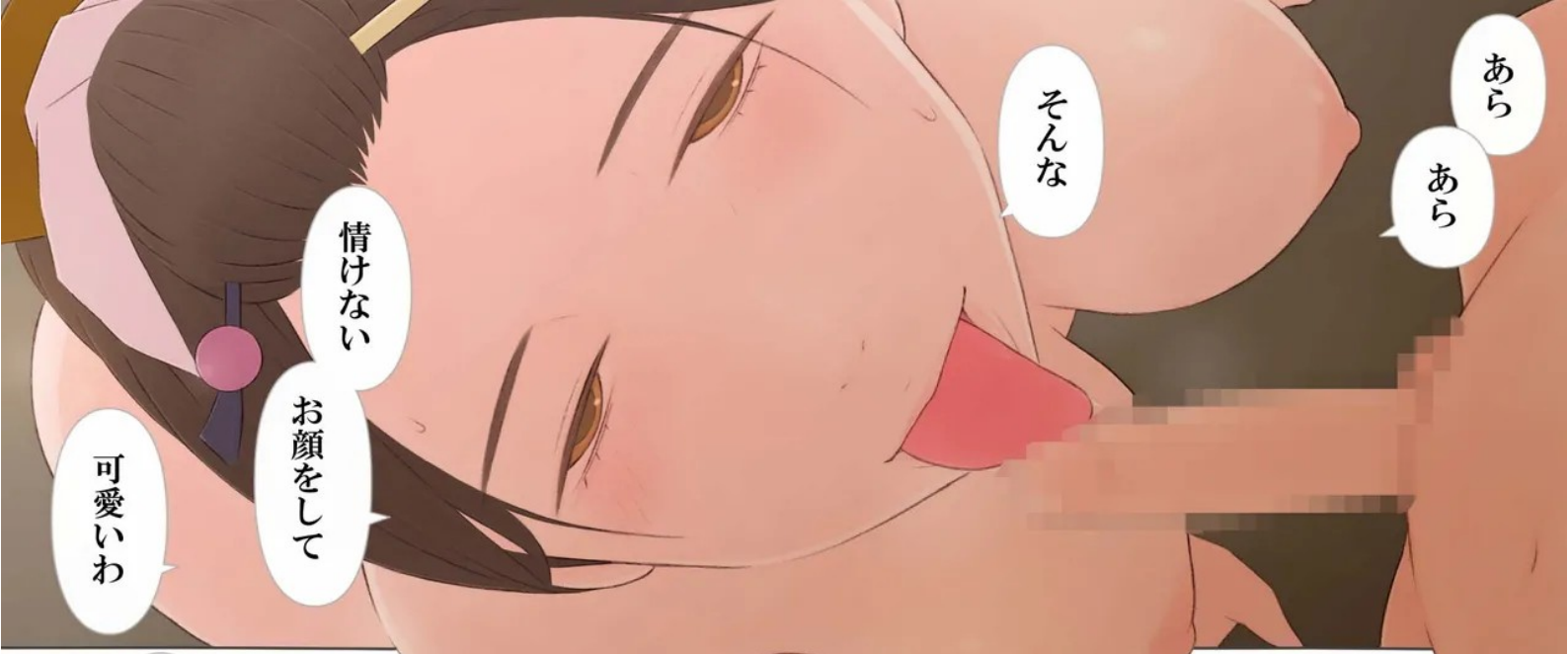
ここは？

気持ちいい？

は

はい





あら

あら

そんな

情けない

お顔をして

可愛いわ



もっと

して欲しい?



どうなの

して欲しいの?



は

はい

あ



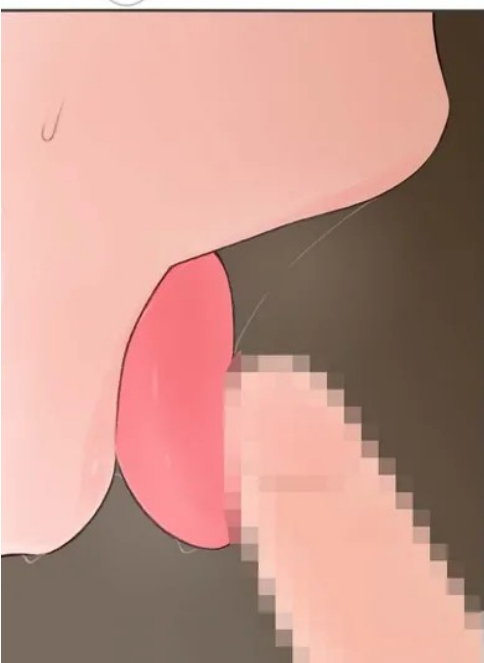
ダメよ

相手に

伝わらないわ

ちゃんと

言わないと

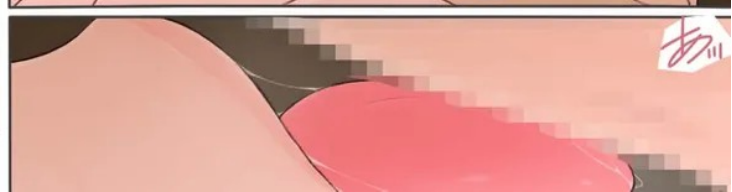


あ

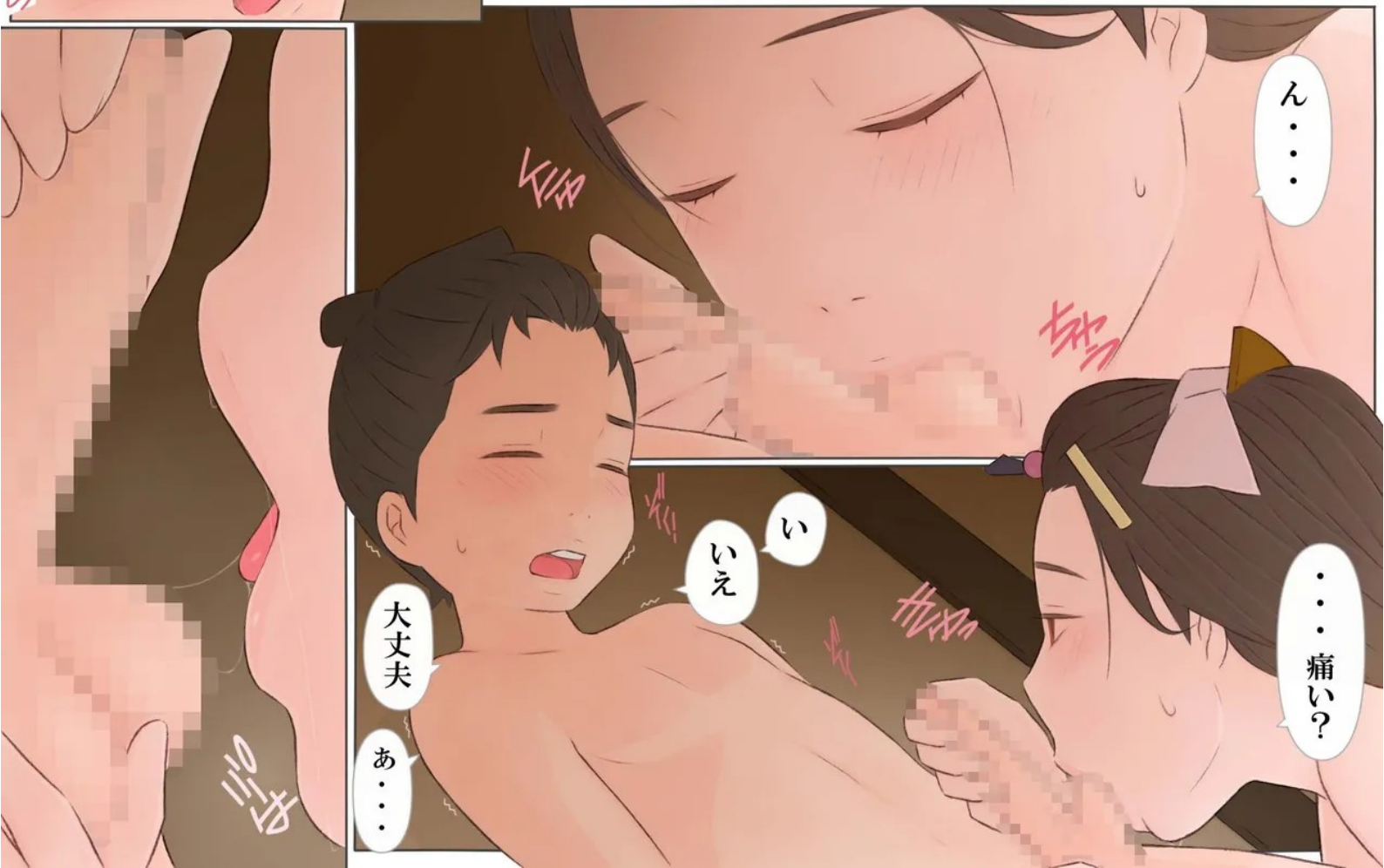
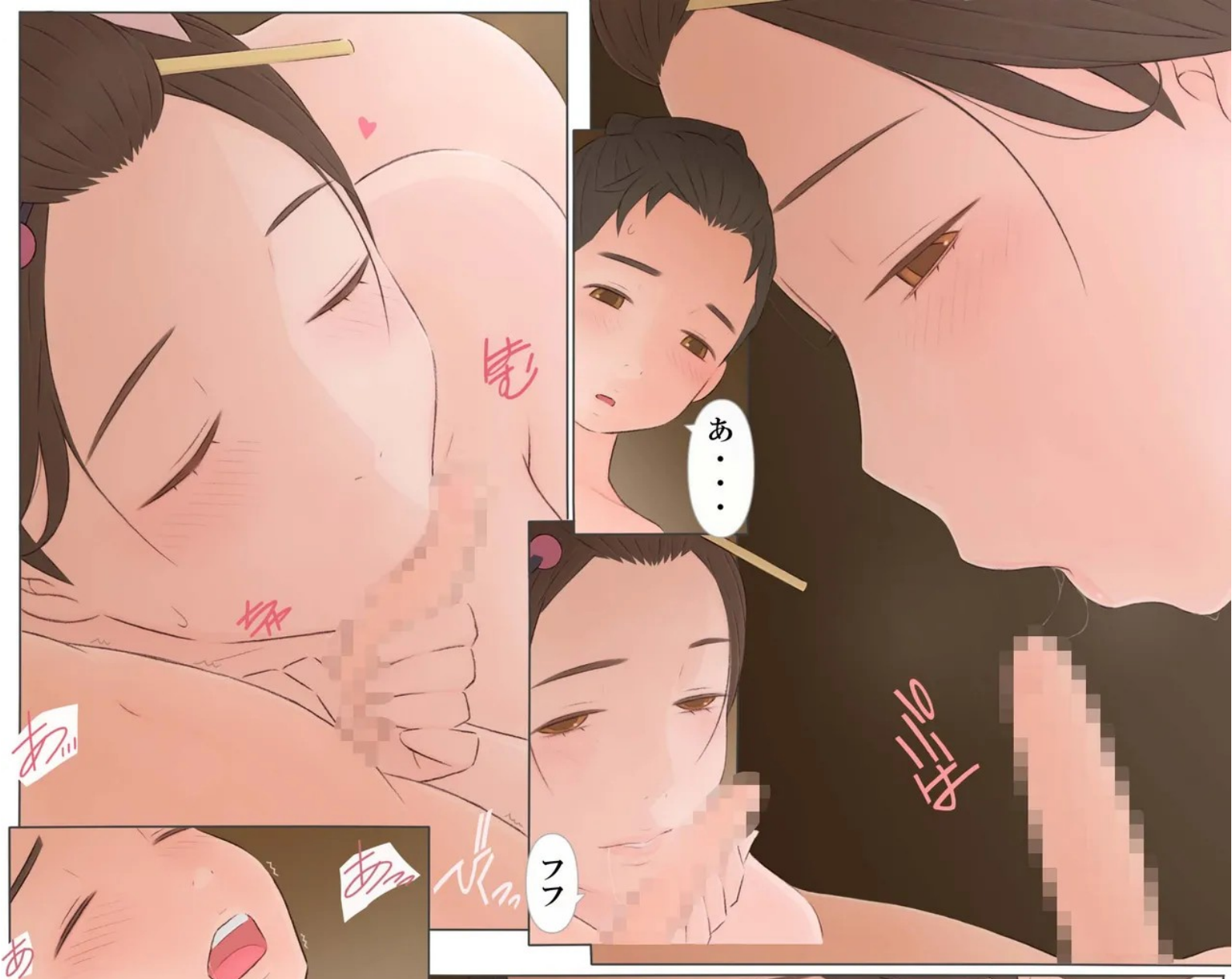
はい

もっと

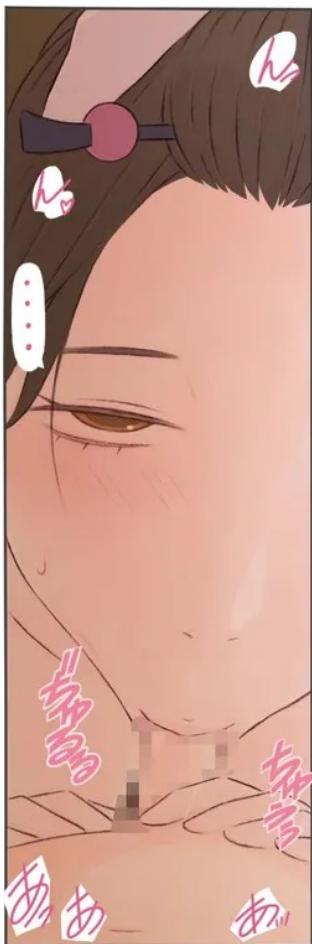
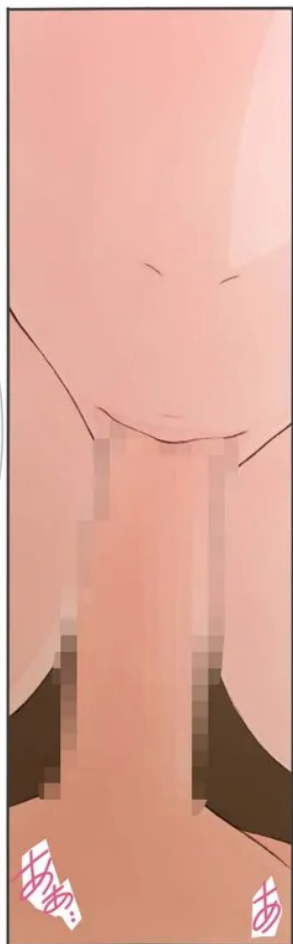
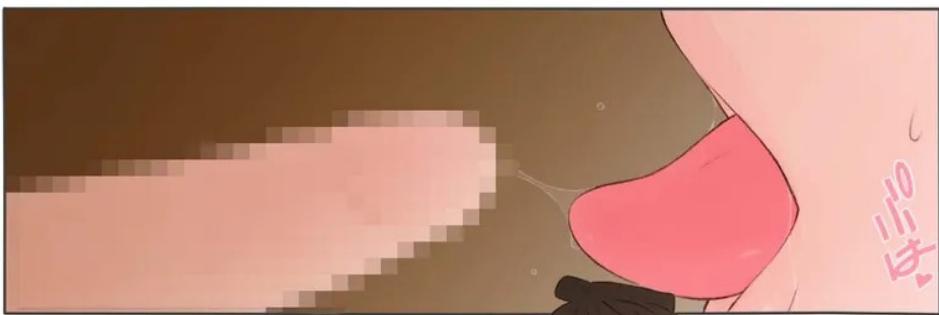
もっと

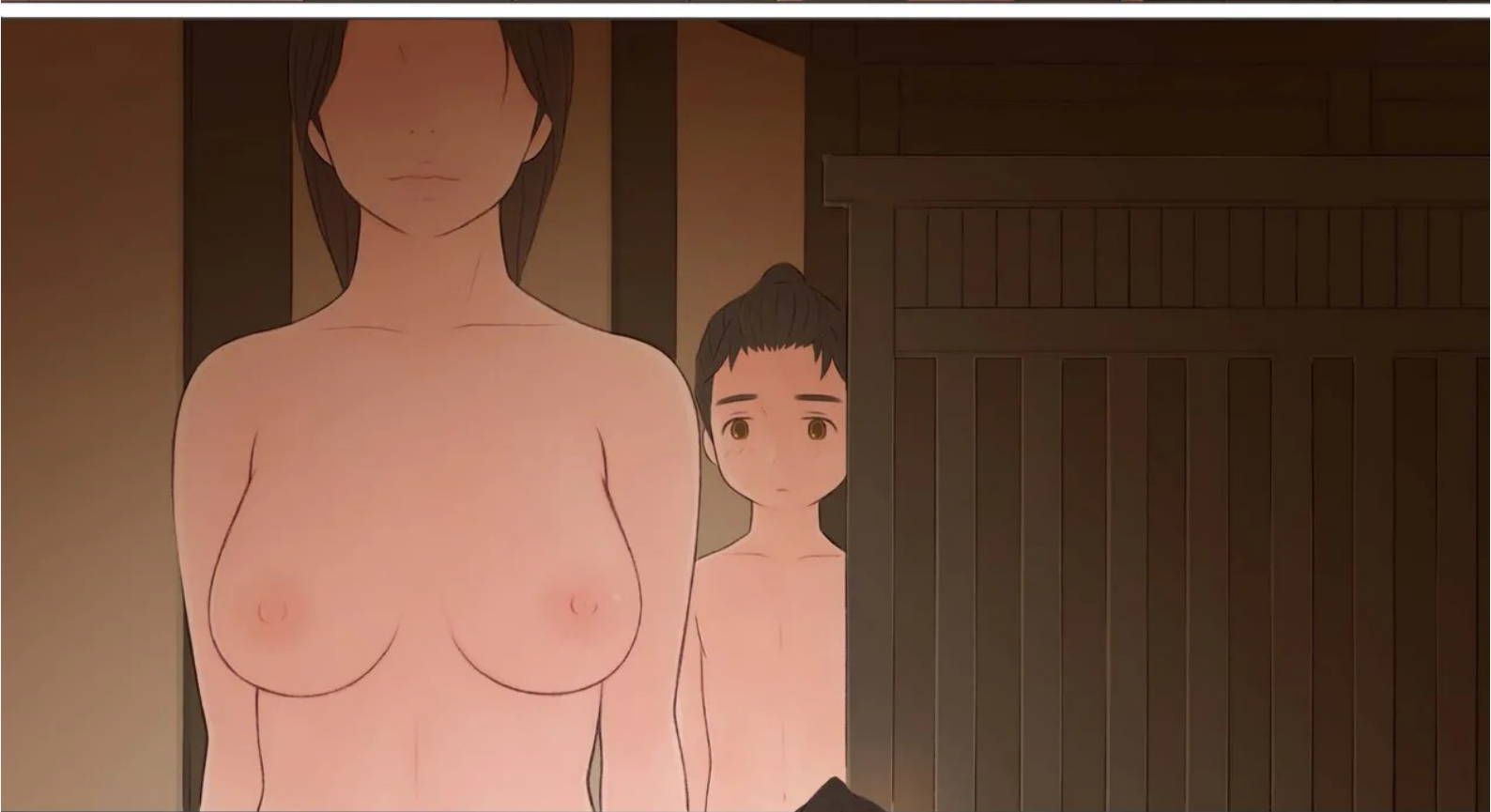
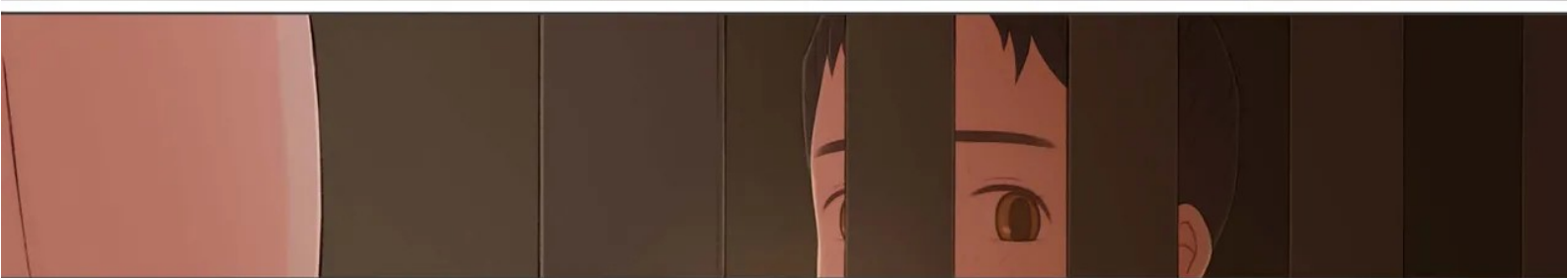
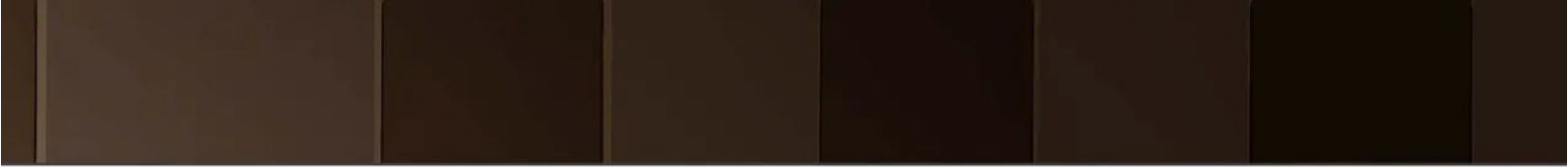


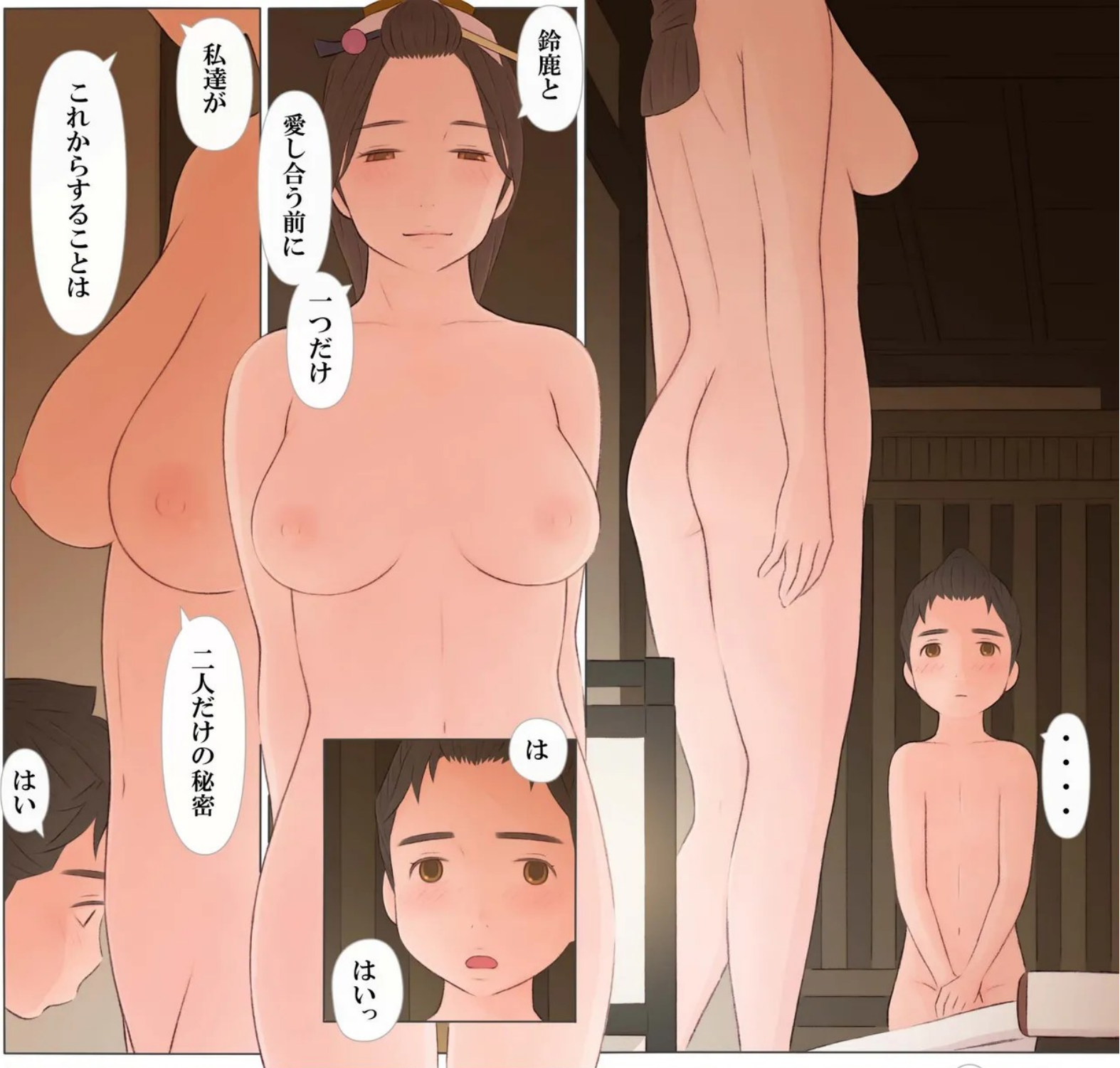












鈴鹿と

私達が

これからすることは

愛し合う前に

一つだけ

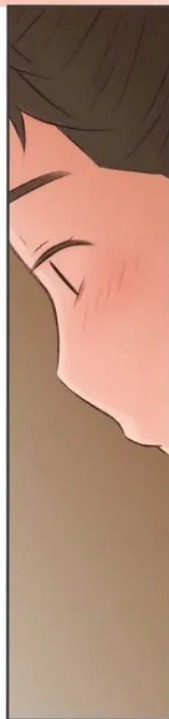
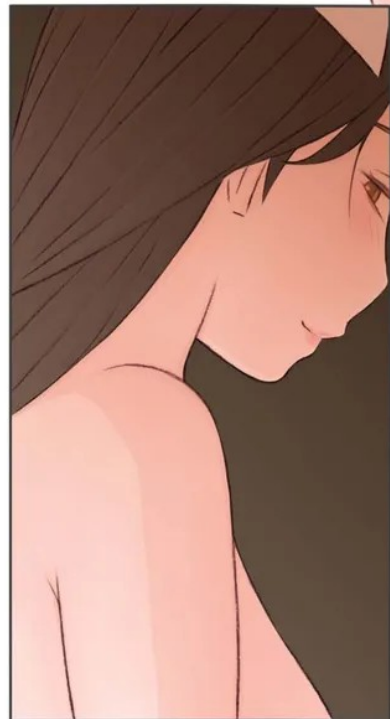
二人だけの秘密

は

はい

はいっ

...



子をなす術を

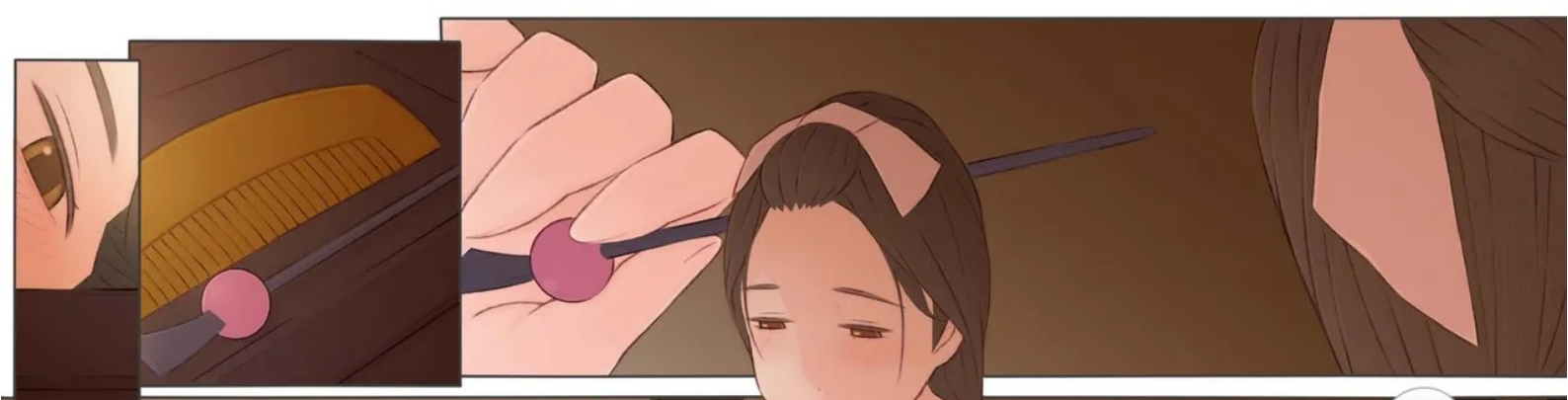
正しく学ぶ前に

ただ快樂のために

求め合うなど...

本来であれば

...



桃太さん

男と女がすることを知ったのですか

どうやって

知ったのですか

お友達と

枕絵でも

見たのかしら

……

……はい

そう

です



それは

あ

改めて

そんなことを

言われても



し

したい

……



……

ならば

鈴鹿にしたいこと

して欲しいこと

何か

あるのでは



まあ

情けない

そんなことで

どうするのです

桃太さんは

あ

お

お許してください

私は

仕方ないですね

桃太さんは

女と愛し合うのは

これが

初めてですものね

では……

鈴鹿が

桃太さんにしたいことを

します

それで……

いいですか

あ

お願い

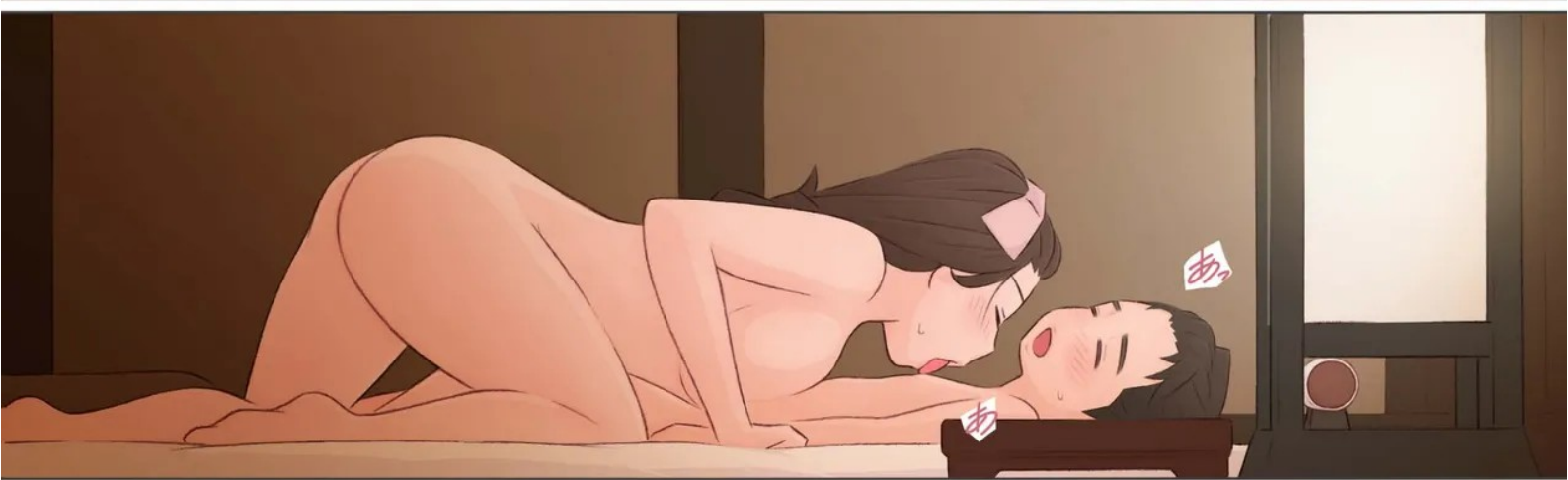
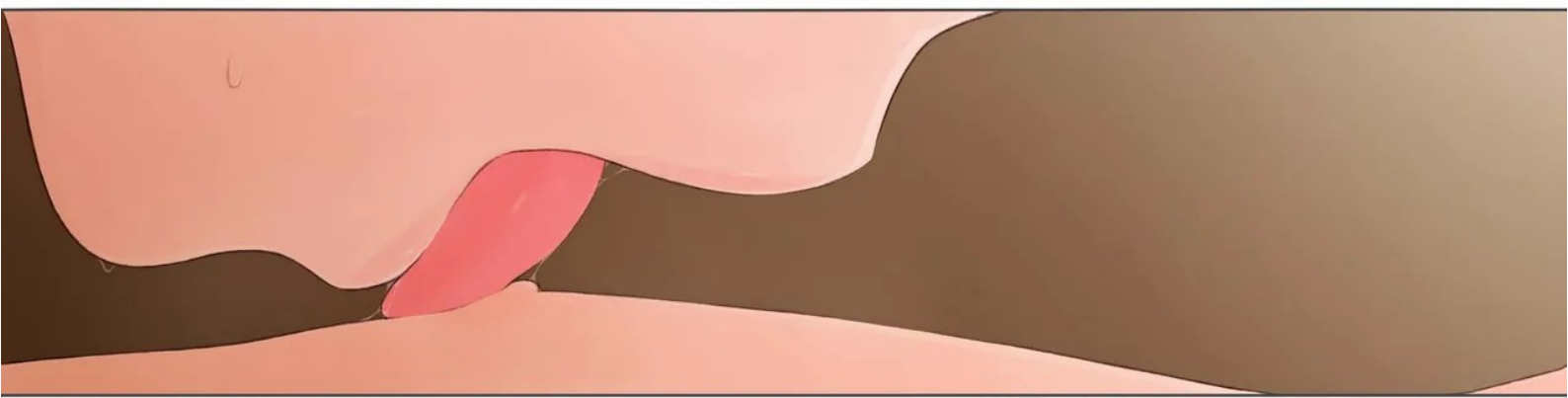
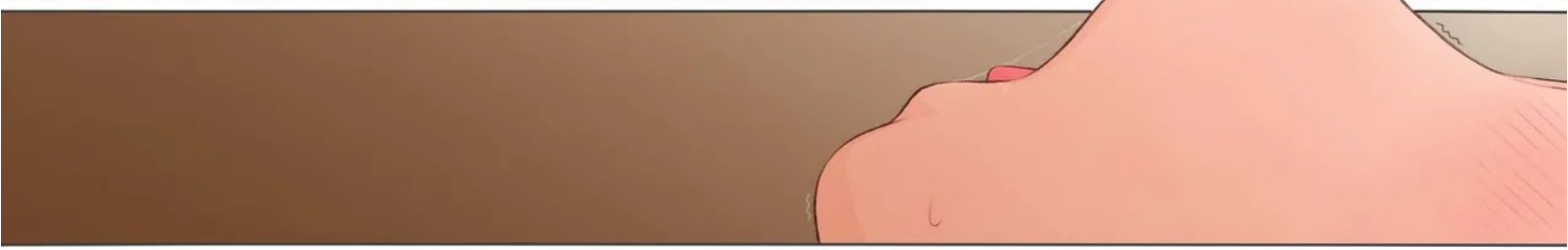
お

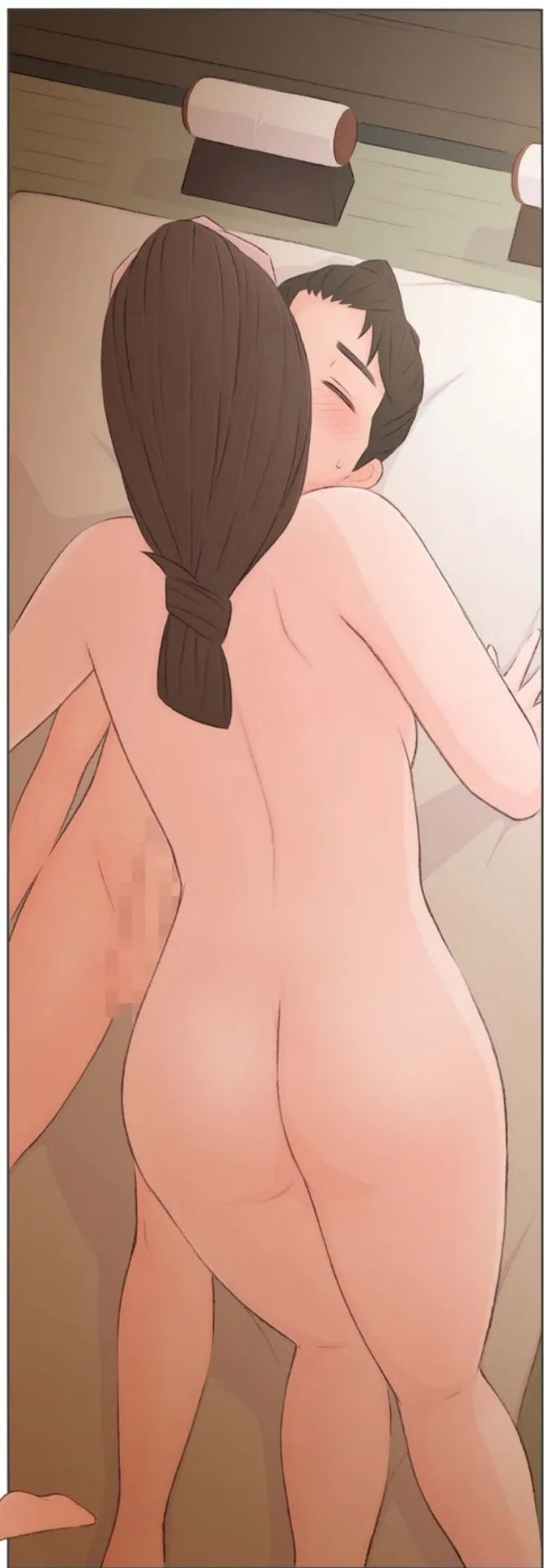
します

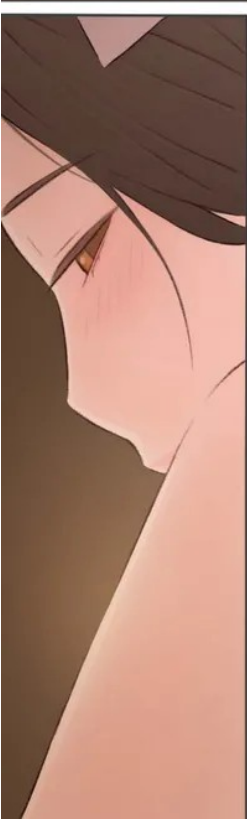
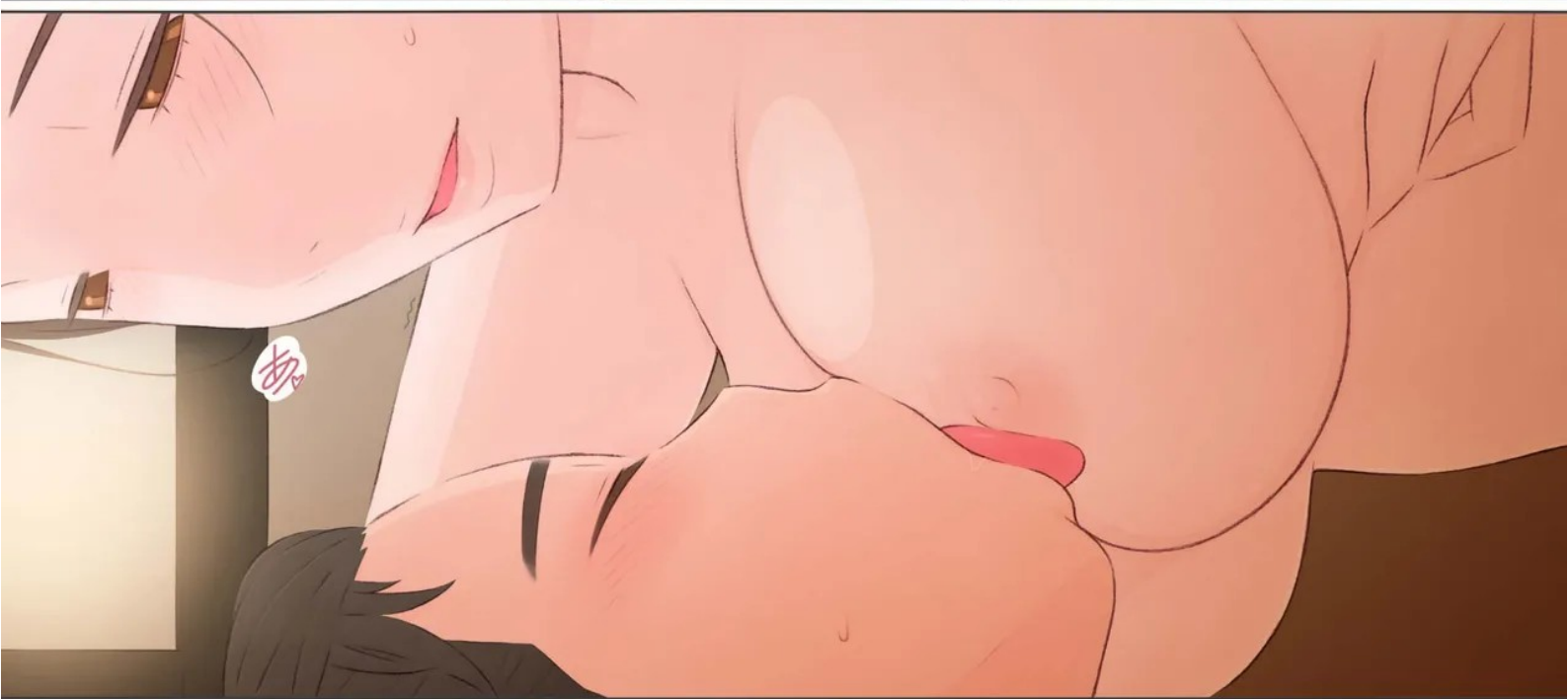
まあ

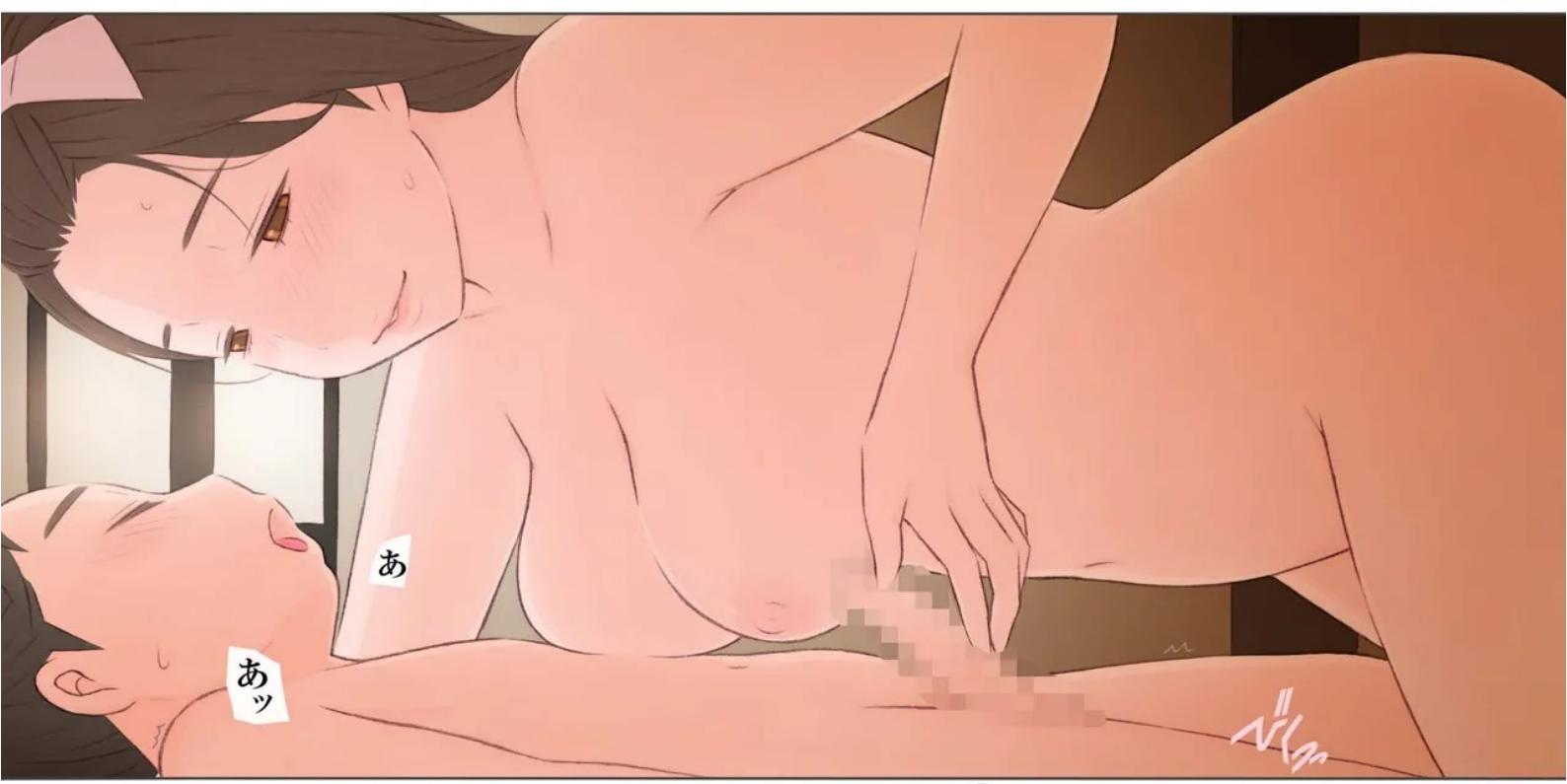
フフ

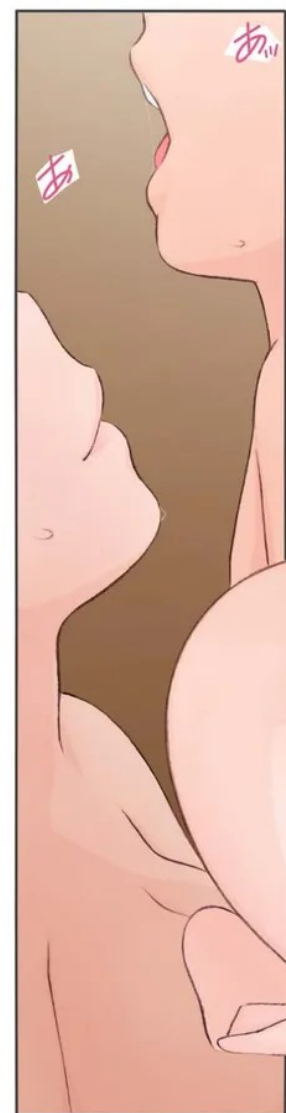
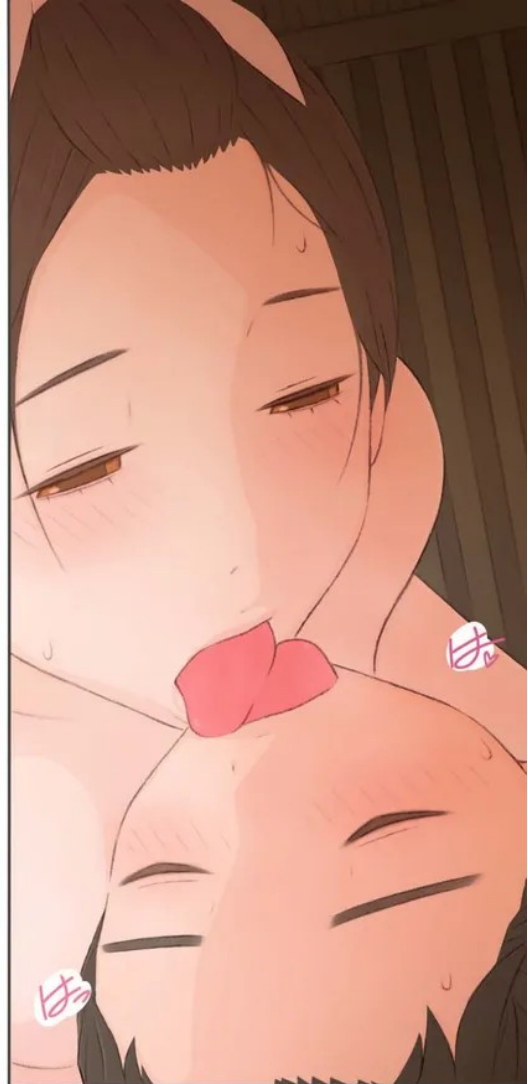
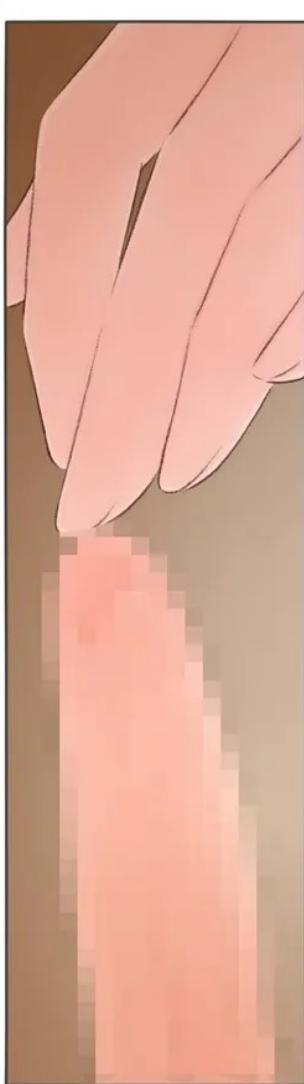
フフフ











フフ
どお?

では
こうしたら?

あ...

鈴鹿様あ

あ



一人で

していたのね

いつも

こうなった時



私のこと

考えながら?

言えないの?

フフ

それは

あ

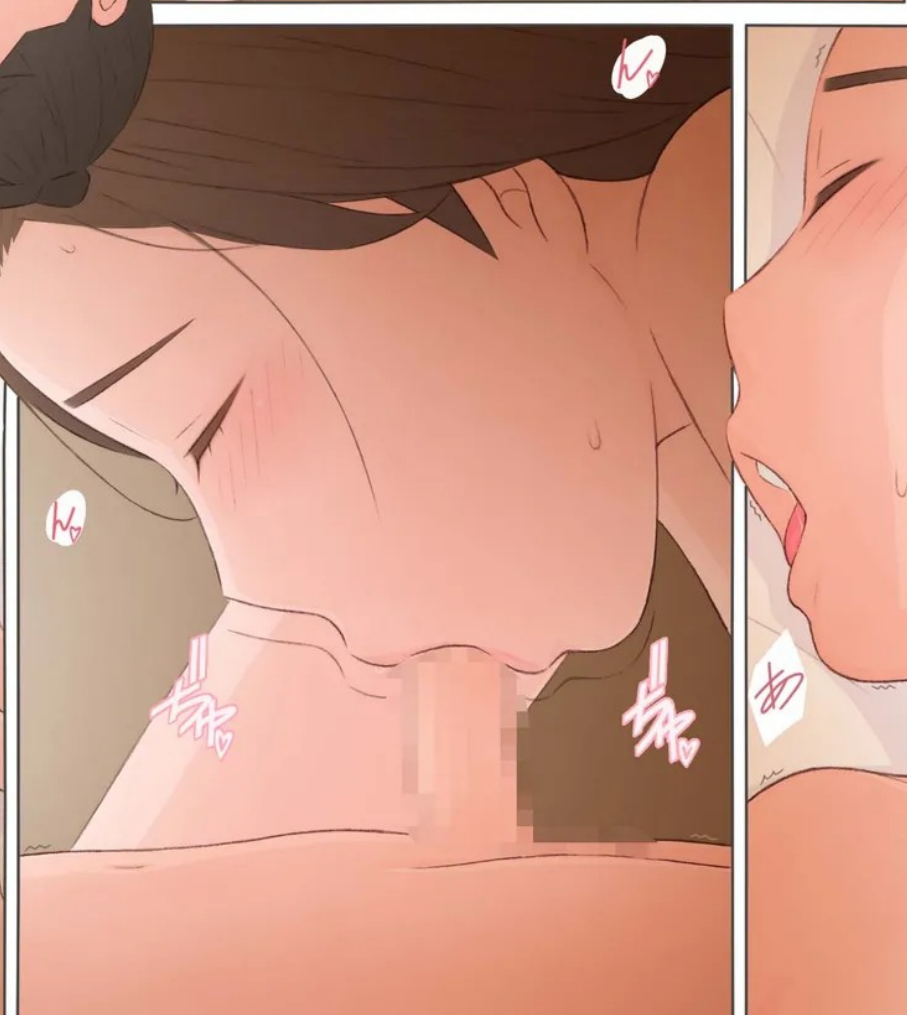
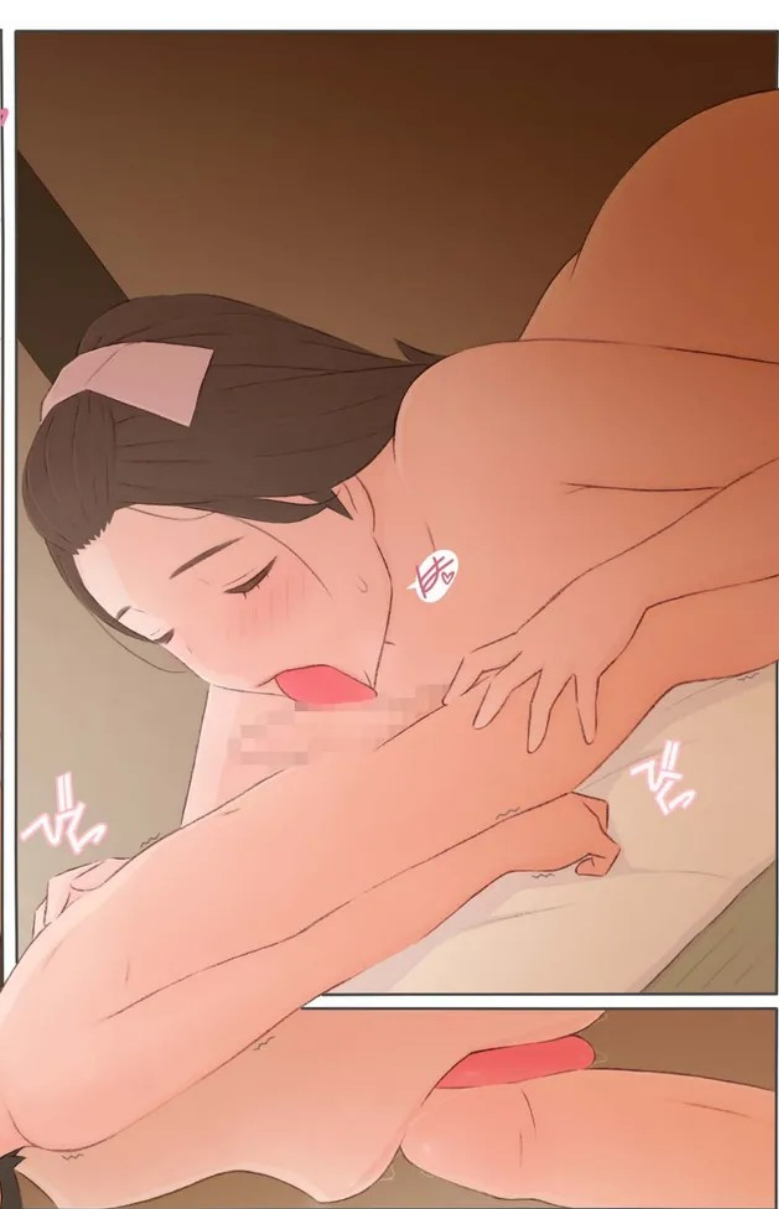
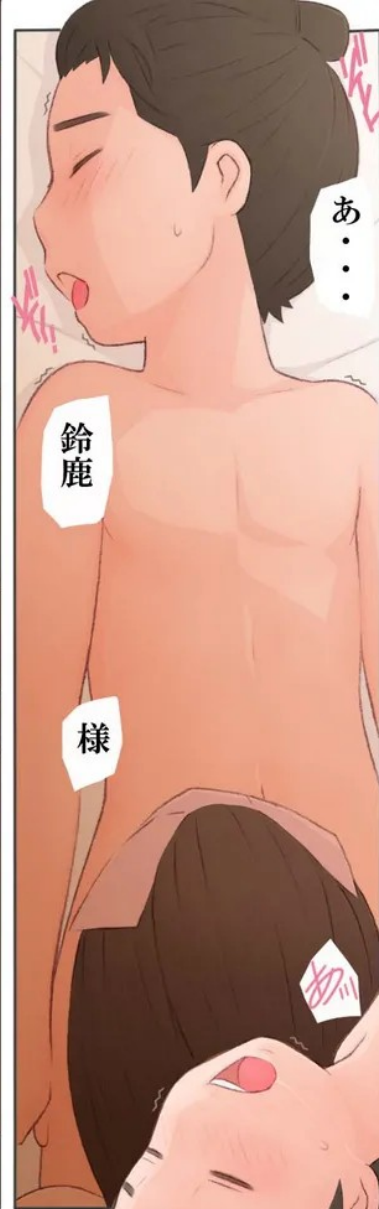


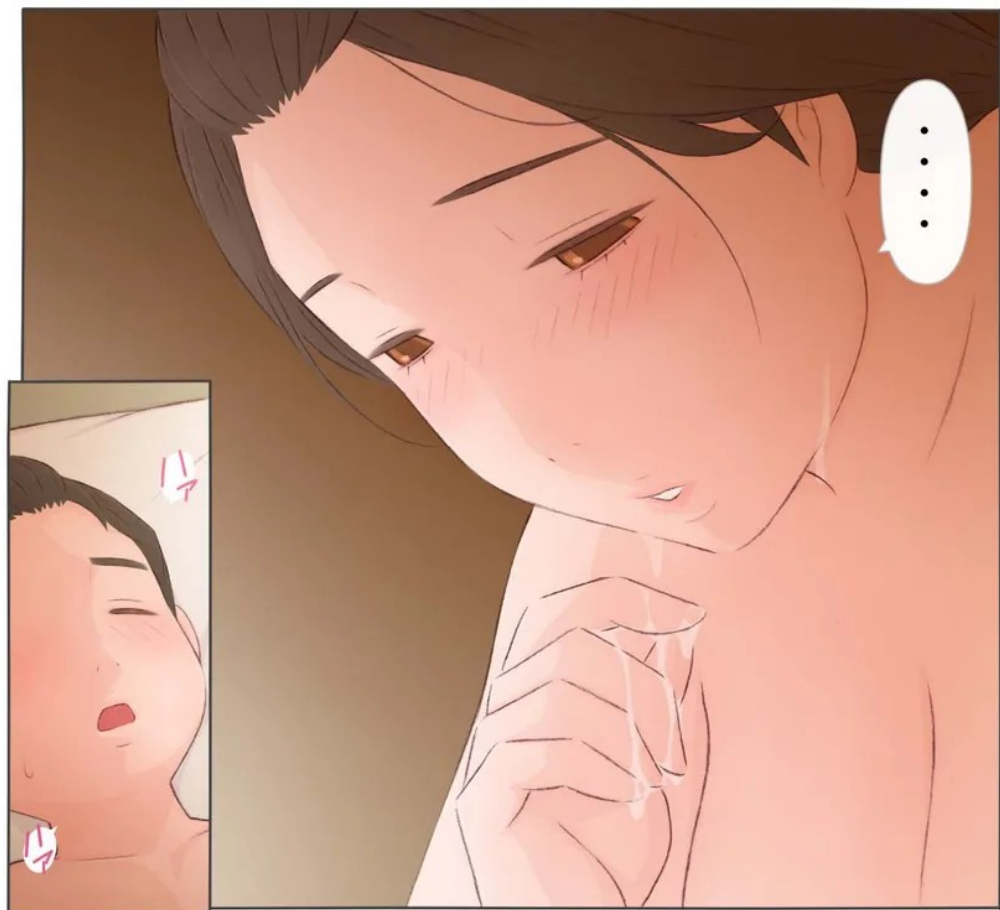
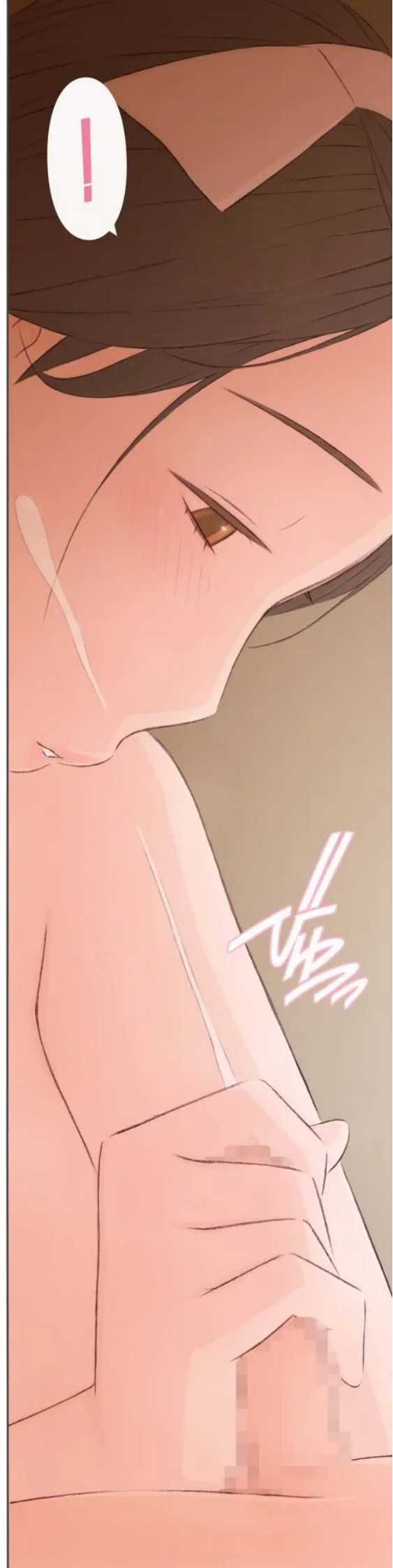
可愛い...

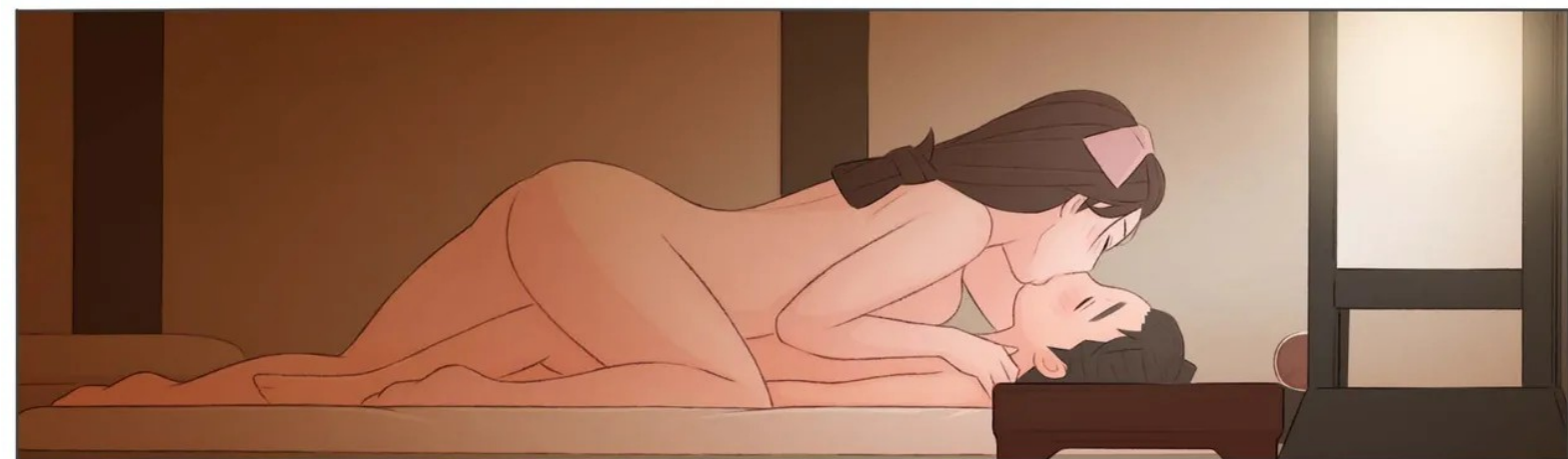
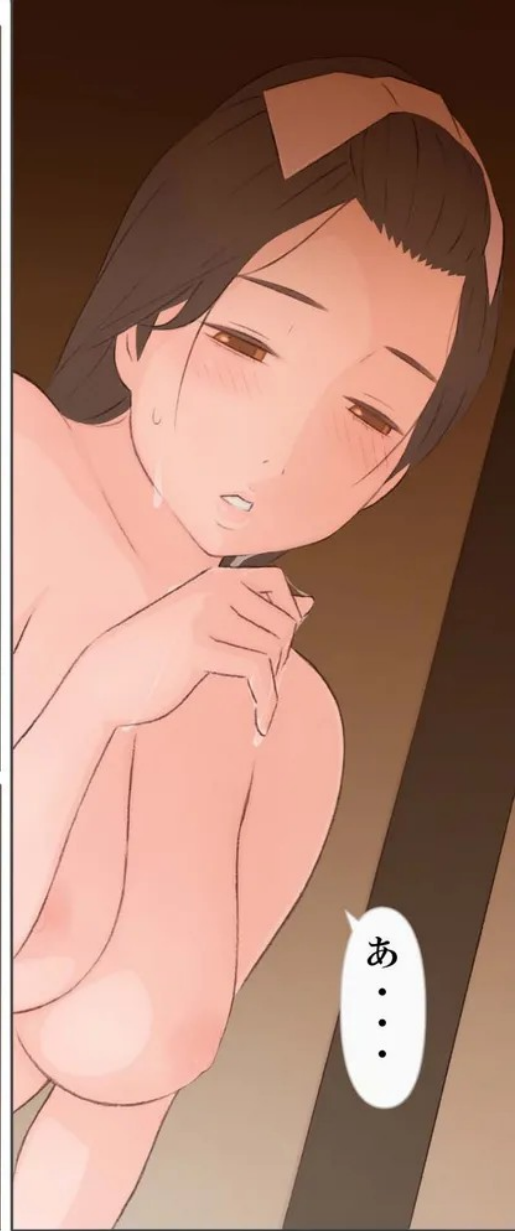
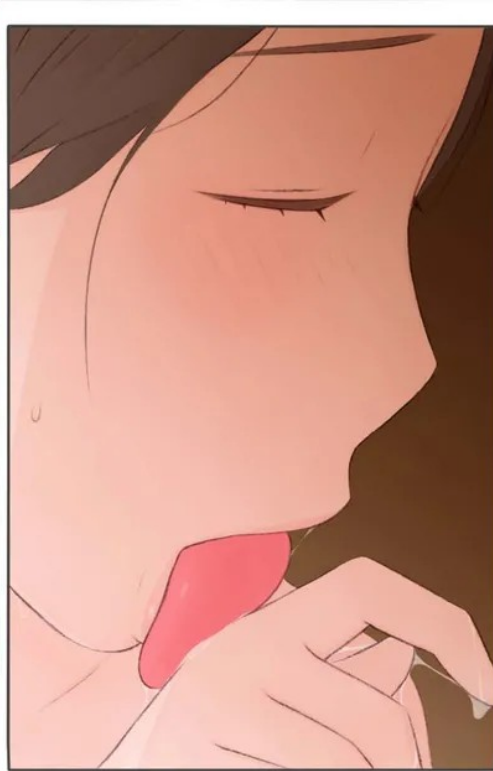
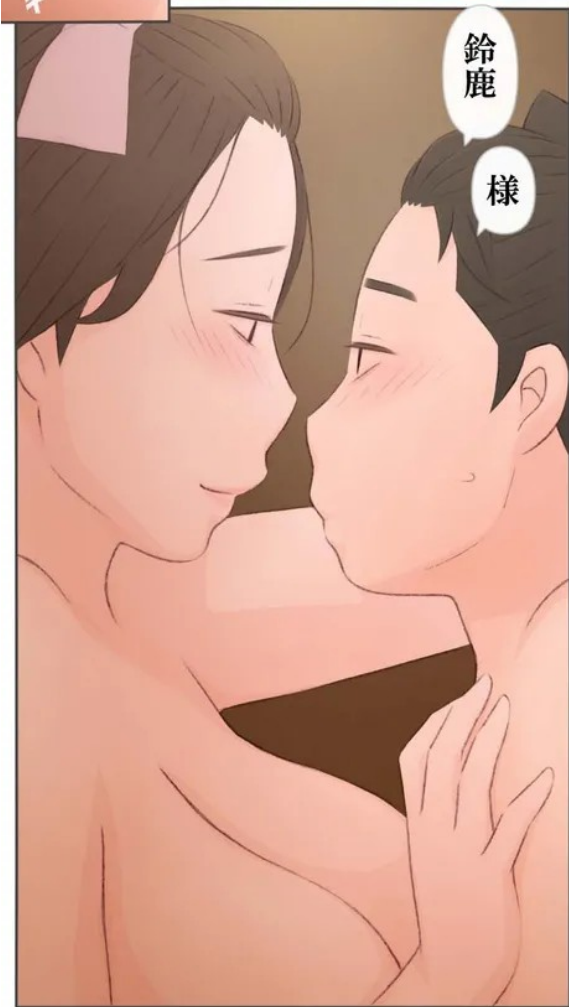
気持ちよく

してあげる

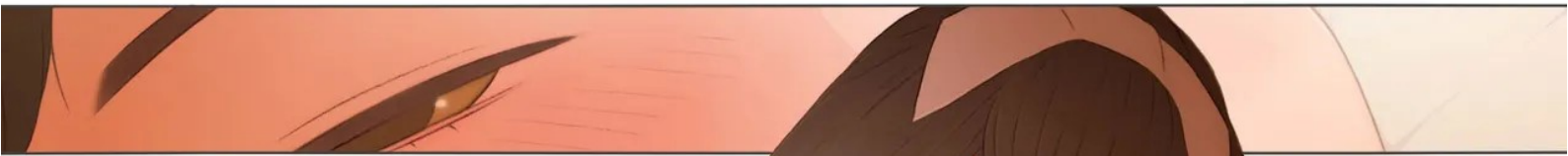




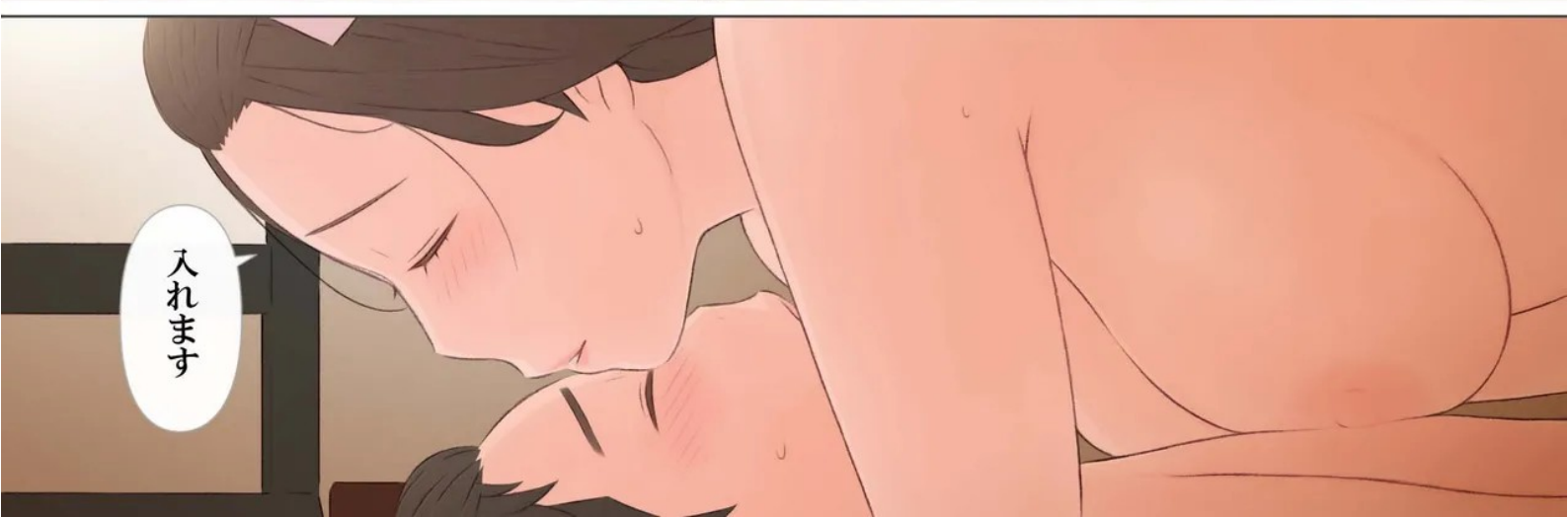








桃太さん



入れます

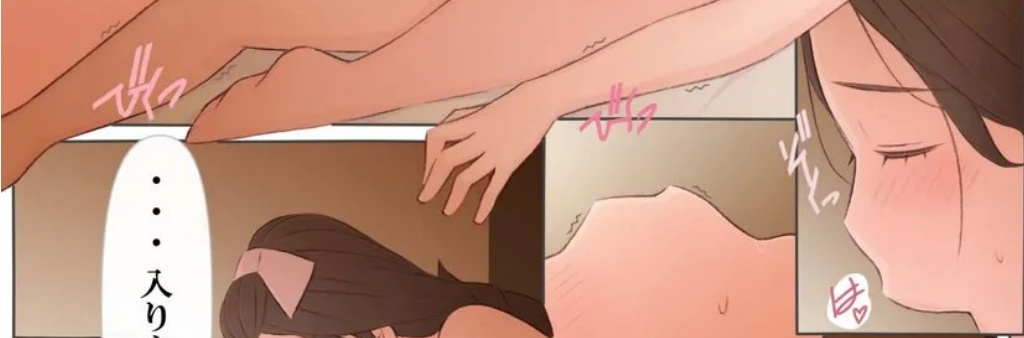


あ…



あ

あ



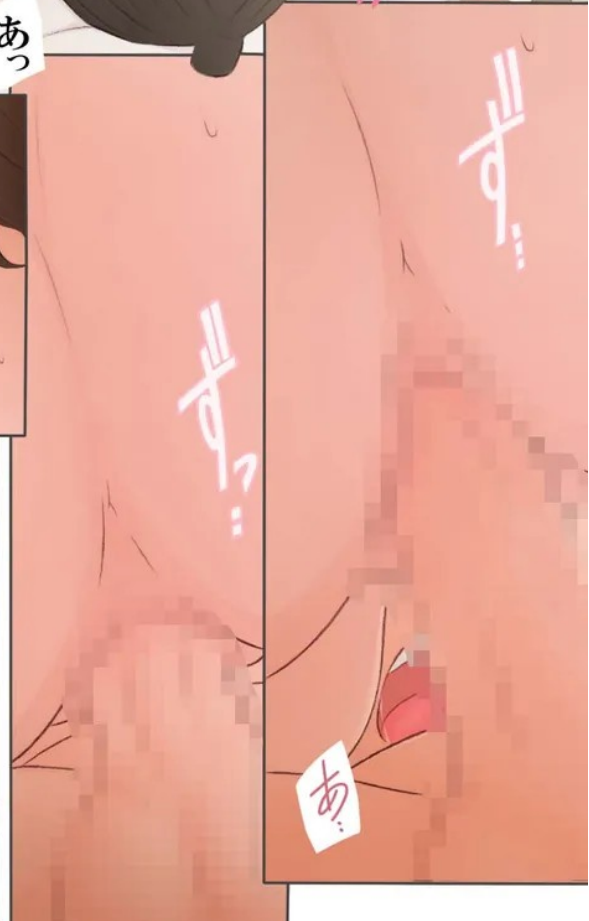
あ



…入りました

あ

あ



あ



鈴鹿の...

女の中
です

では

桃太さん

フフ

動きます

ね

これが

あ

あッ

あッ

最初は
...

ゆっくらと

鈴鹿
様



では

これは？

気持ちいい？

もちよ

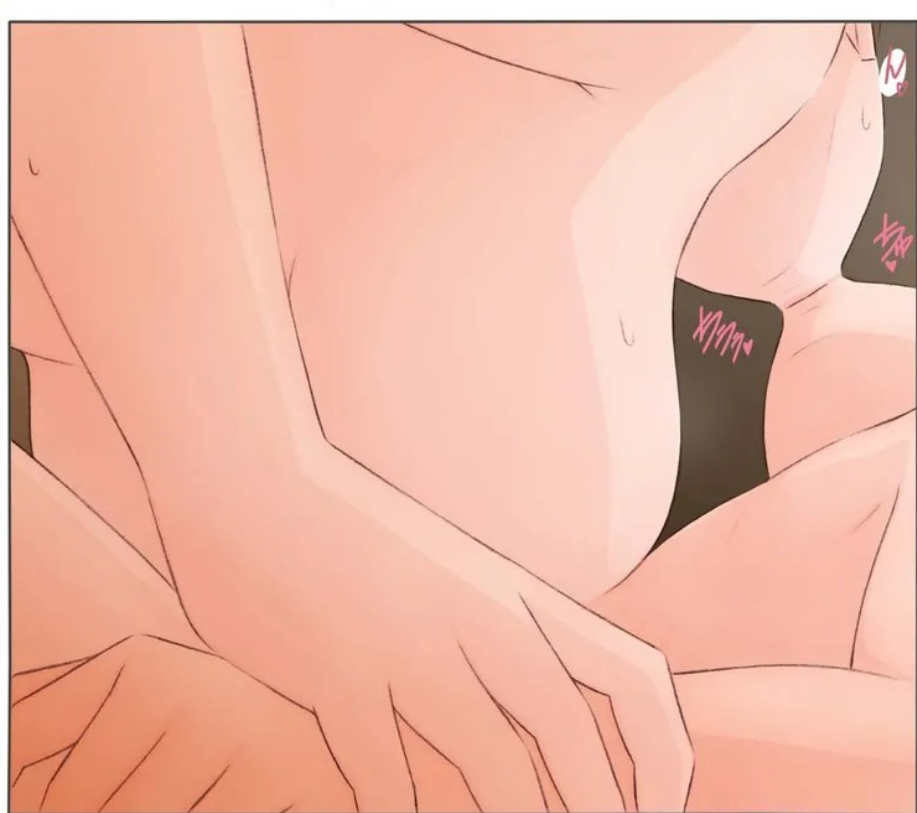
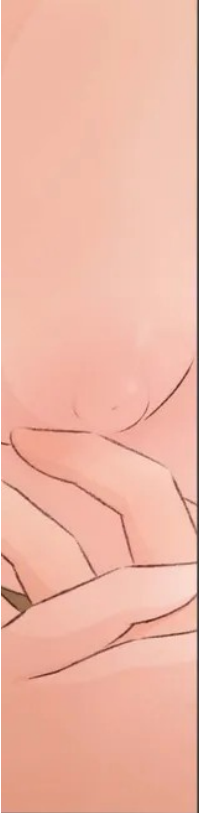
激しい方がいい？

どうですか

桃太さん









桃太さん

元気が

なくなりましたね

鈴鹿の中で

イって欲しかったのに

残念

あ

ご

ごめんなさい

...



はい

...



まあ

どうして

謝るの？

こんな事は

よくある事



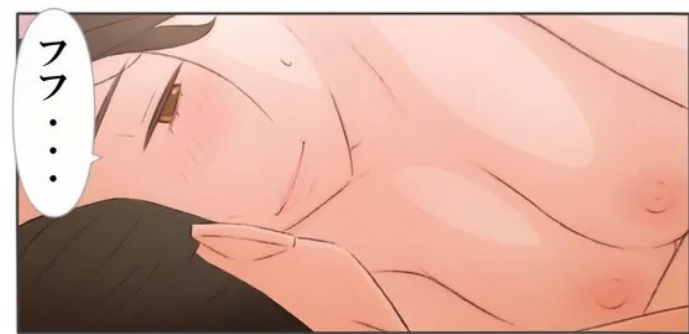
仕方がありません

こんな

忙しい所では

ましてや桃太さんは

初めてなのでから



次は

夜昼し続けに

思う存分

出来る場所で

...



鈴鹿様...

女の体が

嫁に行けなかった



あっ

鈴鹿様!



フフ

いいの?

こんな



桃太さん

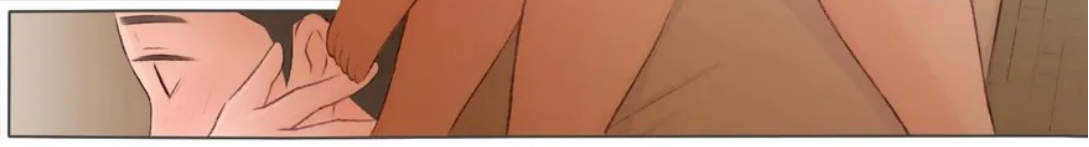
うれしい

でも



今は

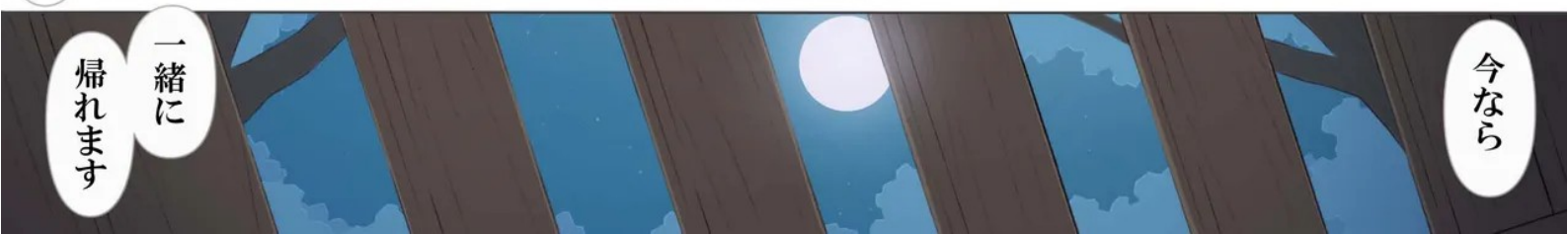
ダメ

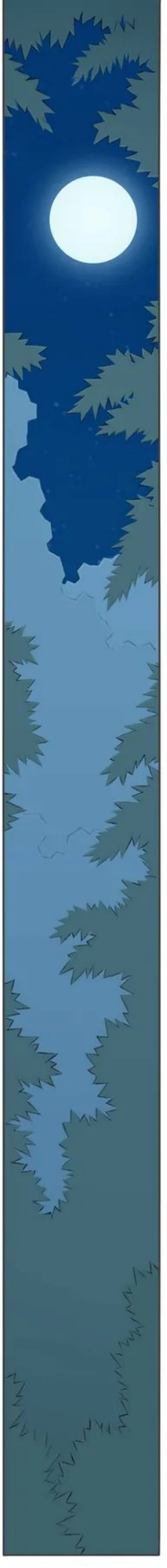
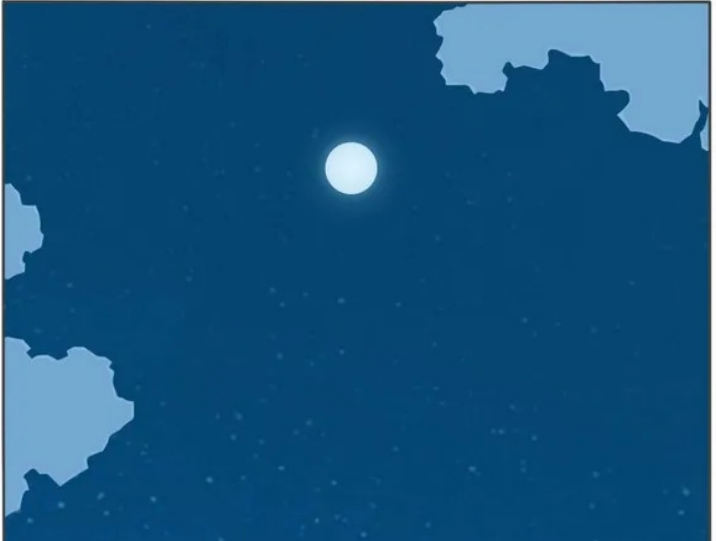


今なら

一緒に

帰れます







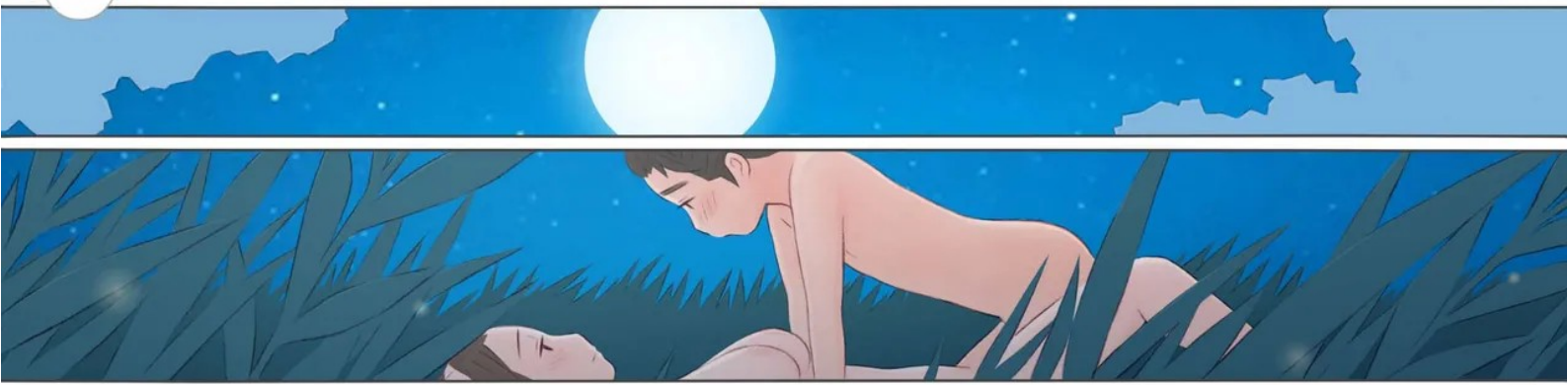


仕方のない子

...



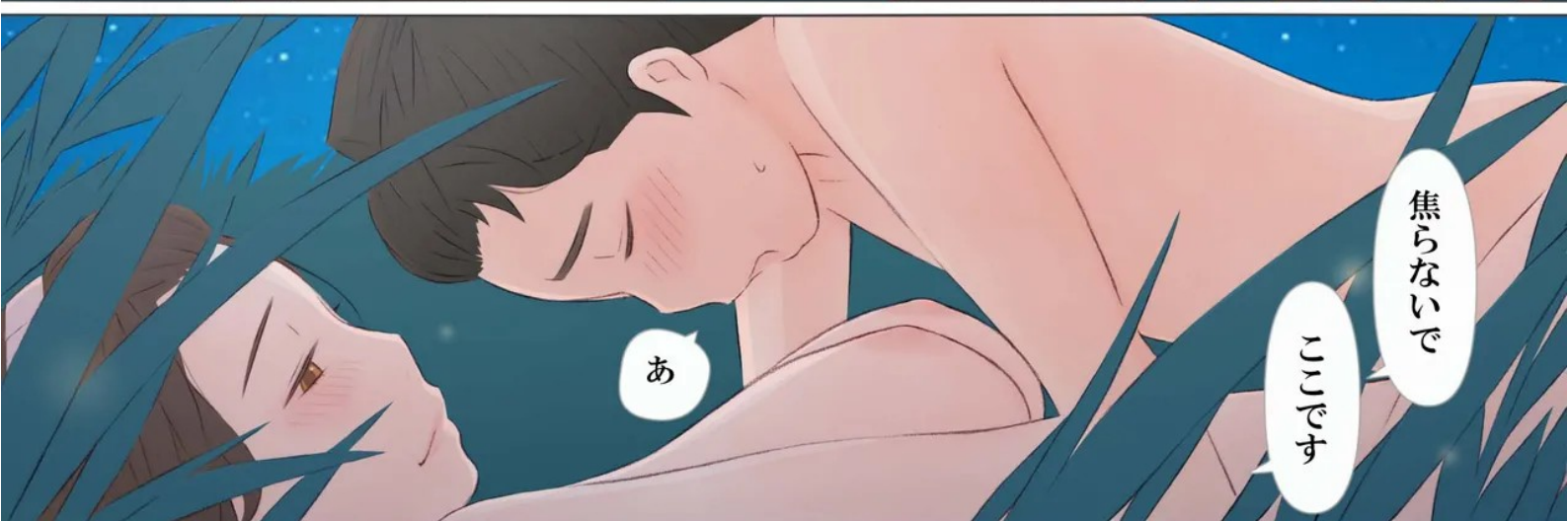
あっ



鈴鹿様...

さあ

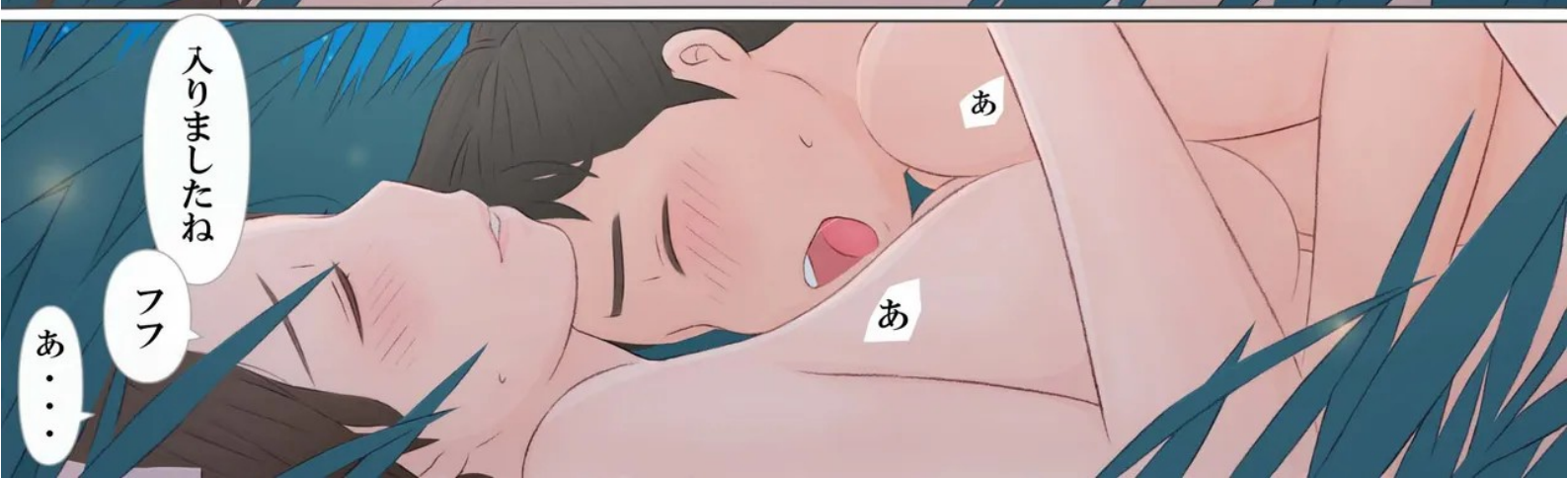
らららら



焦らないで

こゝです

あ



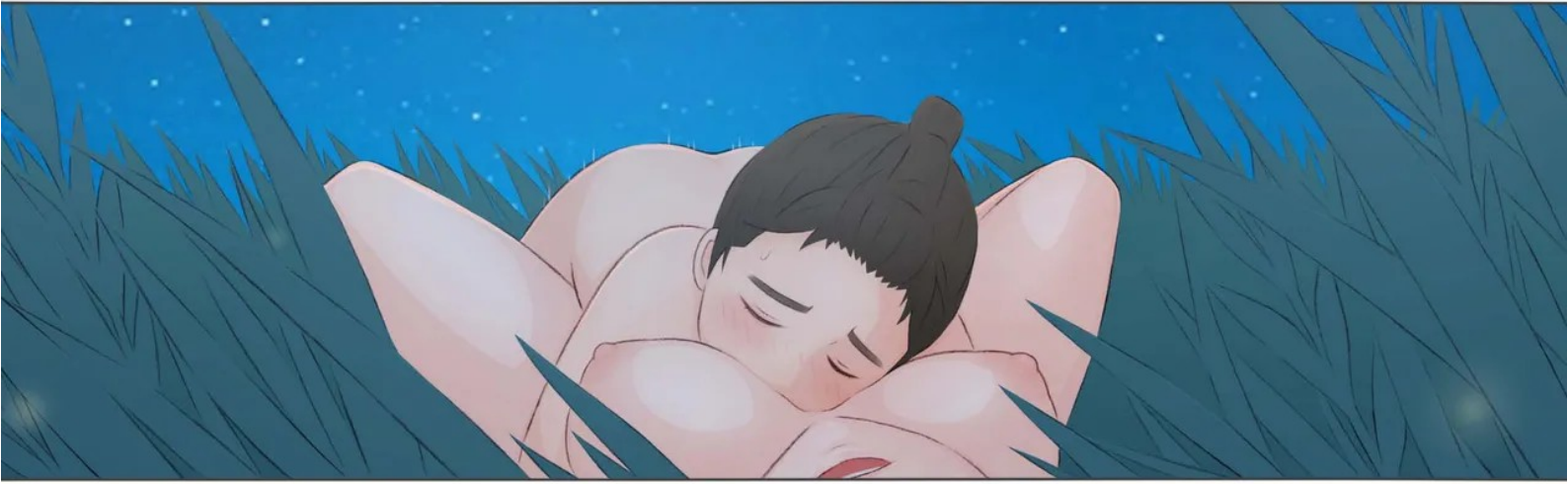
あ

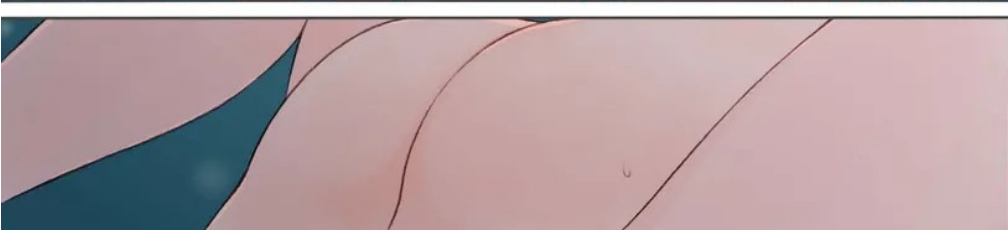
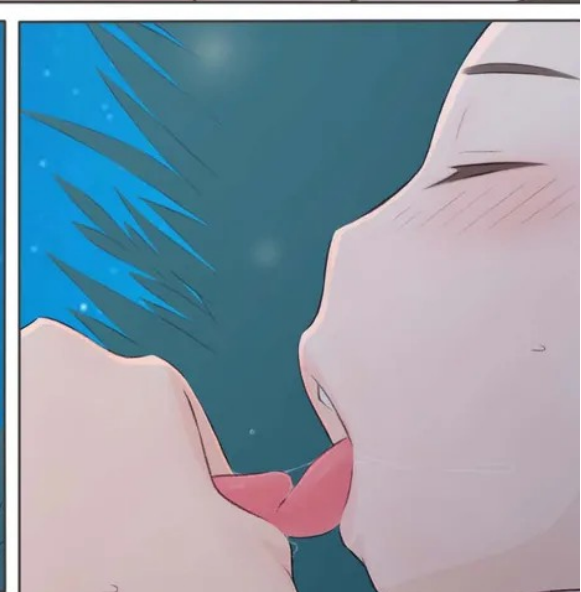
あ

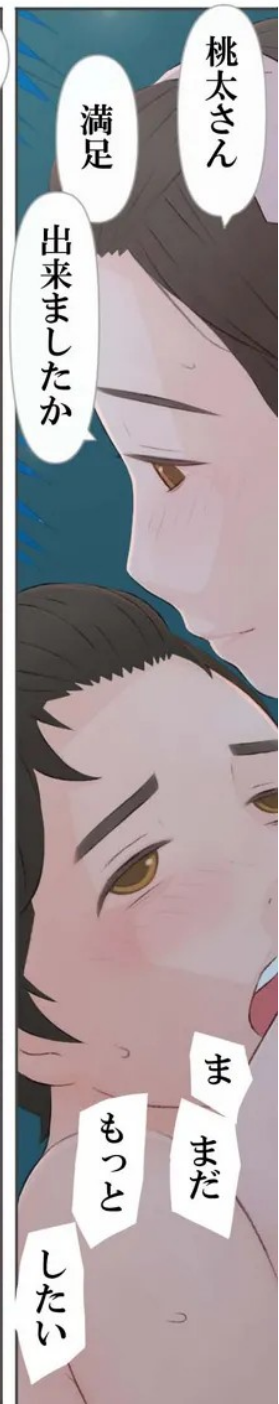
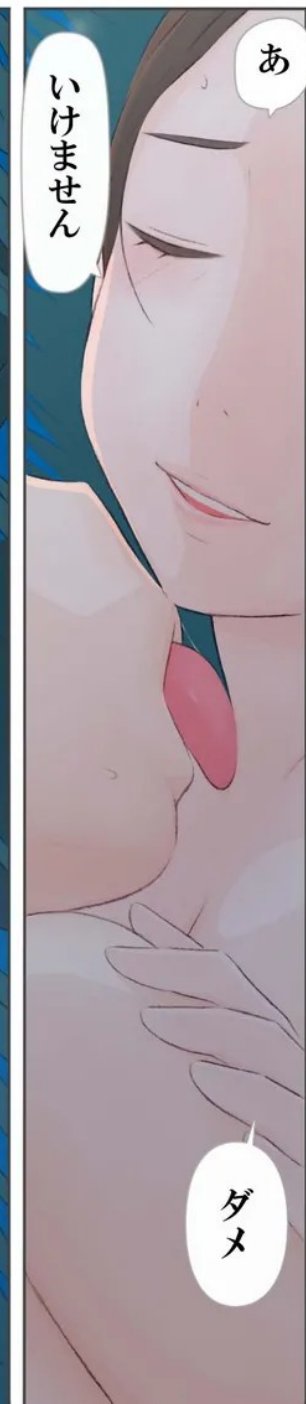
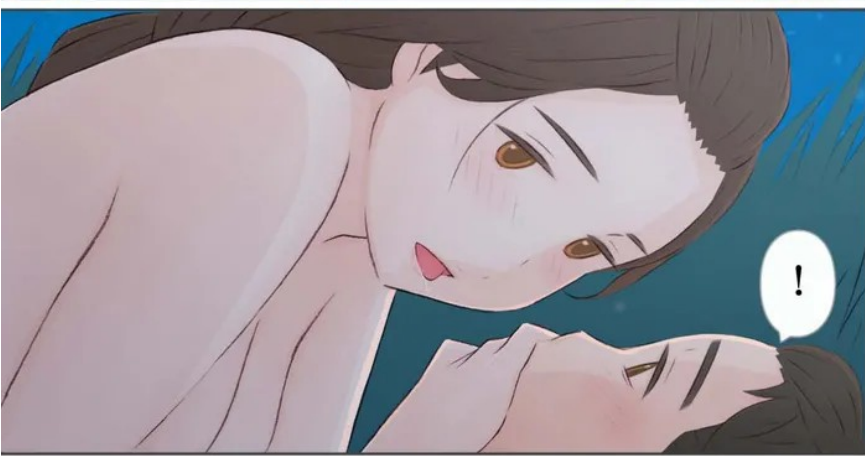
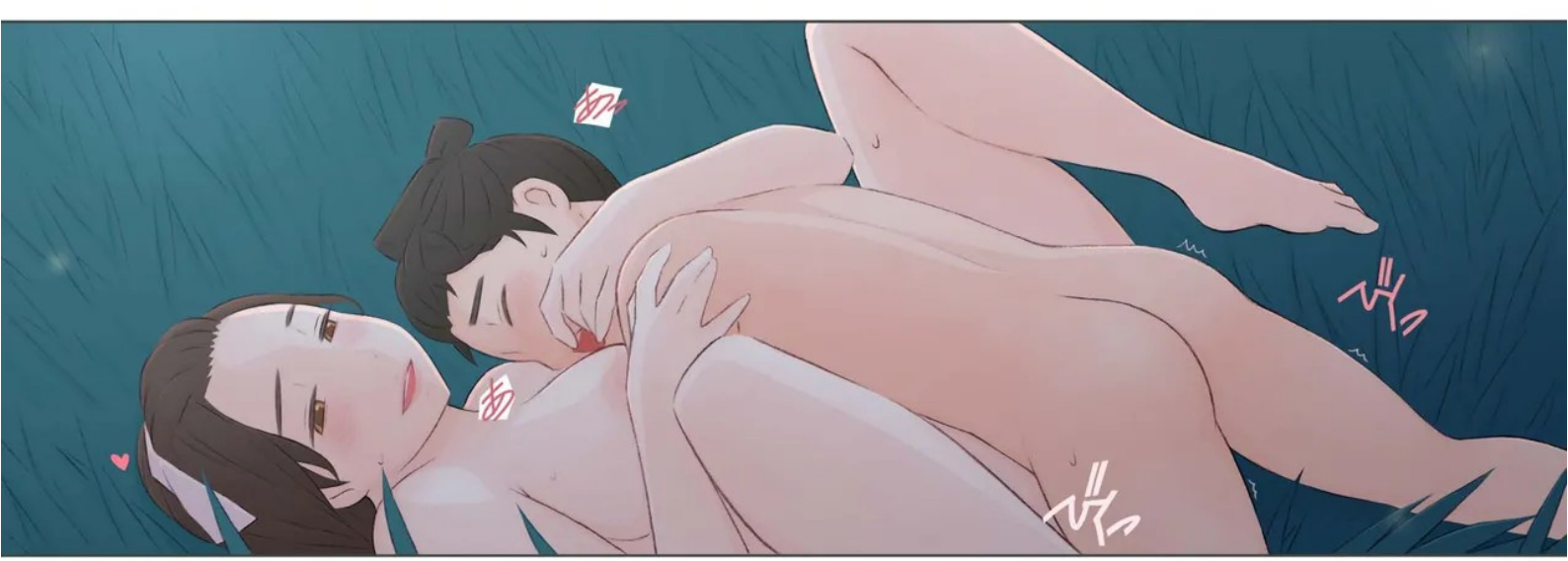
入りましたね

フフ

あ...









いいですね

いらしてください

うん

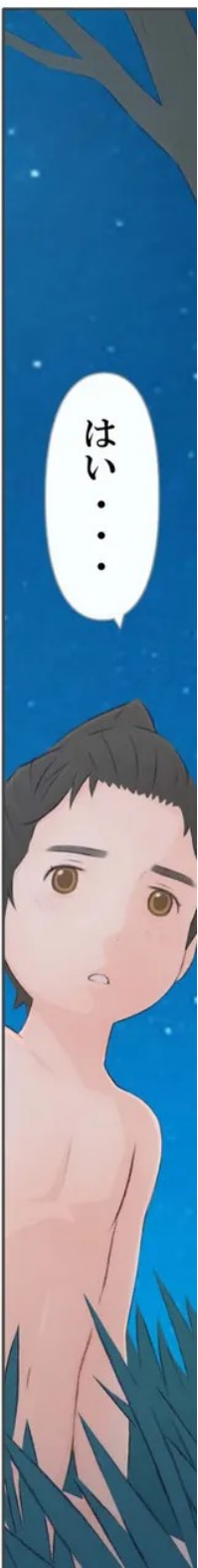


何か

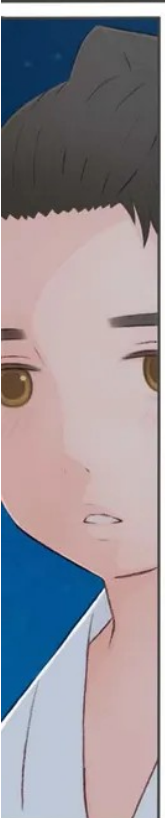
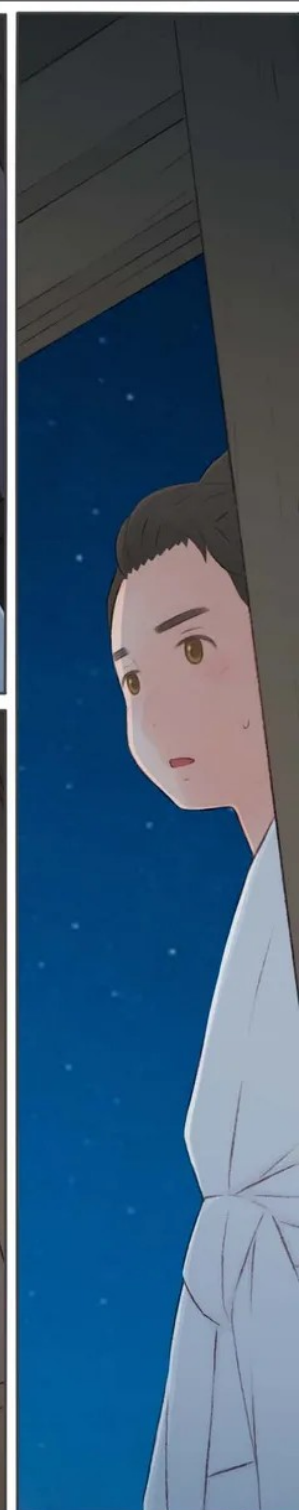
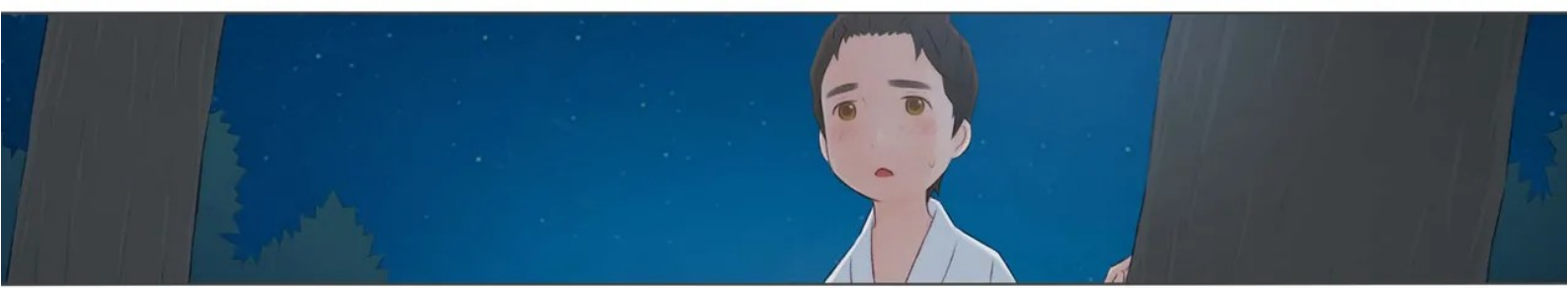
恐ろしいことが起きたのだ

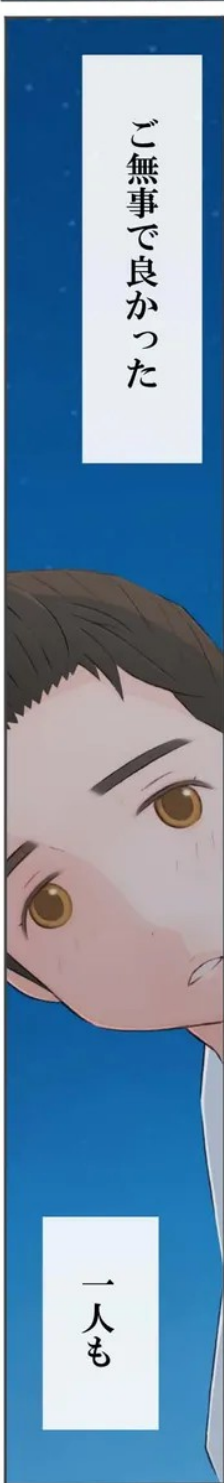
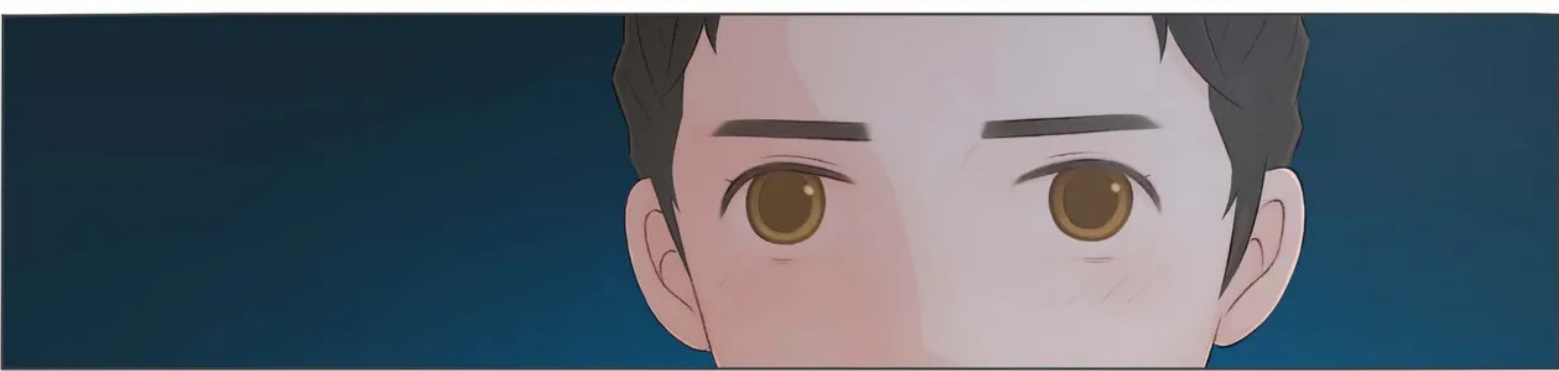
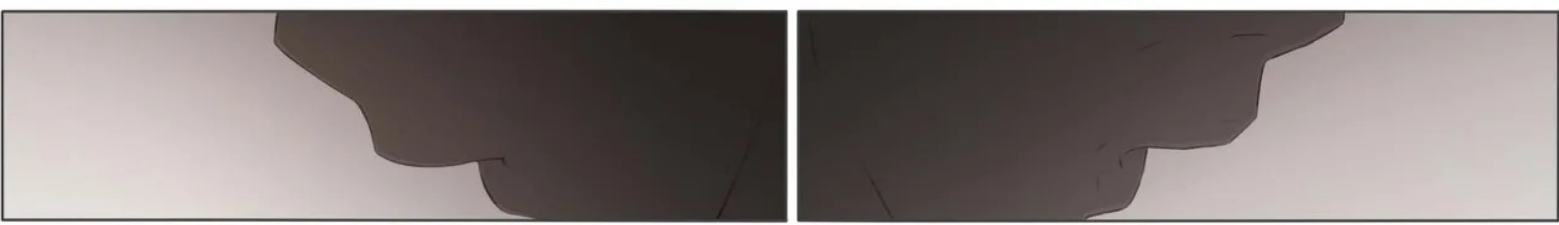
桃太は

そう感じた



はい……





ご無事で良かった

一人も



もう

大丈夫



逃してはおるまいな

はい

あのような連中を

よこすとはの

わしも

甘かったわ

あり得る事であった

ただ……

父上は

もうあの家には

戻って来られません

しかし許せん

逆ろうてみようかの

桃太のこと

「喜んで」

お引き受けいたします

父上

む

許せ

さあ

参りましょう

そろそろ

夜も明けます

のちに桃太は

小平に起きた事

自身の出生

すべてを

知ることになる

それらは

桃太は始めから

小平の事が

苦手だった

最後まで

好きには

なれなかった

やがて

桃太の想像を上回るものではあったが

動揺を誘うものでもなかった

小平のことを

思い出すことすら

なくなっていくた

逆に

鈴鹿への愛情は

より激しく

強く

なっていくた



本当の姉

今夜は私の事を

だと思って
抱いて

鈴鹿は

そう言った



遊びよ

そういう遊び

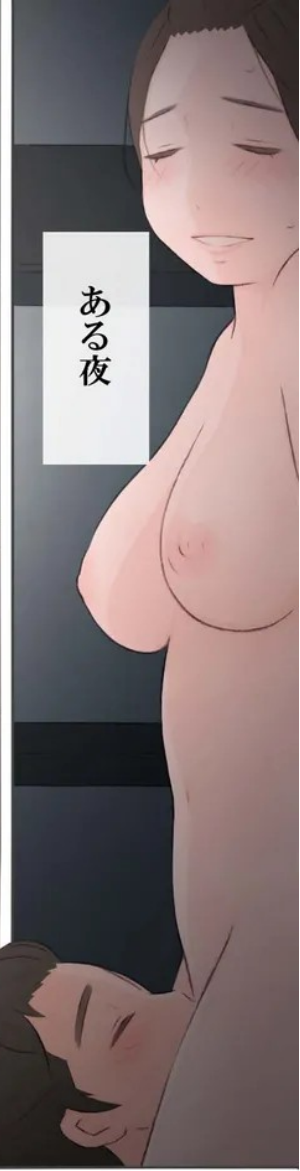
さあ

言ってみて



こんな事があった

え



ある夜



初めこそ

姉
上

姉
上

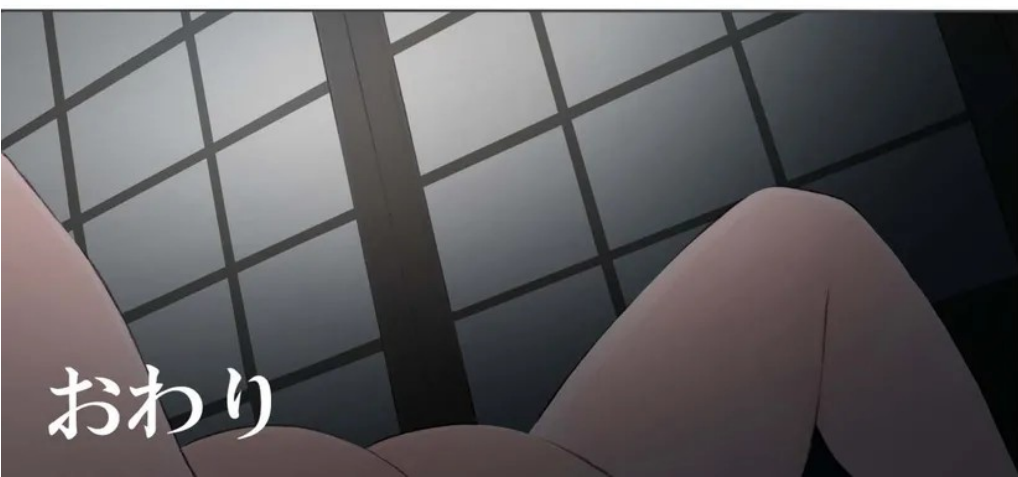
姉
上

少し

戸惑ったが

あ

桃太は



おわり



激しく

あ

興奮した

この度は「鬼の嫁」をご購入いただき誠にありがとうございます。
ございます。

明治時代に盆踊り禁止令なるものが出されてしまう
ほど、昔の盆踊りでは男女が自由に色々な事をして
いたようですね。

ぽんふあーず